

活動年鑑 16

2020.5- 2021.4

青年技術士交流委員会

活動年鑑 16 2020.5 - 2021.4

目次

- ・青年委員会 2020 年度活動報告
- ・例会グループ活動報告
- ・国際グループ活動報告
- ・サッカーグループ活動報告
- ・広報プロジェクト
- ・IT 担当

【例会活動報告書】

- ・2020/6 拡大委員会、懇親会
- ・2020/7 内部向け企画 「Zoom Webinar によるパネルディスカッション」
- ・2020/9 内部向け企画 「さあ、才能(じぶん)に目覚めよう～ストレングス・ファインダーと心理的安全性～」
- ・2020/11 部門横断企画 「技術継承(伝承)について考えてみよう(ウェビナー)」
- ・2020/12 部門横断企画 「技術士のための交渉力向上講座～ゲーム理論を添えて～」
- ・2021/1 部門横断企画 「もう誰かのせいにしない。仕組みを変えるための要因分析」
- ・2021/2 修習ガイダンス 2021 「パネルディスカッション」
- ・2021/3 部門横断企画 「すごいチームのつくりかた」
- ・2021/3 内部向け企画 「帰ってきたコミュニケーション講座(オンライン Ver)」

【地域本部活動報告書】

- ・統括本部
- ・北海道本部
- ・東北本部
- ・北陸本部
- ・中部本部
- ・近畿本部
- ・中国本部
- ・四国本部
- ・九州本部

【青年委員自己紹介】

【青年委員会名簿 2020/7-2021/6】

青年技術士交流委員会統括本部 2020 年度活動報告

青年技術士交流委員会 委員長 竹内将人

青年技術士交流委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されている。また、委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含む。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施している。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延や緊急事態宣言の発令など、従来にはない劇的な社会的環境変化があり、委員会活動へ大きな影響が生じた年であった。

主な活動を以下に記す。

1. 各種例会の開催

青年技術士交流委員会の例会は、主として、参加者自身がアウトプットすることを通して研鑽できる場、参加者同士が交流できる場を提供しており、グループワークや講演会を月に 1 回程度の頻度で開催した。

2020 年 3 月より会議室での例会開催を見送っており、現状も再開の見通しは立っていない。

各例会の準備状況、当日の状況といった各活動の内容については青年技術士交流委員会 HP に公開した。また新型コロナウイルス感染症の影響による延期についても同様に HP に公開した。

2. 特別例会

2020 年度は、例年開催している青年技術士交流委員会主催『一次・二次試験合格者交流会（特別例会）』の実施を見送った。新型コロナウイルス感染症の影響により春先の開催を見送り夏の延期開催を検討したが、会議室での集合型例会の再開のめどが立たず中止とした。

2021 年度はオンラインでの開催を行う。

3. 小学生対象理科教室の開催

2019 年度は、例年開催している春休みの小学生を対象とした「理科教室」の実施を見送った。オンラインで学べる理科教室動画を作成し、公開に向けて準備を進めている。

4. 各地域本部の青年技術士交流委員会との交流

2020 年 6 月 27 日に各地域本部とのオンライン交流会議を開催するとともに、2020 年 10 月 4 日に名古屋で計画されていた技術士全国大会向けの青年技術士交流委員会企画が中部本部の青年技術士交流委員会により開催された。これらの中で各地域本部の青年技術士交流委員会の活動内容を共有した。

青年層は企業内技術士も多く、出張や異動転勤などに伴う地域間の移動もある。各地域本部の青年技術士交流委員会とのネットワークを活かし、青年層技術士のサポートにも努めていく。

5. 国際交流活動

例年開催されている日韓技術士国際会議の親善サッカー大会は中止となった。

2020年11月18日～26日にベトナム（ダナン）で開催されたASEAN技術者協会連合国際会議『CAFE038 YEAFE027』は、オンラインでの開催となり、これを聴講した。オンラインでの開催であったため、例年開催されているYEAFE0の交流企画は行われなかった。

国際委員会から依頼を受けきっかけづくりを行った日豪交流は、日本技術士会、国際委員会での推進の目途が立っていない。一方、Engineers Australiaの若手技術者との縁を活かし、有志にて若手技術者での交流を行うこととした。

同様に国際委員会から依頼を受け委員を派遣したFEIAP（The Federation of Engineering Institutions of Asia and the Pacific）のYouth Talents Development Working Groupでは、アジア太平洋地域の若手技術者向けのオンラインセミナーを5回シリーズで開催し、パネリストとして副委員長2名が登壇し、専門家としての知見を発信した。

6. 研修委員会所轄委員会行事への協力

2020年2月13日にオンラインで開催された「技術士を目指そう、修習ガイダンス2020」～技術士第一次試験合格者・JABEE認定課程修了見込者（修了者を含む）～において、パネル討論会を企画・運営し、受験に向けたモチベーション向上や日本技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築いた。

7. 情報配信の取り組み

青年技術士交流委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2019年度青年技術士交流委員会活動年鑑を制作した。

また、青年技術士交流委員会のホームページ、FacebookおよびTwitterを活用し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告を積極的に行った。ホームページは従来のものに加え、日本技術士会サーバーにも所定のフォーマットで作成した。

今年度はメディアを活用した活動情報の配信を目指し、例会活動のプレスリリースを開始した。これまでに建設通信新聞社等の複数の新聞社に取り上げられている。

8. オンライン会議への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン会議システムを用いて運営委員会及び例会開催を開催した。オンライン化にあたりマニュアル類の整備を行った。

9. オンライン会議への取り組み

執行部を中心とした国際活動検討タスクフォースに対して、これまで青年技術士交流委員会で行ってきた国際活動およびその意義等について説明を行った。

これらの活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催した。

以上

例会グループ活動報告(2020年5月～2021年4月)

例会グループリーダー 臼井 朗

1. グループメンバー(敬称略、順不同)

吉浦、小塚(隆)、井口、後藤、原田、吉岡、岩部、杉山、臼井

2. 活動目的

今期も例年と同様、“円滑な例会運営と負荷軽減”を目的として活動した。例会グループの具体的な仕事は、前期と同様に以下の5つとした。

- ・ 例会準備が順調に進んでいるかの確認
- ・ 外部アンケートの実施と集計
- ・ 内部アンケートの実施とまとめ
- ・ 前月例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映
- ・ 例会担当に ownCloud 整理依頼

今期は2020年当初からのコロナウィルス感染症拡大の影響により、例会は会議用ソフト(ZOOM)によるウェブ上での開催を余儀なくされたが、そのように変化が目まぐるしい中でも、積極的に業務の効率化を図った。

3. 活動報告

2020年度に実施した例会は以下のとおりである。

実施年月	分類	例会
7月	内部	Zoom Webinar によるパネルディスカッション
8月	内部	例会決め大会
9月	内部	さあ、才能(じぶん)に目覚めよう ～ストレングス・ファインダーと心理的安全性～
11月	部門横断	技術継承(伝承)について考えてみよう(ウェビナー)
12月	部門横断	技術士のための交渉力向上講座～ゲーム理論を添えて～
2021年1月	部門横断	『もう誰かのせいにならない。仕組みを変えるための要因分析』
2月	部門横断	技術士を目指そう 2021年修習ガイダンス
3月	内部	帰ってきたコミュニケーション講座(オンライン Ver)
3月	内部	コロナ時代を生き抜く「すごいチームのつくり方」

<例会の活動概要>

例会は会議用ソフトウェア(ZOOM)によるウェブ上での開催を前提とした例会となった。そのような中でも充実した例会の開催ができるよう、青年メンバー一丸となって尽力した。概要を以下に記す。

①会議用ソフト ZOOM を使用した例会の開催(ウェビナーの開催)

今期の例会では機械振興会館で密集状態となることを避けるため、会議用ソフトウェア(ZOOM)を使用したイベントを開催した。

開催当初は「アウトプットが難しい(模造紙の利用ができない)」、「自由な発言が難しい(発言のタイミング)」、「時間管理が難しい」などの懸念事項が出ていた。しかし、会議用ソフトに附随しているグループワークの実施に有効な機能(ブレイクアウトルーム、画面共有)をフル活用することによって、これまで以上に質の高い例会の開催ができたといえる。

一方、時間管理についても、休憩時間を細かく設けることで、当初の予定時間を超えないよう努め、間延びを防いだ。(適宜休憩時間を削除してイベントを進行。)

以上の取り組みによってこれまで同様、高い満足度を維持することができた。

② 外部講師を招いたイベントの開催と参加者の募集

今期は、竹内委員長や岩部広報 G リーダーを始め、多くメンバーの尽力により技術士会に関わりがなかった人たちを講師また参加者として例会に参加してもらうことができた。

特に11月例会では技術士会に所属する技術者(向井氏、鮫島氏)の他、建設コンサルタントの若手の会の代表に(伊藤氏)を招き、つながりを作ることができた。また3月例会は、竹内委員長を中心に外部講師(斉藤氏)を招き、「すごいチームの作り方」に関して全国の委員も交えた盛大な例会を実施した。

今後も積極的に青年委員会の外へアプローチをしていくことで多様な例会の開催、人財の獲得につなげたい。

③ 「オンライン」という環境の活用 (地域本部、海外との交流の活性化)

今期は「オンライン」という環境を活用し、例会に他の地域本部や海外の技術者を交えて例会の企画、開催を実施した。9月例会「あなたの中の天才を目覚めさせろ! ~ストレングスファインダー~」では、全国の地域本部の方を招き、竹内委員長自ら講師となり、全国規模の例会を開催した。また、5月の日豪交流例会では河野副委員長が中心となり、オーストラリアの技術者との交流イベントを計画した。残念ながら今回はオーストラリア側の事情により見送りとなったものの、企画まで到達できたことは、大きな前進である。

④ アンケートの効率化と活用

オンライン環境に伴い、アンケートの徴収の効率化も図った。具体的には「Googleform」を利用してアンケートを作成し、参加者に記入、提出してもらう形をとった。当初はアクセスの制限等で操作ミス等があったものの、現在は大きな問題はなく運用が進んでいる状態である。しかし、アンケートの作成方法が口伝であり、マニュアル等が十分に整備されていない状態である。また、アンケートの集計方法も確立されていないため今後はマニュアルの整備、改善が必要である。

4. 次年度に向けて

今年度は web 上でも質の高いイベントが開催できたという実績を多数残すことができた。しかし、未だオンライン環境でのイベント開催は始まったばかりであり、開拓の余地は充分にある。また会議ソフト等のツールも日々進化を続けている。今後もコロナウィルスの影響は続くと思われるため、今期の実績をもとに、「内容の充実した例会の開催」、「青年委員会の自己研鑽に資する例会の開催」ができるよう努めたい。

【今後の必要な検討事項】

・「オンライン」環境の利用拡大

オンライン例会が今後増加して行くことは確実である。そのため、これまで行ってきたグループワーク中心の例会を継続していくことはもちろん、オンラインテクノツアー等のイベントも他団体で実績があるため、積極的に情報共有を図りたい。また他地域本部や他の団体との交流についても活性化し痛い。

・ファシリテーターへの負担増

グループワークを主導するファシリテーターは毎回青年から一人ずつ(グループにつき)出している。ファシリテーターは自己研鑽の貴重な場である一方、例会の当日は「議論の進行」や「アウトプットのまとめ作業」、また内容の熟知しておく必要があるなど事前準備もあり、オンライン環境となりかなり負担が大きくなっている。今後はファシリテーター業務の負担軽減対策について検討していく必要がある。(例:アウトプットまとめにスプレッドシートの導入でアウトプットを共同制作……)

以上

2020 年度国際グループ活動報告

国際グループリーダー 田中雅人

1. グループメンバー

竹内、田中(仁)、河野、高木、水柿、大園、明山、小和田、高瀬、田中(雅)

2. 活動目的

本グループは下記業務を円滑に進め、参加者相互の親睦を深める活動を行うことを目的とする。

- (1) 公益社団法人日本技術士会の企画立案に対する提言及び協力
- (2) 若手技術士の国際感覚の醸成に向けた研鑽事業の企画・実施
- (3) 諸外国の技術者組織間の国際交流の推進
- (4) 技術者向け国際会議への参加
- (5) 公益社団法人日本技術士会の各地域本部のメンバーに対する国際活動機会の提供

3. 活動報告

3-1. FEIAP 若手育成ワーキンググループ

2021 年に、Young Engineer Exchange(YEx)と題した各国若手エンジニアの向けのイベントを日本で開催することを予定していたが、コロナ禍のため中止となった。また、本 WG の主宰でオンラインパネル討論会を開催し、日本の青年委員会からもメンバーがパネラーとして登壇した。パネル討論のテーマを含めた実績は以下の通り。

オンラインパネル討論実績

第 1 回：2020 年 5 月 15 日 Covid-19

第 2 回：2020 年 6 月 20 日 Education、田中(仁)副委員長がパネラーとして登壇

第 3 回：2020 年 9 月 12 日 ICT

第 4 回：2020 年 10 月 24 日 Disaster

第 5 回：2020 年 12 月 17 日 Environmental、河野副委員長がパネラーとして登壇

3-2. CAFE038

CAFE038 は 2020 年 11 月 18-26 日にベトナムの主宰でオンラインにて開催された。CAFE0 でのウェビナーには青年委員会のメンバーも参加した。CAFE039 は、2021 年にブルネイでの開催が予定されている。

3-3. 日豪交流

オンラインでのワークショップを開催予定である。日豪若手有志による主宰であり、青年委員会からもメンバーが参加する。2021 年 5 月 23 日に開催予定であったが延期となった。

4. 今後の計画

会員の自己研鑽に資するような CPD 行事としての国際活動を目指す。コロナ下においてはオンラインを中心に各国との交流を続け、コロナ収束後は現地開催でのイベントに参加し組織間交流を深める。構築したネットワークを活用し、国際感覚を醸成するための会員向けイベントの企画・開催を行う。

以上

2020年度 サッカーグループ活動報告

サッカーグループリーダー 後藤 洋之

1. グループメンバー

後藤、鈴木、山本

2. 活動の背景と目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会（2007年12月）」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

3. 活動報告

昨年の3月頃より、新型コロナウイルス感染症が全国的に急拡大した影響により、毎年の恒例行事であった「新潟酒の陣2020」の中止と併せ、北陸本部練習会も中止することを決定した。それ以降も新型コロナウイルス感染症の影響は終息の見通しが立たず、サッカー練習会は、2020年1月25日に統括本部で開催した日韓サッカーお疲れ会以降、開催をしていない状態である。練習会開催の見通しについて、グループメンバーで話し合いを行ったが、サッカー練習会は屋外イベントに該当し、大人数での接触等も想定されることから、開催は難しいと考えており、本会より活動指針が出されていることも踏まえ、当面の間は活動を控えることを決定している。

4. 今後の活動・展開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、練習会等の開催については引続き見合わせたい意向である。今年10月には第50回日韓技術士国際会議（仙台）が開催される予定となっているが、オープニングセレモニーとして行う親善サッカー大会の開催も含め、日韓技術士交流委員会の方で開催可否の検討を行っている状況である。当グループとしては、これまでの練習会についても開催が出来ていなく、今後も終息の見通しが立たない中での試合への参加は難しいとの見解を、日韓技術士交流委員会の担当者に伝えている。

当面の活動は難しいと考えられるが、サッカーを通じた交流継続のため、引続きグループ活動は行っていく。例会参加者への声掛けや活動紹介等の宣伝を継続する他、技術士会メンバーに拘らずサッカー・フットサルに興味がある幅広い参加者を募っていきたい考えである。また、練習会が開催できる状況になれば、これまでに得た教訓を生かし、開催案内から実施に至るまでの一連の内容の工夫・改善を行っていきたい考えである。

以上

青年技術士交流委員会 2020 年度 広報プロジェクト活動報告

広報プロジェクト リーダー 岩部 然育

メンバー：竹内、田中(仁)、守田、田中(雅)、高木、山本、岩部

1. 目的

昨年度より、広報グループの目的であった外部向け広報活動と、内部メンバー間の情報共有を分離し、前者を広報プロジェクト（以降広報PJ）、後者を IT 担当と位置付けて活動を行った。広報 PJ では、青年技術士交流委員会（以降、委員会）の活動内容の技術士会内部・外部への発信、CPD 行事への集客、プレゼンスの向上を目的として活動を実施した。

2. 活動方針

広報活動をする上で、活動方針、活動の実施方法を以下に定めた。

1) 活動方針

1. 青年技術士交流委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外に PR する。
2. 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的に PR する。
3. PR 対象は、日本技術士会内部（他委員会、各部会、事務局、正会員、準会員）及び関係学団体、一般の若手技術者、一般の企業及び公共団体とする。

注：ここでいう活動及び成果は、当委員会主催の活動及び委員会代表として参加した企画を指す。

2) 実施方法

1. CPD 行事予定表、月間 PE の掲載。
2. 同報メールによる情報発信
3. 公式ブログ、Facebook、Twitter 等の SNS を使った情報発信。
4. プレスリリースの投稿等による、報道機関を通じた広報活動。

3. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ (<https://www.engineer.or.jp>)、月刊技術士誌を使用し、例会開催情報等を発信した（行事内容の詳細は例会グループ報告参照）。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

昨年度から建設系 CPD 協議会 (<https://www.cpd-ccesa.org/>) へ例会内容を掲示し、例会開催情報を配信した。今年度は、行事予定表からの申し込みとは別に例会グループと協力して、Google フォームでの参加者募集・集計も行った。

2) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

昨年度に引き続き、イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行えるように環境を整えている。昨年度から継続している取り組み、本年度新たな取り組みとして以下の6点を実施した。

①例会内容のプレスリリース（新規実施）

今年度から、北海道本部で実施されている事例を参考として、例会の開催案内、開催結果をまとめたプレスリリースの作成と都庁クラブへの投げ込み、建設系新新聞社（建設工業新聞、建設産業新聞、建設通信新聞）へのリリースによる広報活動を実施した。リリース作成企画と新聞掲載について下表にまとめた。

リリース作成例会	リリース先	掲載新聞社
11月例会	都庁クラブ、建設系新聞社3社	建設工業新聞、建設通信新聞
12月例会	都庁クラブ、建設系新聞社3社	建設通信新聞(公式ブログ、公式SNS)
修習ガイダンス	建設系新聞社3社、日刊工業新聞社	建設通信新聞
3月例会	建設系新聞社3社	建設通信新聞



2020年12月1日 日刊建設通信新聞 2面掲載例

②例会内容の広報チラシの配布（継続実施）

例年実施しているが、合格者宛て郵送物に同封する合格者交流会の広報ビラを委員・委員補佐から各所属会社、学団体の合格者へも配布することで、同じコミュニティ内の合格者に向けた広報活動を実施した。

③内部、外部団体との情報交換会の開催（新規実施）

今年度の新たな試みとして、内部・外部団体と広報活動や団体の紹介について意見交換を Web ミーティングにより実施した。

ミーティング日	団体名	ミーティング内容
2020/8/3	北海道本部青年技術士交流委員会	広報活動について
2020/12/4	建コン協若手の会、土木学会若手 パワーアップ小委員会	各団体の活動紹介と今後の連携について
2021/1/31	中部本部青年技術士交流委員会	広報活動について

④委員会のプロモーション動画の作成（新規実施）

例会参加者や一般の技術者に対して、青年委員会の活動を知ってもらうため、青年委員会のプロモーション動画を作成した。作成した動画は、YouTube チャンネルを立ち上げ、公開している。



Youtube チャンネル画面

リンク（日本語版）：<https://youtu.be/00hYLntZmWk>

リンク（英語版）：https://youtu.be/_XjQc-L3e9Y

⑤青年技術士交流委員会の Web ミーティング用の背景作成（新規実施）
Web 会議が多くなり、各行事で委員が使えるよう下記背景を作成した。



作成した背景

⑥若手技術士交流プラットフォームの構築・運営（新規実施）

コロナ禍でオフラインの交流が困難な状況であるが、オンラインでの活動のため、地域の壁がなくなった。今後の若手技術士・技術者の交流のオンラインサロンを Slack で立ち上げた。現在全国青年登録数 35 名で活動中。

現在は、全国青年メンバーのみであるが、いずれは例会の事前学習やアフターフォローのために、参加者も登録して交流の活性化を図っていく。

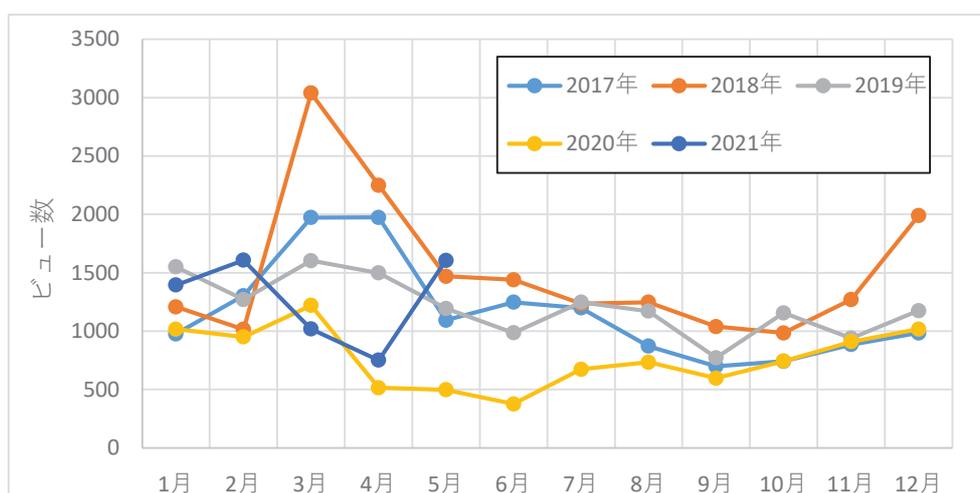
4. サイトの統計情報の分析

1) Wordpress の統計情報

■ アクセス数

Wordpress によるアクセスの統計情報を分析した。2020 年までは合格発表の 3 月にアクセス数が多くなる傾向が例年見られるが、2021 年は 4 月が二次試験合格発表だったので、5 月のアクセス数が増えている。2020 年は、新型コロナの影響で 4 月のアクセス数が前年の 1/3 に落ち込んでいる。11 月から Web 形式で外部例会を開催してからは、例年並みにビュー数が増えつつある。

ビュー数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2017年	977	1,303	1,973	1,974	1,093	1,248	1,198	872	699	742	885	985	13,949
2018年	1,208	1,016	3,039	2,250	1,470	1,440	1,236	1,247	1,039	984	1,271	1,990	18,190
2019年	1,550	1,271	1,604	1,499	1,195	986	1,248	1,171	772	1,156	940	1,176	14,568
2020年	1,017	951	1,220	516	498	377	674	733	597	743	910	1,017	9,253
2021年	1,395	1,608	1,018	751	1,606	-	-	-	-	-	-	-	6,378



■ リファラの情報（全期間）

昨年同様に検索エンジンや Facebook からの移動が多いが、昨年よりも検索数が減少している。唯一 Twitter が増えていた。

移動元のページ	移動数 (2020)	移動数 (2019)	移動数 (2018)
検索エンジン	2,345	2,517	9,558
日本技術士会	1,009	1,488	3,732
Facebook	617	819	2,984
Wordpress Android App	53	94	-
Twitter	108	71	70

■ ビュー数（全期間）

昨年とほぼ同様の傾向だがトップページにはタイムラインで新しい記事表示されるのでビュー数が多くなり、次いで、委員名簿や活動報告などのページが意外と多い。リファラと同様に、ビュー数も昨年、一昨年に比べて減少している。

個別ページでは、パネルディスカッションのビュー数が最も多く、次いで修習ガイダンス、合格者交流会、技術継承の例会の人气が高く、他のウェブサイトからリンクされたものが継続的に増加していると思われる。しかし、2018年以前に比べて、新しい記事の個別ビューは伸び悩んでいる。

ページ名	ビュー数 (2020年)	ビュー数 (2019年)	ビュー数 (2018年)
ホームページ / アーカイブ	7,572	8,154	42,197
委員名簿	588	694	2,489
Zoomによるパネルディスカッションを行いました！	524		
About Us	454	373	1,248
活動報告	258	349	1,145
国際交流活動	103	102	568
【開催報告】「技術士をめざそう 修習ガイダンス2021」が開催されました	102	-	-
活動概要	92	72	619
About P.Ejp	88		
合格者交流会 2021のご案内	72		
【11月例会】『技術の継承(伝承)を考える』ウェビナー大盛況で第1部終了！	71		
2020年度拡大委員会を開催致しました！	66		
【11月】技術の継承(伝承)を考えようのご案内【Webイベント】	66		
FAQ	62	33	386
ワークショップ「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」開催報告および参加御礼	62	108	-
技術士とは	61	64	430
日豪間の若手技術者の交流をオンラインで開催します！	56		
【3月Web例会】コロナ時代を生き抜く「すごいチームの作り方」を開催します！	55		
リンク集	53	57	-
【1月例会】「もう誰のせいにもしない。仕組みを変えるための要因分析」開催報告	50		

2) Facebook のインサイト解析機能による分析

■ エンゲージメント率

エンゲージメント率とは、「投稿を見た人の中で、アクションを起こした人の割合がどれくらいか」を示す数値である。

Wordpress の統計情報の分析と同様に、修習ガイダンス、1 月、3 月例会のエンゲージメント率が高かった。

Facebook のフォロワーが昨年の約 350 人から約 430 人に増えたが、昨年よりも全体的に閲覧者が減少していること、閲覧者における関係者（青年メンバー、OB・OG 含む）の割合は比較的多いため、新規フォロワー確保とエンゲージメント率を高めることが今後の課題と考える。

エンゲージメント率 = (いいね！数 + コメント数 + シェア数 + クリック数) / リーチ数

* リーチ数：実際に投稿を見た閲覧者の人数

日時	投稿内容	リーチ数	エンゲージメント率
2021 年 1 月 24 日	1 月例会(要因分析)の開催報告	141	35%
2021 年 2 月 14 日	修習ガイダンス2021が開催報告	144	35%
2021 年 2 月 22 日	3 月例会(すごいチームの作り方)開催案内	166	28%
2021 年 2 月 17 日	日刊建設通信新聞の公式ブログに 12 月例会が掲載	148	27%
2020 年 12 月 31 日	12 月例会(交渉力向上講座)開催報告	200	26%
2020 年 11 月 29 日	11 月例会(技術継承について考えよう)第 1 部開催報告	203	25%
2020 年 7 月 25 日	拡大委員会開催報告	225	24%
2020 年 12 月 21 日	修習ガイダンス開催案内	185	24%
2021 年 2 月 1 日	合格者交流会の案内	141	24%
2021 年 3 月 21 日	3 月例会(すごいチームの作り方)開催報告	140	24%

* 2021/5/22 現在のフォロワー：428 人

5. 今後の活動・展開

既存媒体、外部メディア（新聞掲載）を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。これら、プレスリリース、宣伝のピラなど掲示等新たな広報活動を行ったことにより 2020 年度において、サイトのアクセス数、ブログの閲覧数と 2019 年度の落ち込みから回復がみられた。オンライン例会等の活動に興味・関心が向けられたことも回復傾向の理由の一つではないかと考える。

今後は、今年度定めた活動方針のもと、委員会活動を技術士会内だけではなく、外部への情報発信と国内の学団体、各部門に関連する協会の若手の会や委員会など、同世代で構成されている団体と連携・コラボを行い、更なる飛躍に向けたサポートを行う。そのために、以下の項目についてプロジェクトメンバー、委員会内で議論・検討を深めていく。

- ・ 委員会活動をプレスリリース、YouTube を活用した PR
- ・ 地域本部と広報活動における連携強化
- ・ 各委員、委員補佐の学団体、関連協会とのコラボレーションや相互の意見交換の活性化
- ・ 新委員も含めた名刺の作成と各メンバー所属コミュニティーへの広報活動
- ・ ブログ・Facebook の閲覧数増加のための工夫（映え）・コンテンツ強化
- ・ オンラインサロンを活用した地域連携、参加者とのネットワーク構築

以 上

青年委員会 2020 年度 IT 担当活動報告

IT 担当 佐藤 真紗美

1. グループメンバー

鈴木、守田、一川、佐藤

2. 活動目的

前期に引き続き、IT 担当は IT 基盤の維持及び内部メンバー間の情報共有を目的として活動を行った。また技術士会からのサイト統合の要望があり可能な一部サイトコンテンツの日本技術士会サイトへの移行や、サーバ費用と運用負荷の低減を目的として Google Workspace への移行を視野に入れた検証作業や準備も行った。

3. 今期活動と成果

① サーバ保守

青年ブログやマニュアルの Redmine、ファイルサーバの OwnCloud に利用しているサーバ維持のため、ドメインや証明書の更新、不要ファイルの削除、リソース使用率異常・不正アクセスの対応等を行った。また、SavaMoni 有償化のため、SavaMoni 監視設定を停止し、UptimeRobot で監視するように設定を変更した。

② ML (メーリングリスト) の整理・管理

次期体制検討用の ML など、用途に応じて新しい ML の作成及び管理を行った。また、ML へ大量の個人情報に掲載された投稿が行われたため、投稿者に確認の上、当該メールを配信前に削除するなど、ML の適切な運用に努めた。

③ アカウント管理

メンバーの入れ替わりにともない、管理者アカウントや IT 基盤の利用者アカウントの棚卸、例会担当 ML や参加者用 ML への登録アドレスのメンテナンスを適宜行った。

④ 外部サービスの利用

出欠簿及び内部アンケートの Google スプレッドシート利用を推進するため、テンプレートとなるファイルを作成して内部に展開した。あわせて、例会グループによる Google フォームを利用した外部アンケート、例会参加者向けの申し込みフォームの作成をサポートした。

⑤ マニュアルの更新・作成

基盤の契約情報、新規サービスの利用方法、既存マニュアルへの補足等を、Redmine の IT マニュアルに追記・更新した。また運営委員会マニュアルを Redmine に公開した。併せて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い多くの例会がオンラインとなったことから、参加者向けに zoom マニュアルの雛型を作成して展開した。また当日に連絡なく出席しない参加者が相次いだため、当該申込者のリストを作成し、円滑な例会運営を支援した。

⑥ 一部サイトの日本技術士会サイトへの移行

青年委員会を含む各委員会のサイトを、日本技術士会サイトに統合することになったことから、一部サイトコンテンツを日本技術士会サイトに移行した。ただし、ブログ等の動的コンテンツや ML、ファイルサーバ等の機能は統合できず、後述する Google Workspace への移行までは既存の青年技術士会サイトを使用することとした。

⑦ 青年 IT システムの Google Workspace への移行検討

IT ツールと外部サービスの増加により、IT 担当の業務が煩雑化するとともに、セキュリティリスクも懸念されることから、新たな IT 基盤への移行を検討した。複数サービスの機能や費用、保守性等のメリット・デメリットを調査・検証・検討した結果を報告し、運営委員会の合意を得て、コス

ト・運用工数の低減が見込まれる Google Workspace への移行を行うことに決定した。現在、移行手順を準備中である。

4. 今後の活動・展開

次年度も引き続き IT 基盤の維持・運用とともに環境移行を進めていく予定であるが、2021 年度の予算編成において、サーバ利用料・ドメイン費用を含む全ての IT 予算が 2021 年 5 月時点で承認が下りていない状況である。そのため、活動内容や予定していた移行計画の変更も含め、今後引き続き検討を行っていく。

以上

例会活動報告書

行事名	6月：拡大委員会及び懇親会
日時	2020年6月27日（土） 【拡大委員会】13:00～13:45 【支部交流会】14:00～16:45 【懇親会】18:00～20:00
場所	拡大委員会、支部交流会、懇親会：ZoomによるWeb会議
担当者： （○：主担当）	○竹内委員長、後藤副委員長、守田副委員長、田中（仁）副委員長、白井委員、小塚委員、鈴木委員、高木委員、吉岡委員、河野（記）
司会、報告者等	青年総会：司会 河野副委員長、議長 竹内委員長 地域本部活動報告：平岡委員長、齋藤委員長、高野委員長、石川委員長、藤内委員長、田中委員長、白鳥委員長、松永委員長
参加者数	青年総会：54名、本支部交流会：57名、懇親会：43名 ※懇親会にはOB/OG4名、各県支部3名含む

1. 背景・目的

地域本部間の意見交換および交流を目的とし、拡大委員会での青年総会、地域本部活動報告および懇親会を実施した。

2. 内容およびタイムスケジュール

13:00～13:45 拡大委員会

14:00～16:45 本支部交流会_全地域本部活動報告、
全国大会の告知、全国の青年間のオンラインワークショップ紹介、IPD紹介、集合写真

17:00～17:45 各自お酒、おつまみ買い出し（休憩）

18:00～20:00 懇親会

3. 成果と所感

3-1. 青年総会

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、今回はZoomを用いたWeb会議を開催した。Webを通じた拡大委員会は初の試みであったため、上手くいくかどうか不安ではあったが、拡大委員会（総会）は、滞りなく議事に沿って進行することができた。昨年度の統括本部における活動内容と収支実績、および今年度の活動予定と予算に関して全委員から承認を得た。質疑応答においては、主に予算内容について各委員からコメントを頂いた。

地域本部からは、ZoomによるWeb会議でありながらも、議事がスムーズで質疑が活発に行われて良かったとのコメントがあった。一方で、オブザーバの参加について明確にするべきではないか、また拍手による賛同を得るのはWebでは難しいことから投票機能を用いて行ってはどうかなどといった意見もあった。

3-2. 地域本部活動報告

統括本部及び各地域本部から昨年度の活動報告を行った。本活動報告を通して、各地域本部において魅力的なイベントの紹介や統括本部から今年度の活動報告を共有することができた。また、各活動報告が終わった後、中部本部の石川委員長より全国大会の告知、田中（雅）委員から全国の青年間のオンラインワークショップ紹介、吉岡委員から IPD 紹介がそれぞれ行われた。このように、各地域の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として、本支部交流会が今後も継続的に行われ、活発な意見交換が行われることを引き続き期待したい。

地域本部からは、各地域本部の活動内容を知れる機会となり、有意義とのコメントがあった。今回 Zoom を用いた Web 会議であったこともあったが、ほぼ時間通りにスムーズに進行を進めることができた。Web を用いることで移動もなく、気軽に参加できる反面、面と向かって話すことが出来ないため、質問がしづらく、特定の人に質疑応答が固まっていたのではないかといった意見も地域本部の参加者からあった。それを改善するために、例えば発表中に Webinar のチャットのようなシステムを設けてはどうかといったコメントもあった。

3-3. 懇親会

懇親会では、司会の高木委員、吉岡委員が中心となり、アイスブレイクで各参加者の緊張をほぐした後、各地域本部の初参加者を中心とした、まず自己紹介の時間が設けられた。アイスブレイクも自己紹介についても、参加者と楽しい雰囲気での交流をすることができ、大変良かったと思う。

次にこちらから話題を提供し、1 グループあたり 5～6 名程度に分かれ、自由に意見交換を行った。グループに分かれての懇親会は 1 回につき、約 30 分で計 2 回行ったが、終始話は尽きず、良い交流が行われたと感じた。しかし、各地域本部の参加者からは交流の時間が短い、特に話題は必要なく、自由にお互いの話がしたかったなどのコメントもあった。

時間が限られている中の Web での交流であったため、参加者全員で交流することは難しかったものの、各地域本部の参加者から頂いた意見やコメントは今後の活動にフィードバックしたいと考える。

4. 今後の展開

今回は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、初の Zoom による Web 形式で拡大委員会及び懇親会を行った。統括本部の各担当の多大な協力もあり、会はスムーズに進行することができ、また良い交流の場になったものと全体のアンケート結果からも読み取ることができた。新型コロナウイルス感染症の影響が終息するまでは、Web を通じた交流がメインになっていくものと思われるが、本会で得られた多くの反省点や改善点を真摯に受け止め、引き続き全国の青年委員会との交流を続けていきたいと考える。

今後、Web を通じた交流の良さも考慮しながら、コロナウイルス感染症の終息後の青年委員会の活動のあるべき姿も模索したい。そういった意味では、本交流会は各地域本部との良い交流が図られただけでなく、今後の活動についても考える良い機会であった。

5. 実施状況

集合写真 1



集合写真 2



以上

青年技術士交流委員会

Young Engineers Committee, Institution of Professional Engineers, Japan

2020年7月25日 投稿者: MAILMAN@PEYEC.JP

2020年度拡大委員会を開催致しました！

◦ Tweet

青年技術士交流委員会のHPをご覧の皆様、いつも大変お世話になっております。

先月6月27日に全国の青年技術士交流委員会のメンバーを対象とした拡大委員会が開催されました。

今回の本拡大委員会は

- ① 拡大委員会
- ② 本支部交流会による全地域本部からの活動報告
- ③ 懇親会

の3部構成で行われました。

例年ですと、2日間にかけて、初日は機械振興会館で上記の①～③を行い、その翌日にテクニカルツアーを開催しておりましたが、今回は昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、初めてのwebによる開催となりました。

面と向かって交流できない中、果たしてうまくいくかどうか、当初不安な面もございましたが、本拡大委員会の準備を当日までご対応いただいた統括本部の皆さん、そしてご参加いただいた全国の青年の皆さんが当日の進行にご協力頂きましたおかげで、大変良い交流の場となりました！

本拡大委員会は懇親会が終わった後も参加者間の話題は尽きず、2次会も開催され、活発な意見交換が夜遅くまで行われました。



本支部交流会にご参加いただいた皆様の集合写真 その1



本支部交流会にご参加いただいた皆様の集合写真 その2

最後に、全国の青年の皆さん、本拡大委員会にご参加いただきまして、改めて本当にありがとうございました。

コロナウイルスの影響で大変な毎日が続いておりますが、コロナ禍が収束するまではwebを中心とした交流を続け、コロナ禍が収束しましたら、面と向かってお会いし、いろいろとお話する機会を楽しみにしております。

今後ともよろしく願いたします！

青年技術士交流委員会 6月拡大委員会担当
河野 恭彦 技術士（原子力・放射線部門）

共有:

行事名	7月内部例会:Zoom Webinarによるパネルディスカッション
日時	2020年7月25日(土) 13:00~16:00
場所	ZoomによるWeb会議
担当者:(○印:リーダー)	○河野(記)、高木、吉岡、吉浦、臼井
参加者数	17名(青年委員会統括本部のみ)

1. 背景・目的

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、従来の面と向かった交流型の例会の開催が難しい状況にある。そこで、青年技術士交流委員会の内部イベントとしてZoom Webinarによるパネルディスカッションを行うことで、今後Zoomを用いた例会の開催に向けた試運用を図ることを目的とする。

2. 例会内容

2. 1. 冒頭挨拶・注意事項・全体説明(13:00~13:20):河野副委員長

本例会目的と例会の運営上の注意点、全体の流れについて説明を行った。

2. 2. パネルディスカッション(14:00~15:40):臼井委員、各パネリスト10名

臼井委員を司会進行役として、予め青年から選出した10名のパネリストを5名ずつの2グループに分けて、1グループ目は、「パネル討論 1:社会の変化とこれから」を題して、討論 1-1:社会の変化、対策及びその効果について、討論 1-2:今後の業界のあり方についてを題材に議論を行った。

2グループ目では、「パネル討論 2: 今後の例会のあり方」と題し、討論 2-1:この環境下でやりたいこと!、討論 2-2:課題とその対策を題材に議論を行った。

2. 4. 講評・終わりの挨拶(15:40~15:50):河野副委員長、吉岡委員

パネルディスカッションの内容をもとに講評を述べるとともに、終わりの挨拶を述べて、本例会を締めくくった。

3. 成果と所感

- ・ 臼井委員を中心に修習ガイダンス以上の高いクオリティで良いパネルディスカッションが行われていた。これも臼井委員の事前の多大な準備のおかげであった。しかし、臼井委員に業務が多く偏っていたところもあったため、例会メンバーでもう少し作業分担を行うべきであった。
- ・ 内部アンケートを見ると、予定されたスケジュールを超過して行われていたという感想が多かった。当初決められた通りのスケジュールで進められるように、マネジメントもしっかりしなければならないと感じた。
- ・ 今回は9月以降のZoomを用いたWebによる例会に向けた試運用の位置付けで行った。そういった観点では大変有意義であった反面、内部イベントにも関わらず、少し力が入りすぎていた印象も受けた。7月例会メンバーはもちろんのこと、青年委員会全体でこの内部例会の趣旨と目的を良く共有して行った方がより良かったと思う。
- ・ 普段顔なじみの青年委員のパネリストから、現状の苦労話やコロナを受けて業務上工夫されている点を聞いたのはとても良い機会であった。たまにこのような内部イベントを企画しても良いのではないかと考える。

4. 今後の展開

- ・ 本内部例会で得られた様々な改善点等を今後のZoomを用いた例会にフィードバックし、より良い企画運営が出来るように努めたい。

5. 活動写真
集合写真



以上

青年技術士交流委員会

Young Engineers Committee, Institution of Professional Engineers, Japan

2020年7月25日 投稿者: MAILMAN@PEYEC.JP

Zoomによるパネルディスカッションを行いました！

◦ Tweet

本日、青年技術士交流委員会では内部イベントとして、Zoom Webinarによるパネルディスカッションを開催しました。

本パネルディスカッションでは、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、従来のような、対面型の交流を通じた例会の開催が難しい状況にあることから、今後のZoomを用いた例会に向けた試運用を行い、そこから得られた様々な改善点をフィードバックすることを目的としました。

今回のパネルディスカッションは以下の通り、大きく2つに分けて、それぞれ5名のパネリストにご協力頂き、新型コロナウイルス感染症の影響の状況下における、

パネル討論1:社会の変化とこれから

パネル討論2: 今後の例会のあり方

について、パネリストからご説明頂いた内容をもとに、参加者間で活発な議論が行われました。

今回のイベントを通し、web会議の開催に対して得られた様々な貴重な意見を生かして、今後のより良い例会の企画立案、そして国内外の若手技術者との交流について検討していきたいと思っています。

今後の例会を企画しましたら、関係者の皆さんへ周知させていただきますので、全国の青年委員の皆さん、若手技術者の皆さん、ぜひ奮ってご参加ください！

7月期 パネルディスカッション参加者集合写真（皆さん、素敵な笑顔です！！）

今後ともよろしく願いいたします！

青年技術士交流委員会 7月例会担当
河野 恭彦 技術士（原子力・放射線部門）

共有:



関連

2020年度拡大委員会を開催致しました！
2020年7月25日
In “スタッフブログ”

新年1月イベント「グローバルエンジニアを目指して」
の開催報告！
2020年1月27日
In “スタッフブログ”

修習ガイダンス 実施報告
2020年2月18日
In “スタッフブログ”

📄 スタッフブログ

青年委員会 7月例会アンケート

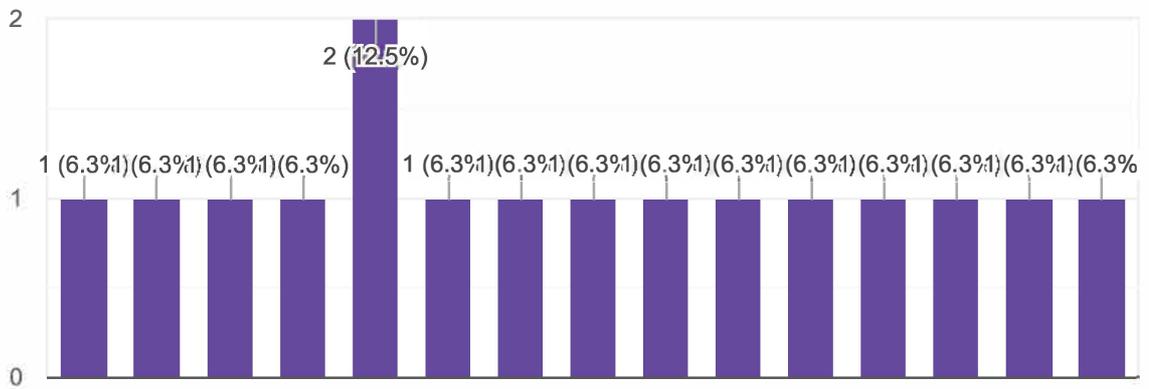
16 件の回答

[分析を公開](#)

Q1.あなたご自身について教えてください

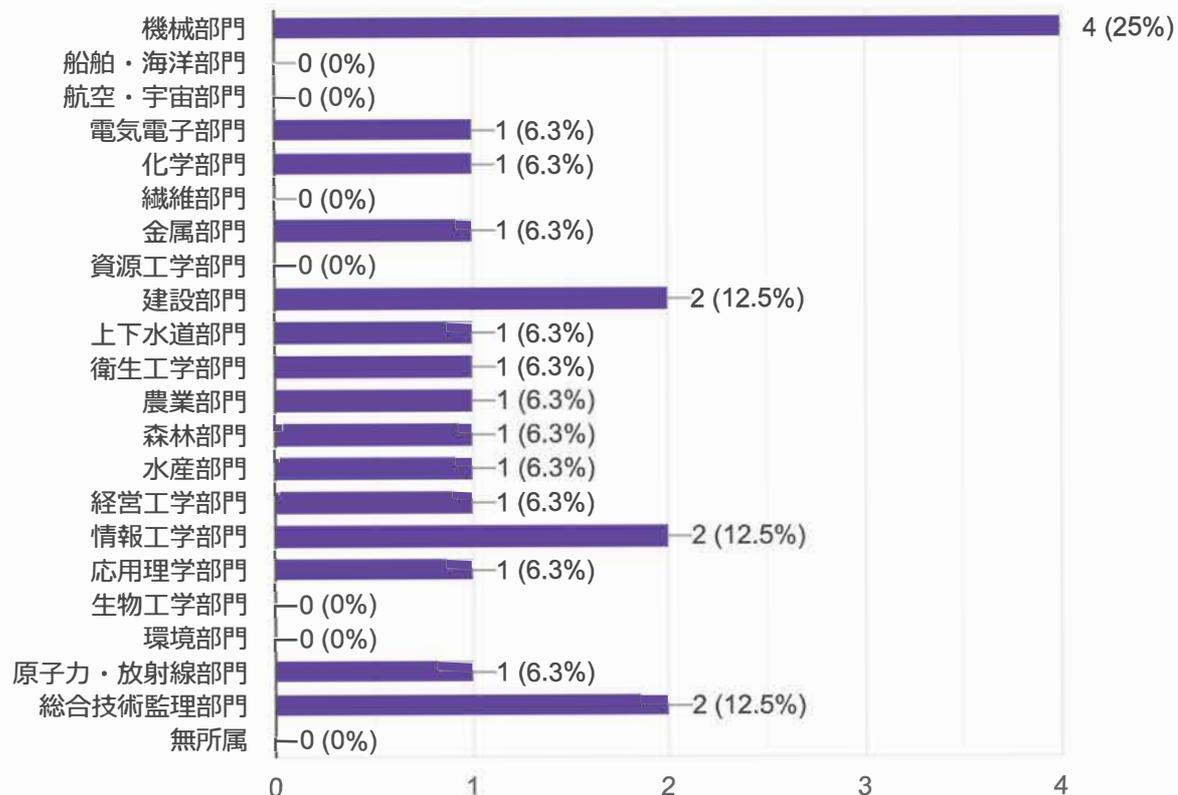
1.お名前

16 件の回答



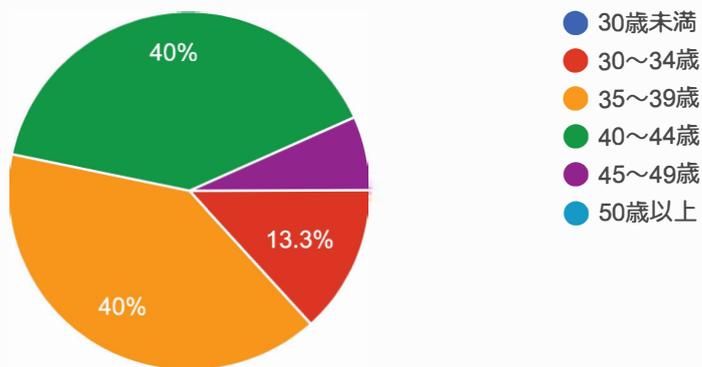
2.技術部門

16件の回答



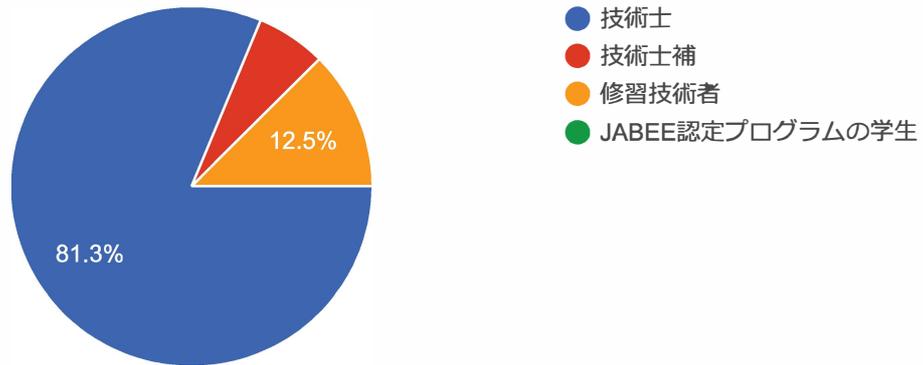
年齢層

15件の回答



会員層

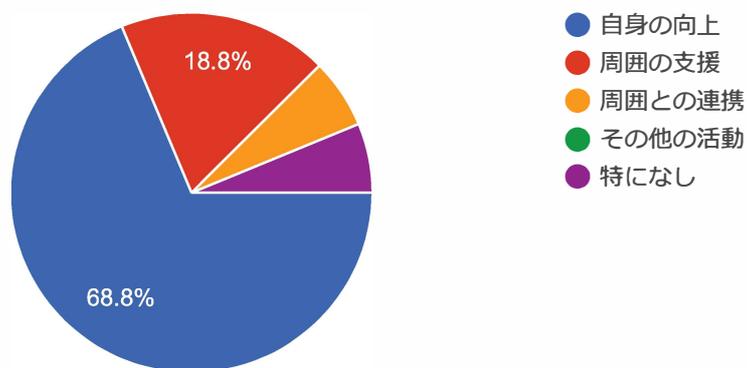
16件の回答



Q2技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

ご自身の具体的な活動について

16件の回答



その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

1件の回答

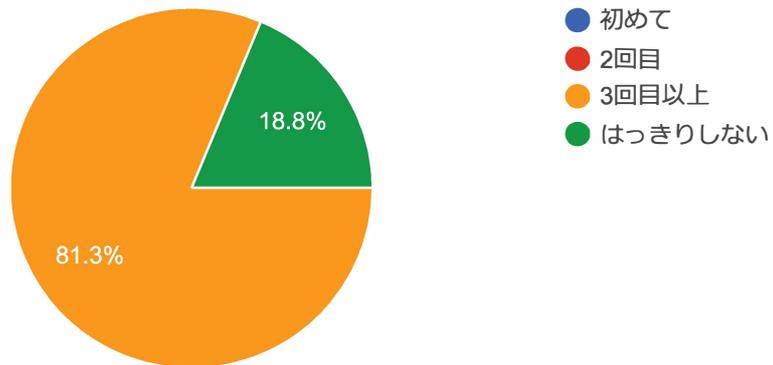
青年、化学部会若手の会

Q3. 青年委員会の活動について



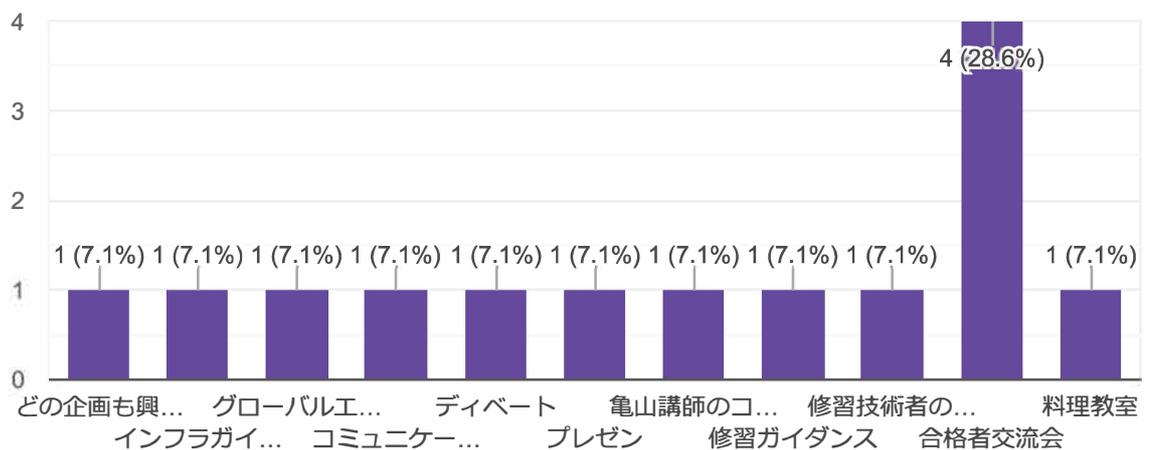
1. 青年委員会のイベント参加回数

16件の回答



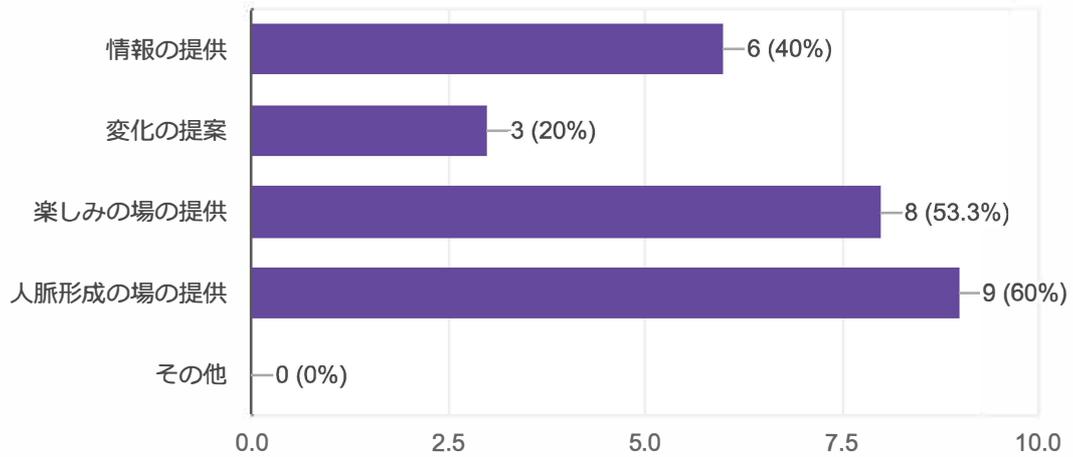
2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

14件の回答



3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

15件の回答



「その他」を選らんだ方は具体例を回答してください

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

上記で選択したものの具体例を書いてください

4件の回答

新しいテクノロジーに触れるなど

楽しく業務につながるスキルを学びたいです。

テーマを決めてグループディスカッション後に発表など

楽しみながら交流できるイベント



4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

4件の回答

平日夜開催があるとよい。

現場や工場の見学会

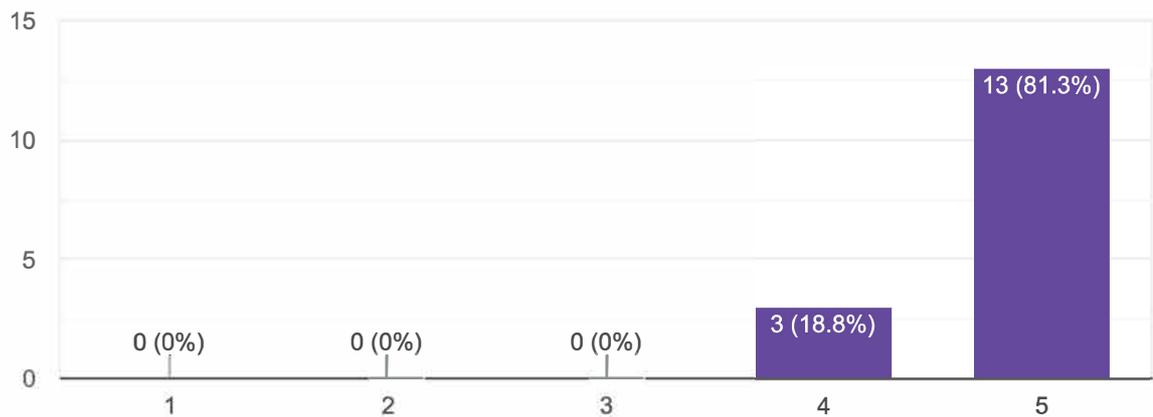
オンライン講座は、最大2時間までがよい

全国の若手技術者の交流イベント

Q4. 今回のイベントについて

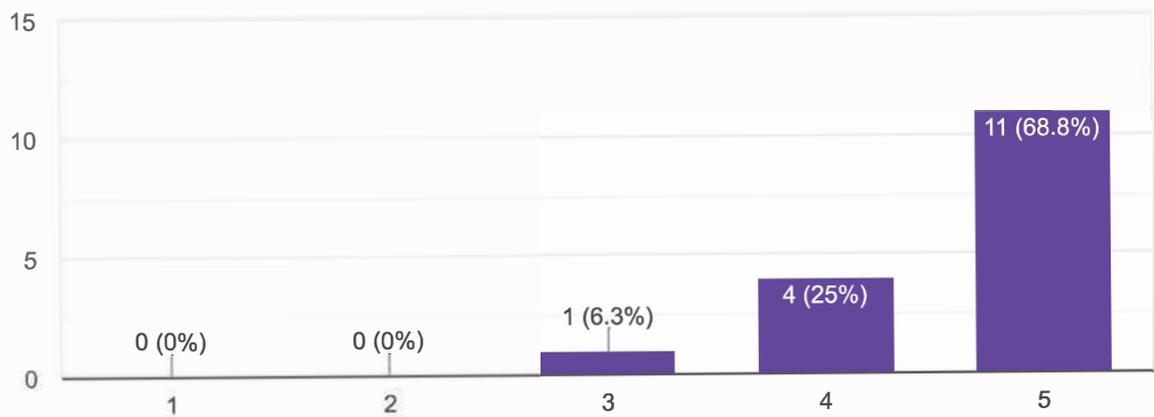
1. 今回のイベント全体

16件の回答



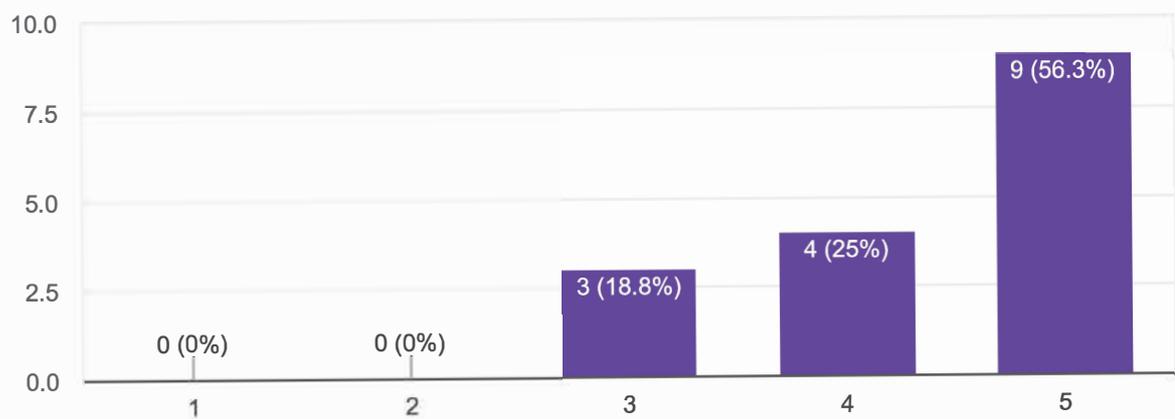
2. 講師の話し方や進め方

16件の回答



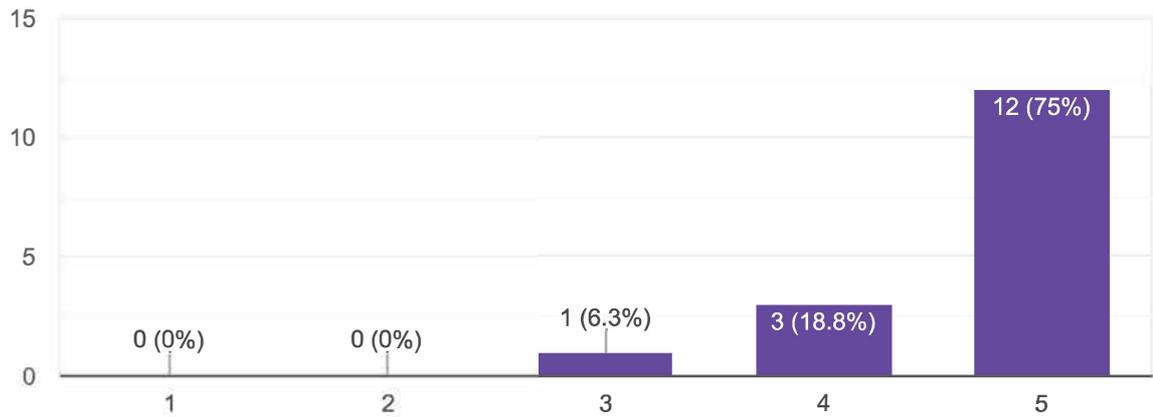
3. 配布・プレゼン資料の内容

16件の回答



4. スタッフの対応

16件の回答



5. 講師にお伝えしたいこと

10件の回答

資料を表示するまでの時間を短縮できたらより良くなると思います。

お忙しい中お疲れ様でした。
いろいろな取組を知ることができて良かったです。

お疲れ様でした。

臼井さんの司会が神でした。

大変おつかれさまでした。

非常に面白い内容でしたが、時間管理についてはしっかり行った方が良いと思います。

短い期間にも関わらず、しっかり準備され、とても質の高い例会を行っていただき、ありがとうございました。

ありがとうございます



6. スタッフに伝えたいこと

9件の回答

短期間での開催お疲れ様でした。

前のページで、上記との記載がありましたが、4.1のように数字を振ることで、どの質問か明確にしてはいかがでしょうか。

準備お疲れさまでした。ありがとうございました。

お疲れ様でした。時間管理を改善すれば、完璧だと思います。

準備、お疲れ様でした。

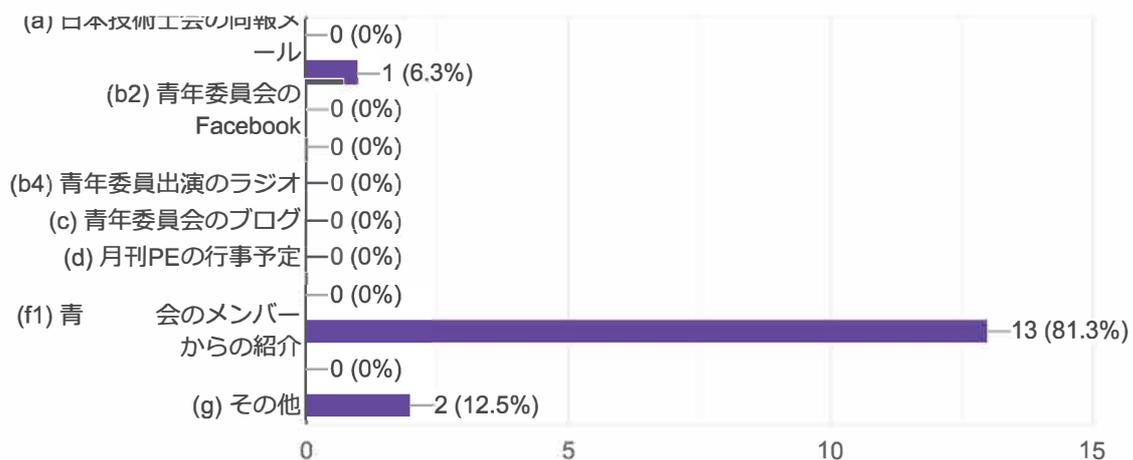
大変おつかれさまでした。

7月内部例会担当の皆さん、お疲れ様でした。

ありがとうございます

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか。

16件の回答



その他と答えた方は具体例を教えてください。

0件の回答

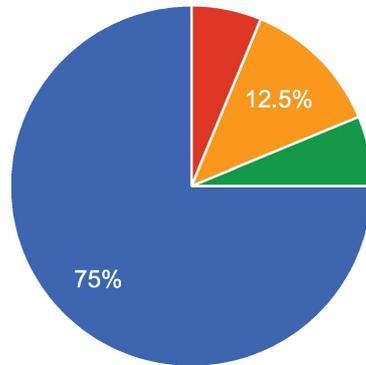
この質問にはまだ回答がありません。



Q6. 参加の目的と達成度について

1.目的は何ですか。

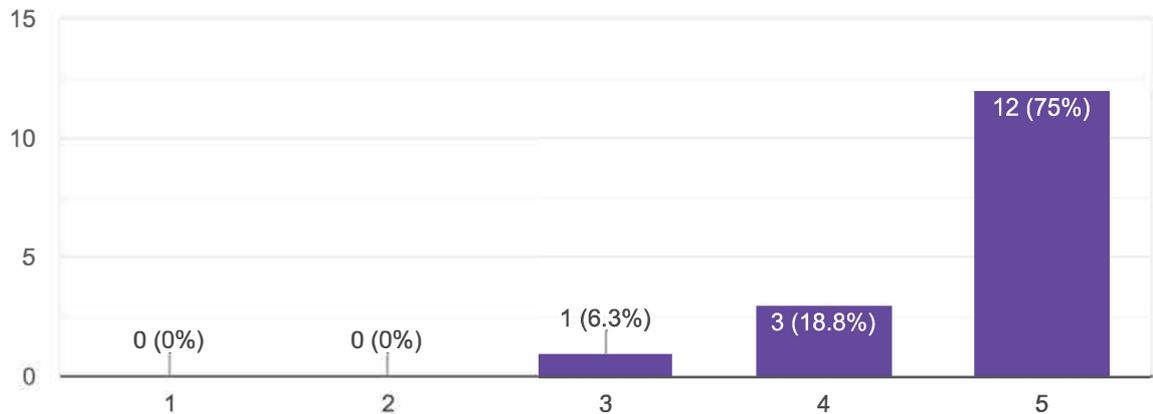
16件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった/知りたかった/身につけたかった。
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたかった（人脈を広げたかった）。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。

2.上記の目的の達成度

16件の回答



このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



行事名	9月例会:さあ、才能(じぶん)に目覚めよう ~ストレングス・ファインダーと心理的安全性~
日時	【ワークショップ】2020年9月26日(土) 13:00~17:30 【Web 懇親会】 同 19:00~20:30
場所	オンライン+機械振興会館 6-61 会議室
講師、発表者	竹内委員長、岩部委員、各班ファシリテーター
担当者:	一川委員、竹内委員長、河野副委員長、伊藤委員、原田委員、明山委員補佐、岩部委員、吉岡委員、高瀬委員補佐
参加者数	21名

1 背景・目的

本例会は、技術士コンピテンシー「コミュニケーション」「マネジメント」「リーダーシップ」の向上を目的として開催した。具体的な目標は以下の3点である。

- ① クリフトンストレングス®を活用した講師と参加者のインタラクティブな講演を通して、資質として表現される個性・才能の種類を知り、自身と他者の違いを客観的に理解する
- ② グループワークを通して、多様性の中から強みを活かし、生産性を向上させるチームビルディングの手法を体験的に学ぶ
- ③ メンバー各自身及び相互の理解を促進し、チームの生産性向上に重要と言われる「心理的安全性」を向上させる

今回は内部例会として開催し、オンライングループワークの知見を得た。特に外部向け例会としての開催に向けた、課題抽出やファシリテーションの準備を兼ねた。

2 例会内容

(0)事前準備

ストレングス・ファインダーTop5を出して、事前に担当へ連絡してもらった。

(1) アイスブレイク(チームメンバーで新プロジェクトを作ろう！)

4.5名で班編成(グループワーク①と同じ編成)し、自己紹介(実務での役割を含む)をした。新規青年メンバー募集プロジェクトを実施すると仮定し、各自の担当を決めた。

(2) 各資質の解説+参加者へのインタビュー×3クール

講師(竹内委員長)が各資質を解説しながら適宜参加者のエピソードを引き出し、解説を加えることで理解を促進した。

(3) グループワーク①(資質証言)×3クール

4.5名の班編成で、資質に関するエピソードを披露した。ファシリテーター(or ファシリテーターからの指名者)に記録してもらい、資質の特徴的な内容を全体にシェアした。

(4) グループワーク②(プロジェクトの役割分担を見直そう！)

4.5名の班編成(グループワーク①と同じ編成)で、互いの資質を活かして、改めて、新規青年メンバー募集プロジェクトを実施すると仮定し、実施事項と各自の役割をディスカッションし、発表した。

(5) 発表

各班メンバーから発表。グループワークの様子を含めて、ポジティブフィードバックをファシリテーターから得た。ファシリテーターからは資質について学ぶ前後での変化についても言及した。

(6) 心理的安全性に関するプレゼン(岩部委員)

心理的安全性に関する概要に始まり、今回のワークショップにより相互理解と自己理解(強みを認識)を促進したことで心理的安全性が高まることを説明した。

(7) 懇親会

懇親会参加メンバーにより、資質についてさらに深い議論が行われた。

3 成果と所感

今回の例会ではオンライングループワークにより、参加者同士の特性を活用したチームビルディングを実施した。

① 今回のストレングス・ファインダーの活用方法について

この例会は参加者に対し、相互理解がチームの心理的安全性向上と生産性向上に役立つことを体験してもらうことを目的として実施した。

少人数での GW や講義中の資質証言など、参加者同士について詳しく知りあう機会が多くあったため、自己理解および相互理解が促進された。アンケート結果からは、「楽しい例会だった」、「外部向けにも開催したい」、「他に知り合いを呼びたい」などの意見があった。このことから、参加者の満足度が高い例会であったと推測できる。

参加者の自己理解・相互理解に活用できる情報と場の提供を行ったこと、グループワークではファシリテートによりコミュニケーションの実施を促進して距離感の近い発言が許される環境としたことにより、相互に気楽に発言できる関係性が構築できた。

実施時の反省点は以下の二つである。

- ・事前にストレングス・ファインダーを受ける必要があるため、参加者に費用や時間の負担が大きい。
- ・資質は個人情報なので、資質の開示について確認し同意を取る必要があったこと。今回は参加者全員に資質の開示を行なうことを事前説明していなかったため、混乱が起きた。

これを踏まえ、二度目の開催や、外部向けへのアレンジを検討するのであれば、費用の負担に対する理解を求めることに加えて、個人情報開示を行うことについての事前アナウンスを実施することにより、個人情報公開に拒否感を持つ人の情報が誤って公開されない工夫が必要である。また、委員会構成メンバーであれば必ず参加しなければいけないというような空気を作らないようにし、年間のほかの例会と比べた時の見えた目の重要度ができる限り下がる工夫も必要だろう。

② 会場について

オンラインでの参加が可能な形態であれば、今回のように他地域からも気軽に参加可能である。オンライン会場設定時のノウハウについて以下の③から⑧に記載する。

③ オンライン会場を活用した例会実施全般について

- ・オンラインミーティングは疲労が大きいいため、こまめに休憩を設定したい。たとえば、1 時間に 10 分程度の休憩。

- ・参加形態の多様性の確保により、参加者の多様性を確保できそうだ。実会場とオンライン会場の二つを接続して例会を行うことで、例会を通して多くの学びを得ることができるだろう。

④ 主催者側の設備について

- ・主催者側のすべての人がグループワークに参加する場合、メインチャットで全体を管理できる端末を用意しておくべきだ。

今回、ネットワーク障害が起きた時に備えてバックアップの連絡手段(LINE グループ)を設定した。今後のオンライン例会でも同様にバックアップとしての連絡手段を設定することが望ましいだろう。

⑤ 参加者の設備について

- ・当日の例会において、ハウリングが発生した。対策として、発言者以外のマイクは、管理者側でミュートにすることが考えられる。

⑥ 参加者について

- ・地域本部からの参加は委員長と希望者のみであった。今回は個人情報を扱う例会であったので、参加者を絞ることで品質を向上させることができた。扱う情報の範囲やディスカッションの重要度により、参加枠の設定は柔軟に変更することが望ましい。

⑦ オンラインでのグループワークの実施について

オンラインでのグループワークは初めての試みであった。以下の知見が得られた。

- ・オンラインでは会場開催と異なり、それぞれのグループが完全に分断される。そのため、各グループにファシリテーターを配置した。ファシリテーターとは、リハーサルを通して事前に段取りを相互に確認した。この事前リハーサルで所要時間の見積もりを行ったため、時間を超過することなく、例会を終えられた。

- ・各班に一人ずつファシリテーターに入ってもらったことで、班によらず一定のディスカッションの機会が確保された。

- ・グループワークを3回に分けたことで、1回の講演やグループワークが長くなることによる「ダレ」をある程度防ぐことができた。話題により、回数を増やすことも検討できそうだ。

⑧ オンラインでの懇親会について

- ・懇親会の URL の案内がなかったため、気が付いた人のみが例会と同じ URL で参加できた。

という問題があった。このようなことが起きないためには、あらかじめ

- ・進行表に、懇親会 URL 案内を記入しておく。

必要があるだろう。

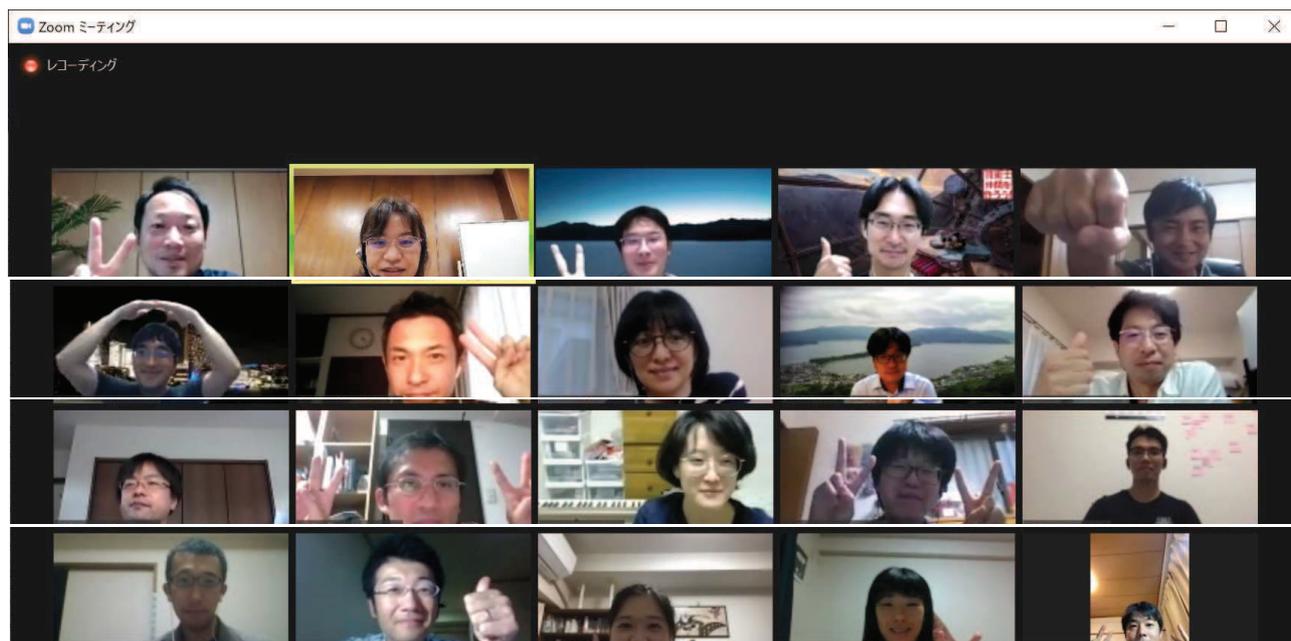
- ・家族の目があり、懇親会に参加できない方がいた

なるべく多くの人に参加できるように、参加しやすい時間帯・内容を設定する必要がある。

4 今後の展開

前項で抽出した今回の課題及び解決策を参考に、今後もオンライン会場の活用をすすめて行く。

5 実施状況



以上

行事名	技術継承(伝承)について考えてみよう(ウェビナー)
日時	2020年11月21日(土) 13:30~16:45、12月12日(土) 18:00~20:00
場所	Zoomによる完全オンライン
講師、発表者	司会:岩部 講師:東芝エネルギーシステムズ(株)向井氏、オリエンタルコンサルタンツ(株)伊藤氏 鹿島建設(株)鮫島氏
担当者: (○印:リーダー)	○岩部(記)、臼井、吉岡、守田、杉山
参加者数	■第1部:45人 第2部:28名

1. 背景・目的

近年の技術者の高齢化に伴う担い手確保の問題に対し、技術継承を受ける・伝える側の両面から失敗事例や課題、成功事例の共有を行い、技術者の成長を促すことを目的としてウェビナーを開催する。

2. 内容

2. 1. 挨拶(13:30~13:35):岩部

イベント会場やイベント実施中における注意事項、概略スケジュールについて説明した。

2. 2. 青年委員会の活動紹介(13:35~13:40):竹内

青年技術士交流委員会の組織編成と統括本部の活動内容について紹介し、毎月の継続研鑽イベント、国際活動、地域本部や各委員会との連携等、幅広く活動していることを説明した。最後に今後の予定について紹介し、また青年イベントに参加していただけるよう宣伝を行った。

2. 3. イベント開催の概要(13:40~13:45):岩部

技術継承に関するイベントの実施に至る背景として、厚労省の調査から技術者・技術士が多く在籍する建設業・製造業・技術サービス業において技能・技術の継承に「問題あり」ということが示された現況を紹介した。また、現状を踏まえ、世代・部門を超えた技術士(技術者)同士で議論を行うことを目的に本ウェビナーを開催した経緯を説明した。

2. 4. 各世代の技術者からの講演・質疑応答(13:45~14:50):向井氏、伊藤氏、鮫島氏

若手代表の向井健朗氏(東芝エネルギーシステムズ(株))からは、若手から中堅・シニアに対して、『全世代で技術継承について、本気で取り組みたいこと、そして世代間の視点の違いを超えて、二人三脚で進めていきたい』と若手ならではの熱い思いを講演頂いた。

中堅代表の伊藤昌明氏((株)オリエンタルコンサルタンツ)からは、『技術伝承を行う上で、伝承する側(=会社側)のプロセスに課題があるものの、伝承される側(=若手)が自らの事と捉えることができていないのではないかと問題提起があった。そのためには、若手が自分の Will と向き合い、「若手の思い」と「会社の支援」の両輪が必要である』と建コン協若手の会代表の経験から講演頂いた。

シニア代表の鮫島信行氏(鹿島建設(株))からは、『長年の技術者経験から、メンター制度の重要性と IPD(初期専門能力開発)による組織として体系的に人材育成をすることが重要であるとし、モチベーションを高く持ち続ける必要がある』と講演をまとめて頂いた。

講演中、チャットにて質疑応答をまとめた上で、講演後に 3 名の講演者から回答を頂いた。時間の都合上、回答できなかった質問については、後日参加者へメールにて回答を行なった。

2. 5. グループワーク(15:00~15:45): 岩部・青年メンバー

3名の講演の後、各グループに各世代が必ず1名以上入るようにグループ分けを行い、参加者同士で技術継承の課題や解決策について議論し、各自が技術継承のファーストステップとなる「アクションプラン」を宣言するグループワークを行なった。グループワークには、講師3名も各班を回り、ディスカッションに参加した。

自己紹介		○班
若手技術者 :	(森林:森林土木)	良いところを見てほめる
中堅技術者 :	(環境:環境保全)	チームでモチベーションが上がるように働きかける
中堅技術者 :	(機械:廃棄物処理設備・機械設計)	傾聴し、寄り添い、引き出していく
シニア技術者 :	(建設:港湾構造)	相手の気持ちに寄り添う、生き様を見せる
ファシリテーター :	(化学:プロセス設計)	モチベーションの高い職場風土へ向け、違いを認めあう
課題認識		
・「継承」は必要か？必要なものは残っていく。むしろ新しい技術、横ぐしを指す技術が入りにくくなっている？実績重視。		
・若手同士で教えあうことで技術習得している。		
・若手のモチベーション、自らやりたいことを求めて技術を盗む・つかみ取るという意思が大切。		
・若手がどのようにスキル、技術習得しようとしているのか。		
・山の中に建造物を作る⇒経験が重要。新技術も出てくるが発言力が大きいベテランで、保守的なところがある。組織構造自体に問題があるのではないか。聞くモチベーションが下がる？型にはめるようなことをしていないか。		
・経験を積んだ日本得意の技術分野が、新技術によって海外勢にひっくり返される？		
解決策 ・はじめの一步(個として、組織として)		
・若手のモチベーションドリブン、DRによりベテランのサポートを得ていく。経験不足をサポートし、判断基準を示す。		
・ノウハウ・判断は人間のみが持てる。テクニック・スキルは機械へ。⇒心構えこそが「継承」したいものではないか		
《アクションプラン》		
1、自分がどう思っているかを伝え、問いかけることで、モチベーションを芽生えさせる。		
2、(どちらからでもよいが)良いものは良いという職場環境・空気づくりをする。否定ばかりでなく良いところを認める。		
3、ガンジー:「僕の人生が僕のメッセージ」自分の生き方を見せることが継承		

グループワークのアウトプット例

2. 6. グループワークの結果発表(15:45~16:20): 岩部・青年メンバー

グループワーク後、各班のファシリテーターが1枚にまとめた、スライドを共有しながら、2分程度で発表を行った。「モチベーション向上」、「コミュニケーション」、「若手の活躍の場」、「自分自身を見つめ直す」などの意見が多くあった中で、「技術継承ではスキル・テクニックではなく、マインド・心構えを継承すべきである」といった頓悟するような気づきが得られました。

2. 7. 講師からの講評(16:20~16:30): 向井氏、伊藤氏、鮫島氏

グループワークの発表を受け、講師3名から講評を頂いた。

向井氏は、自発的に動く、コミュニケーションを積極的にとって行くことが大切だとコメントを頂いた。

伊藤氏は、マインド・心構えこそ継承すべきという意見に感銘を受け、テクニックやスキルではないものを継承が大切であるとコメント頂いた。

鮫島氏は、モチベーションを高め、ブレない自分軸を作っていくことが重要であり、技術者・技術士として継承だけでなく、技術の発展を考えて研鑽して欲しいとのコメントで締めて頂いた。

2. 8. 12月例会の紹介(16:30~16:35): 原田

12月例会の開催日、内容について、紹介を行った。

2. 9. アンケート記入・記念撮影(16:35~16:40):岩部、吉岡、守田

参加者に外部アンケート(Google フォーム)の記入をして頂いた後、Zoom 上で集合写真の撮影を行った。



集合写真 (第 1 部)

2. 10. 実践報告会兼懇親会の案内(16:35~16:45):岩部

後日実施する報告会について、説明を行った。

2. 11. 実践報告会兼懇親会(第2部:18:00~19:30)

3 週間後に、各自のグループワークで宣言したアクションプランの実践結果を報告・共有するため、実践報告会と懇親会を実施した。概要説明の後、最初の 30 分はグループワークを行なったメンバー同士で、ファーストステップとなるアクションプランの結果を共有しあった。

一度集合形式に戻った際に、各班のファシリテーターから多数のグループで、ファーストステップを実践した旨や、行動による気づきの報告があった。具体的には、技術継承について、職場ミーティングを実施した。上司と技術継承について話した。等のアクションが報告され、それにより他の参加者・青年メンバーにも良い刺激とが得られた。

その後の 30 分は、各世代別(ベテラン・中堅・若手)でグループをわけ、同世代での気づきの共有や課題等を話し合った。世代別グループワークの後、各世代で意見の全体共有をおこなった。若手技術者からは、中堅・ベテランに対して声を掛けにくい、質問することをためらう等の意見から、雰囲気作りの重要性について、報告があった。

報告会の後、参加者と青年メンバーによる懇親会を行なった。途中、参加者からの延長のリクエストがあり、20:30 まで懇親会を実施した。

報告会 実施概要 Bグループ

・若手技術者

→上司と話した！一人の人がずっと担ってきた技術を継承する取り組みを開始予定！
会社の社風上、一つの仕事につき一人が担当する。そのため一人が継承する予定。
(一人に集中してしまいがちか...)。負担は分担できていないことが課題か。

【ベテランからのアドバイス】

→人事と思わず当事者意識をきちんと持とう！上司のアドバイスを噛み砕いて！

・中堅技術者

→ディスカッションを実施した。自分の考えを再構築していく。

(身の回りの仕事上の技術→基礎知識×経験時間)

意図して経験させる時間を重要であると再認識！一人の人に負担を偏重させない。

組織で取り組めるようにする。やらなくても良い仕事、重要な仕事、今後取り組むべき仕事の取捨選択。

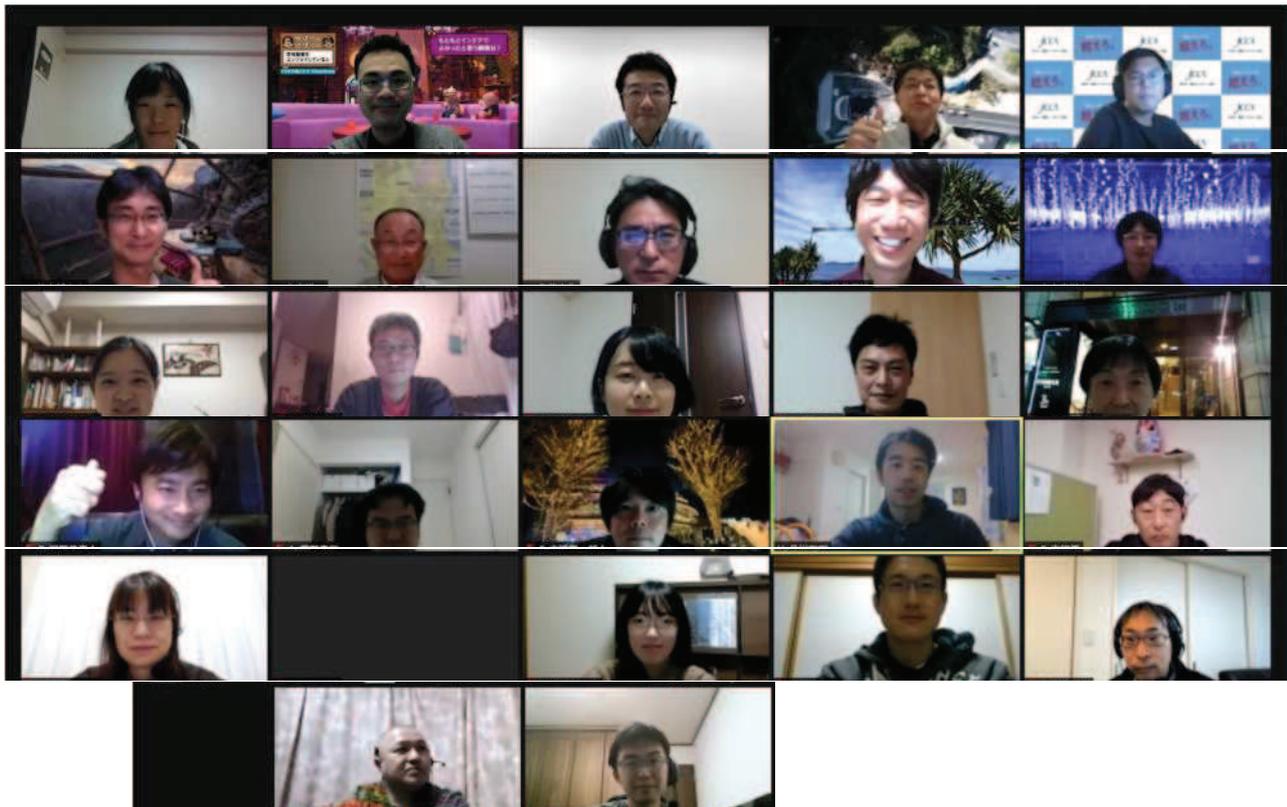
・ベテラン技術者

→個人事務所専属になって、コロナに遭遇。→今後の事業計画の見直しへ！

今後の情勢も見据えてプログラミング教育へ。

実践報告会でのスライド

3. 3. 記念撮影(19:30):岩部、守田



集合写真(第2部)

3. 成果と所感

3. 1. 例会(第1部)

<良かったことなど>

- ・外部例会を再開でき、講演+グループワークという青年の強みを生かした例会ができた。
- ・広報に力を入れて、ビラの配布、プレスリリース(開催案内・開催報告)の作成・投げ込み、記者への送付したおかげで、建設情報新聞に開催案内が掲載された。開催報告も掲載されると思われます。
- ・定員がすぐに埋まり、締め切り後、広聴者のみの参加者募集ができた。
- ・担当メンバー、ファシリテーターで打合せが密にできた。
- ・ファシリテーターの負荷が非常に高いなか、うまくまとめてくださったことで例会の質が高められた。また、PPTで資料作成できたことで、資料の保存、共有が容易であった。
- ・Zoomの運用がスムーズで比較的接続が切れるといった、大きなトラブルがなかった。
- ・同じ若手層の協会団体とコラボできた。
- ・グループワークに講師も混ざってディスカッションできたことで、講師3名も新たな気づきが得られ、講評に繋げることができた。
- ・外部例会を完全オンラインで実施できたことで、経験と課題を得ることで、今後のWeb例会の参考となることができた。
 - ・1部の開催報告が、日刊建設工業新聞(11/30 2面)、日刊建設通信新聞(12/1 2面)にそれぞれ掲載された。なお、11/18に日刊建設通信新聞に開催の案内も掲載されている。

<課題点>

- ・全体的に時間が押したこと。特に講師の講演時間。呼び鈴とか必要であった。
- ・タイムキーパー不在で、司会をしながら岩部がやっていたのですが、時間間違いが多くあり、ファシリテーターの皆さんに迷惑を掛けた。その結果として、グループワークの時間を短くしてしまったため、タイムキーパーはオンラインでは特に必要と感じた。
- ・ドタキャン者が10名以上でしまった。オンライン・無料イベントなのでしかたないですが、なんとかここは改善したいとことです。また、当日zoomのアドレスを教えてください！という非常識な方も見受けられた。
- ・ファシリテーターの皆さんに過剰な負担をかけてしまったこと。ファシリテーター1名、書記1名体制が今後いいのではないかと感じ、ここのところは、配慮不足であった。
- ・入室・退室を繰り返していた参加者がいらっしゃいました。再入室時、声掛け等の必要性があるかもと感じました。
- ・グループワークの時間が当初の45分でも短かった。初めてオンラインで出会うことを考えてアイスブレイクを15分程度いれてワークすることは改善点として、今後に生かしたいと考える。
- ・写真撮影時に、顔出しOKな人はお願いしますと、いったのですが、広報用で資料を使いますとお伝えし忘れたこと。

3. 2. 例会(第2部)

<良かったことなど>

- ・グループワークで一緒にメンバーが再会し、ファーストステップの実践ができたこと。
- ・多くの参加者が実践、実践に向けてアクションを起こしていたこと。2回シリーズにしたことがいい結果につながった。
- ・懇親会を年齢の近い世代同士で話すことができ、各世代からの気づき、共有を報告できたこと。
- ・ブレイクアウトセッションの後に、各部屋でのいい気づき、共有の報告ができたこと。
- ・積極的な意見交換ができたこと。
- ・参加者から、懇親会再延長のリクエストがあるなど、交流が盛んにおこなわれたこと。
- ・例会のヒントやシリーズ化してほしいなど、参加者からのご意見を多数頂け、今後の参考になったこと。
- ・第2部も大きなトラブルなく終えたこと。

<課題点>

- ・青年メンバー、参加者の事前連絡以外の欠席者が多かったこと。予定が入るので仕方ないと思うが、連絡はほしいと感じた。

3. 3. 例会の開催報告

- ・プレスリリースを作成して、配信した結果、2社から掲載を頂いた。今後も継続していきたい。

日刊建設工業新聞 11/30 2面

技術継承の 在り方を指南

日本技術士会、ウェブ形式でセミナー開催

日本技術士会(寺井和弘会長)は、ウェブ形式のセミナーを21日に開いた。テーマは「技術の継承(伝承)を考える」に設定。若手と中堅、ベテラン技術者が講師役となって技術継承の在り方や人材育成の方法を指南した。12月12日には実践報告会と懇親会を開く予定だ。

セミナーは技術士会の青年技術士交流委員会が主催した。技術者の高齢化に伴う人材不足を受け、若手人材の育成に力を入れる経験豊富な技術者が失敗例や成功体験を披露した。

若手技術者を代表して東芝エネルギーシステムズの向井健朗氏は「全世代が二人三脚となって、技術継承を本気で進めるべきだ」との思いを語った。オリエンタルコンサルタツの伊藤昌明氏と鹿島の鮫島信行氏が中堅、ベテラン技術者の立場で若手人材の育成方法をアドバイスした。

日刊建設通信新聞 12/1 2面

課題解決に向け 初めの一步議論

技術士会青年交流委が
技術の継承ウェビナー

日本技術士会の青年技術士交流委員会(竹内将人委員長)は、「技術の継承(伝承)を考える」をテーマにウェビナーを開いた。写真。全国から幅広い世代の技術者約50人が



講演では、若手代表の向井健朗氏(東芝エネルギーシステムズ)と中堅代表の伊藤昌明氏(オリエンタルコンサルタツ)、シニア代表の鮫島信行氏(鹿島)がそれぞれの思いや経験を踏まえて技術の継承に求められる個としての心構えや姿勢、組織としての制度・体制などについて語った。

これを受けたグループワークでは、参加者同士が議事湯津継承の課題や解決策について縦横に議論し、「自分がどう思っているかを伝え、問いかけることでモチベーションを芽生えさせる」「良いものは良いという職場環境・空気づくりをする」「自分の生き方を見せることが継承」などとそれぞれが「アクションプラン」を宣言し合った。参加者からは「スキル・テクニクではなく、マインド・心構えを継承すべきだ」といった情熱的な意見も飛び交い、大盛況のうちに幕を閉じた。

同委員会では12日に実施報告会を開き、今回の参加者に宣言したアクションプランの実践報告をしてもらう予定だ。実際の行動に移し、その結果を共有することで解決へのさらなる前進につなげる。

新聞掲載

11月21日に技術継承ウェビナー開催/技術士会青年委

2020-11-18 2面 

日本技術士会の青年技術士交流委員会は21日、技術の継承（伝承）を考えるウェビナーを開く。技術者の高…

課題解決に向け初めの一歩議論/技術士会青年交流委が技術の継承… 2020-12-01 2面 

日本技術士会の青年技術士交流委員会（竹内将人委員長）は、「技術の継承（伝承）を考える」をテーマにウ…



日刊建設通信新聞 WEB 版

4. 今後の展開

- ・建コン協や土木学会等の学協会とのコラボイベントは、今後も続けていきたい。
- ・12/4 に建コン若手の会(伊藤代表)、土木学会若手 PU 小委員会(前田委員長)、青年委員会(竹内委員長、岩部)で今後のコラボ・連携についてキックオフ・ミーティングを行い、定期的な情報交換を行うこととした。
- ・コラボイベントを通じ、双方にとって WIN-WIN となるような結果が得られると良い。
- ・シリーズものとして、さらなる情報共有と参加者との継続的な交流を持ちたいというご意見を頂き、今後の例会に対する大きなヒントを頂いた。
- ・参加者同士の交流ができるような例会を考えていきたい。

以上

2020年11月例会 外部例会アンケート

担当例会 G 杉山綾音

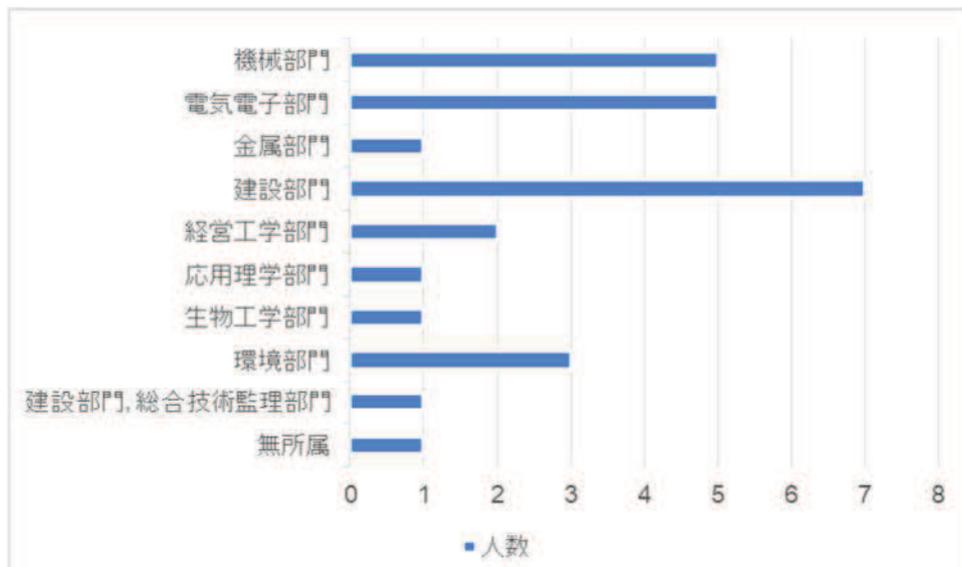
参加人数 31人 (外部参加者28人 講師3人)

回答者 27人 (外部参加者26人 講師1人)

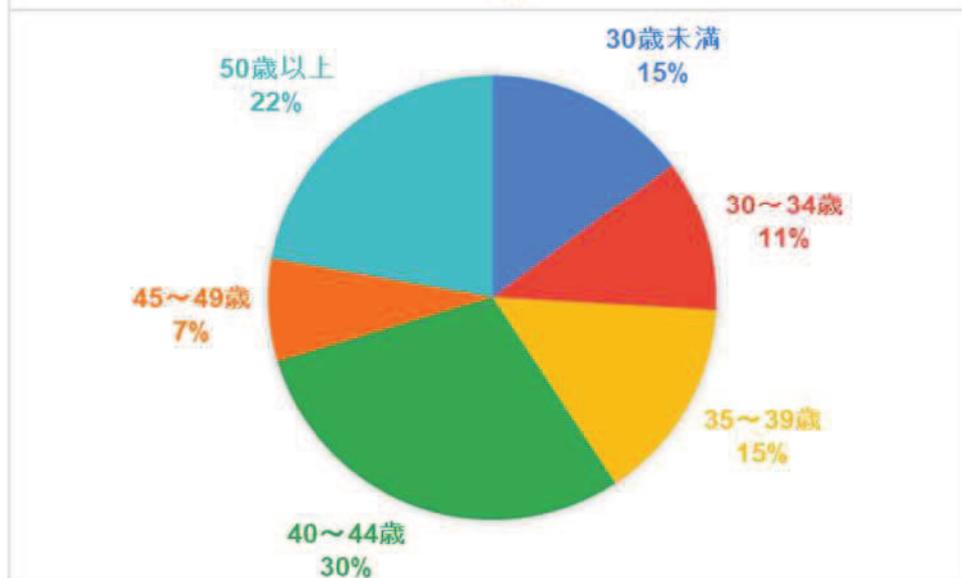
回答率87%

Q1. あなたご自身について教えてください

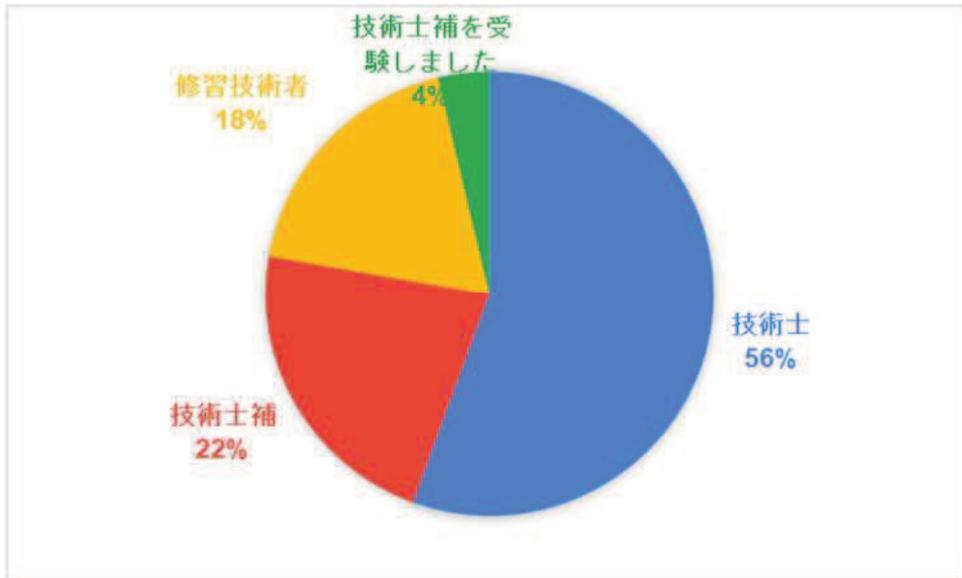
1. 技術部門 (回答者27人) 複数選択可



2. 年齢層



3. 会員層 (回答者 27人)

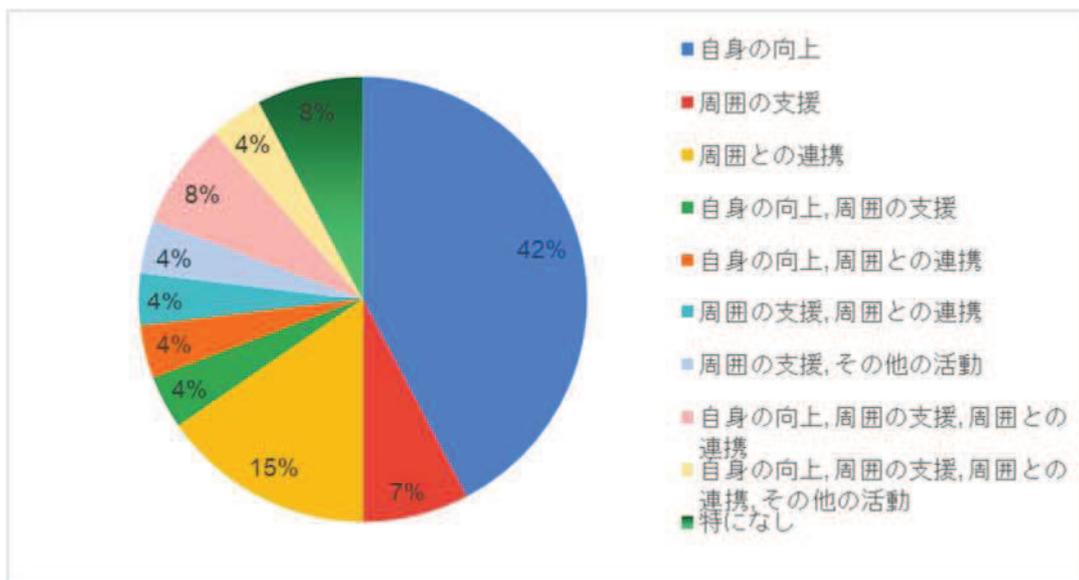


Q2 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

(回答者 26人)

回答選択肢 複数選択可

- ・自身の向上
- ・周囲の支援
- ・周囲との連携
- ・その他の活動
- ・特になし

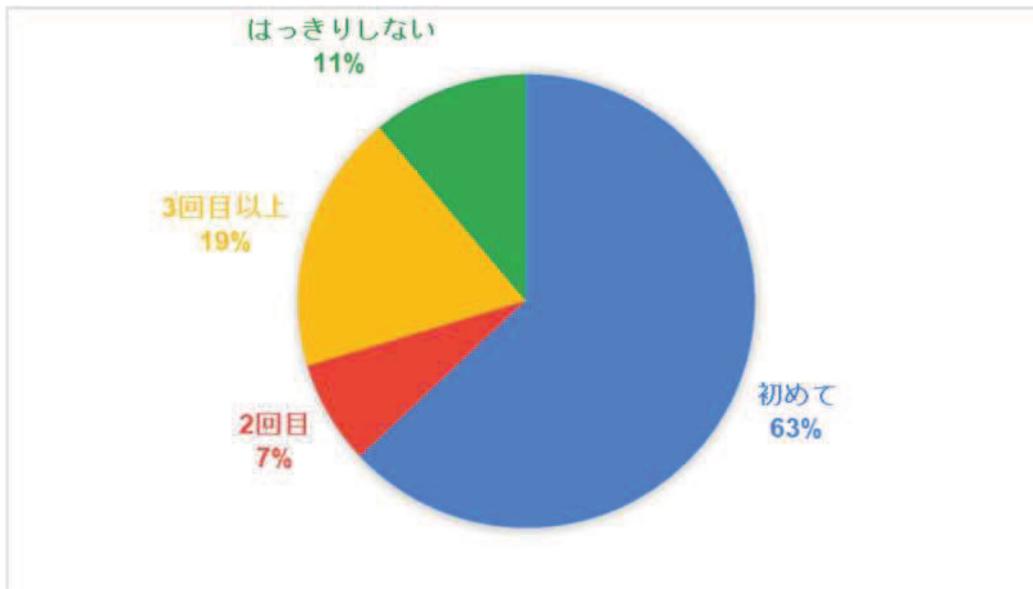


その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください

- ・技術士会四国本部主催の香川高専への出前講座へ参加
- ・過去の設計案件の顧客要望からのインプットとアウトプットの整理(QFD, FMEA, 設計の暗黙知を定量化して形式知化する等)

Q3. 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数 (回答者 27人)



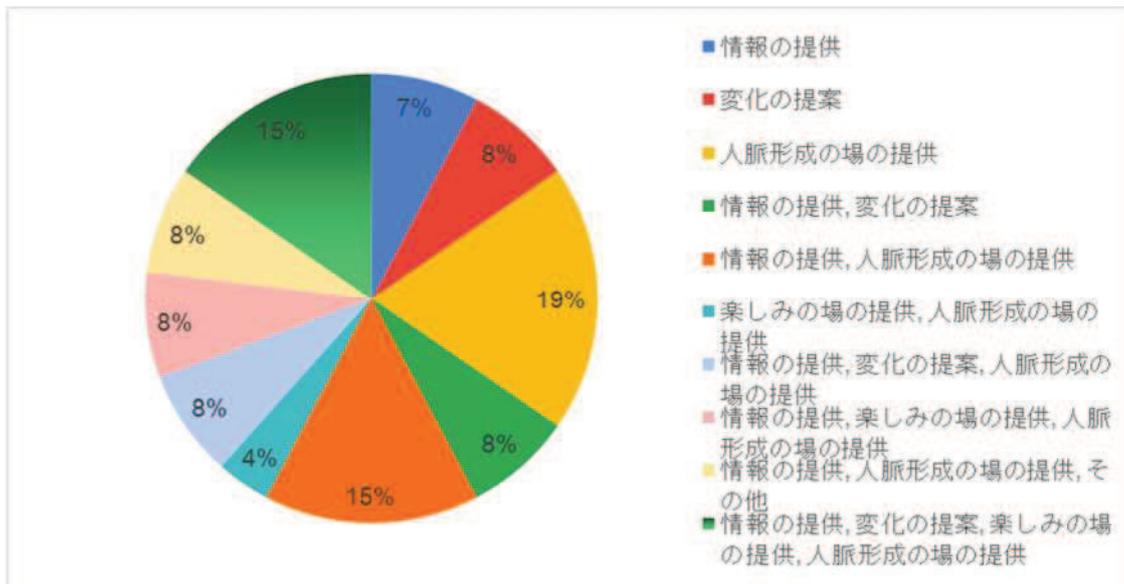
2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ (2回目以上の方のみ)

- ・見学会
- ・伝わる文章
- ・理科教室 (中部で参加)
- ・モチベーション理論、動機付けモデル理論
- ・「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」WS (2019/5/11)
- ・ディベートには熱が入りました。

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント（回答者26人）

回答選択肢 複数選択可

- ・情報の提供 ・変化の提案 ・楽しみの場の提供 ・人脈形成の場の提供 ・その他



「その他」を選らんだ方は具体例を回答してください。

- ・様々な目的のグループ討議の充実
- ・難しいテーマだと思うのですが、白書等でもデジタル人材の育成がテーマに上がっています。このデジタル人材というもの具体的には何を示すのか、示すべきなのかもややとしています。私は3年前まで自動車の樹脂部品や金属部品の設計開発に携わっていましたが、こうした設計環境であればどのような人材をデジタル人材と考えるのか、あるいは育成していくべきなのか考えていく場を設けていただけたらと思います。

上記で選択したものの具体例を書いてください

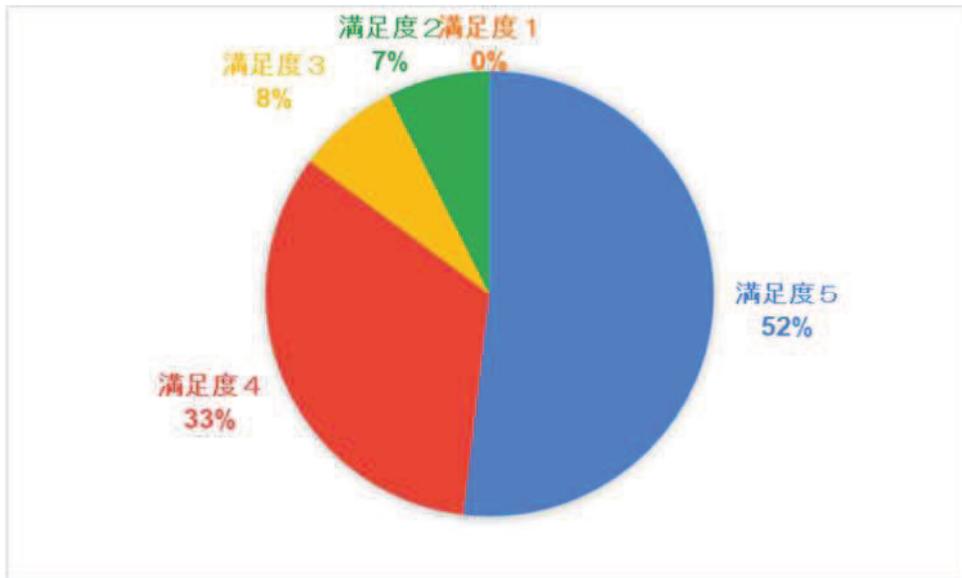
- ・今回のような課題の共有
- ・仕事を楽しくする工夫、相手との誤認のないコミュニケーションの取り方
- ・交渉力・議論を深めるテクニックを学びたい
- ・変化を続ける世の中にあって、技術士の役割や位置づけも変化します。自分ひとりで考えても限りがあるため、どう変わっていかなければならないか、どう変わりたいか、といったことを事例に挙げて協議したいと考えます。
- ・社外交流、異業種交流によるコラボ
- ・時代は変化するので、変化にどう対応していくか、考える場がほしい
- ・今ご開催のもので足りると思いますが、見学会や講義、討議の場でしょうか。
- ・自動車設計開発ではPLMを導入していましたが、現実には過去の設計情報はExcelにまとめて個別管理していました。自動車部品はメーカーが多岐にわたるので公開できない部分もありPLMをどのように活用すれば本来の性能を発揮できるのか考える場が欲しいです。
- ・今回のような技術継承やモチベーションアップをテーマとしたWS

4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

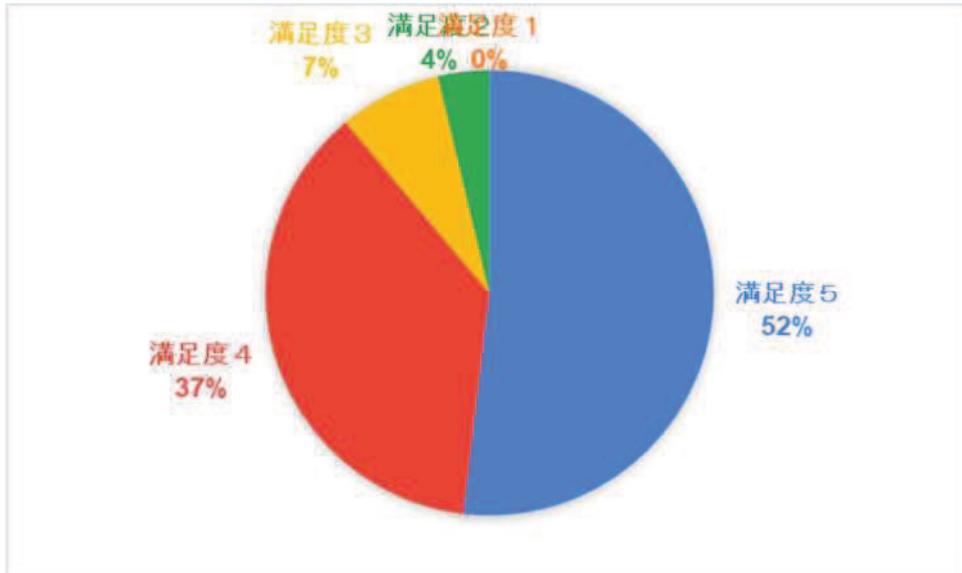
- ・いつもグループワークの時間が少ないのももう少し欲しい。
- ・zoom 利用 土曜日
- ・問題提起講義+グループワーク
- ・コロナ禍の折、Web 開催が致し方ないが、この機に Zoom, Teams の活用をマスターしたい。
- ・web は参加しやすいのでよいと思っています。時期について、コロナ禍もあったかもしれませんが、上期だと嬉しいです。
- ・発表者:自動車関連の PLM システムに携わったことがある方

Q4. 今回のイベントについて

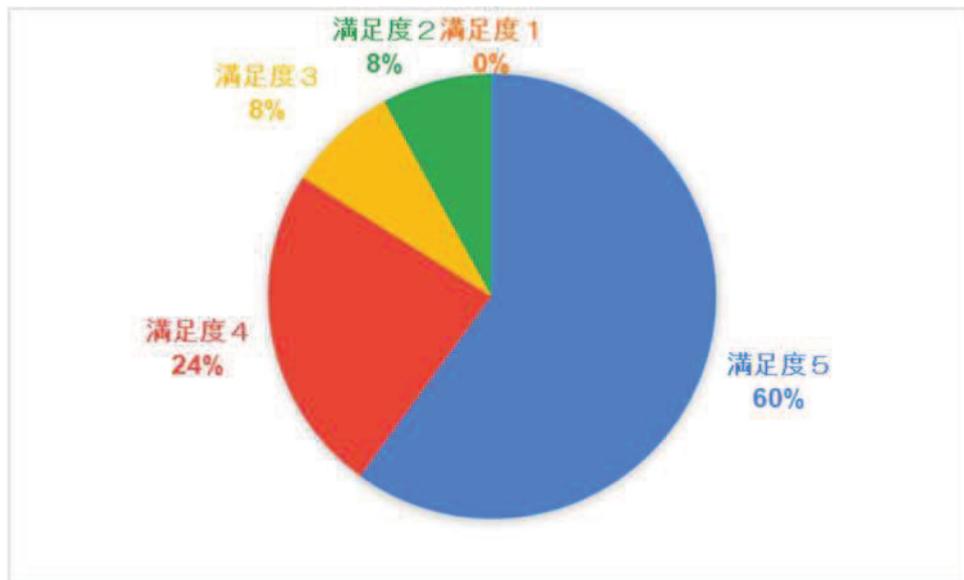
1. 今回のイベント全体（回答者27人）
満足度を5段階評価で選択回答



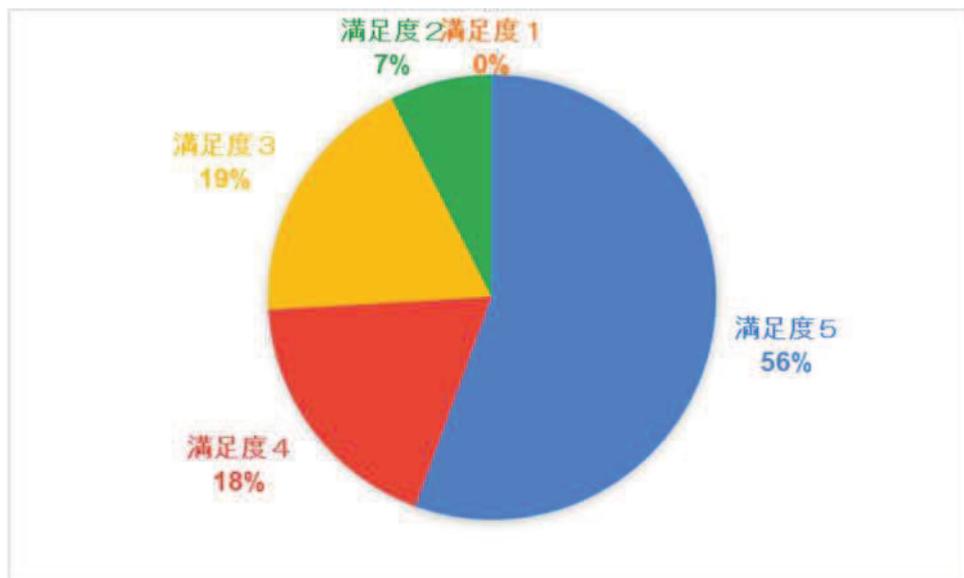
2. 講師の話し方や進め方（回答者27人）
満足度を5段階評価で選択回答



3. グループワークの内容(参加した方は、回答して下さい) (回答者25人)
満足度を5段階評価で選択回答

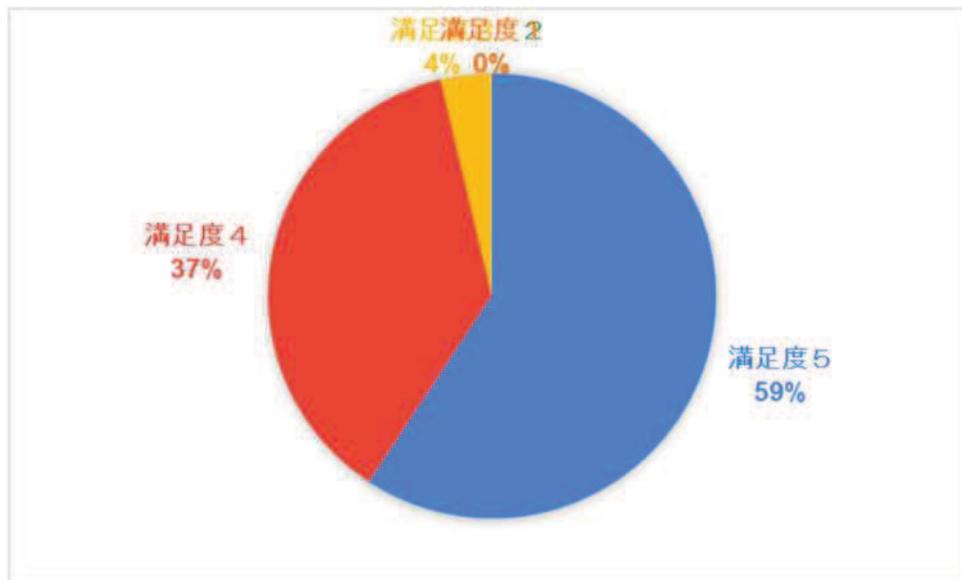


4. 配布・プレゼン資料の内容 (回答者27人)
満足度を5段階評価で選択回答



5. スタッフの対応

満足度を5段階評価で選択回答



6. 講師にお伝えしたいこと

- ・いつも難しい内容ですが、勉強になります。
- ・チャットに質問したとおりです。講演時間が一人10分程度は短いと感じました。一人1時間位は聞きたい内容でした。
- ・大変に興味深いお話をいただきまして、ありがとうございます。本当に参加して良かったと思えました。
- ・丁寧でわかりやすいプレゼンありがとうございました！
- ・皆様ありがとうございました。考える良いきっかけになりました。
- ・年齢層別に講習いただいたおかげで、若手だけではなく中堅やベテランの方が思案、試行錯誤している内容も伺えて大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・自分以外の方の意見が聞け、特に若手のモチベーションへの視点は、はっとした発見でした。
- ・伊藤さん、鮫島さんともに大変気付きの多い講演で感銘を受けました。
- ・伊藤さんの講評にありました、ビジネスの内容は違えど、根本的なものはマインドに集約するという部分に感銘を受けました。私は今年転職したばかりで現業界の情報収集にばかりとらわれていましたが、前職でのマインドを現職に活かさないかよく考えてみます。きっかけを与えてくださり、ありがとうございました。
- ・明解でメッセージ性の高いご発表でした。時間を費やしてよくご準備頂いたことが伺われました。
- ・わかりやすいプレゼンで為になりました。皆様をメンターとしてまねていきます。
- ・短い時間でよくまとめられていたので、苦労したのではないかと想像します
- ・貴重なお話をいただきました。ありがとうございました。社内で同テーマの活動をしておりますので、今後の活動に役立てます。
- ・大変興味深いお話でした。具体的な経験談も今後参考とさせて頂きたいこともあり、ありがとうございました。発表資料の共有はありますでしょうか？可能でしたら頂きたいです。
- ・今回は貴重なお話をしていただきましてありがとうございました。今後とも様々なお話をしていただくことを楽しみにしております。

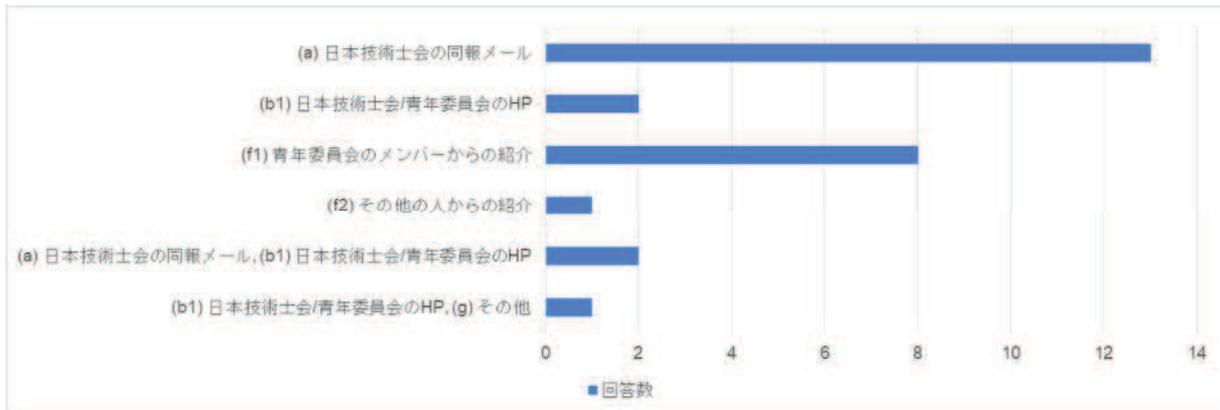
7. スタッフに伝えたいこと

- ・今後ともこのような会を行ってほしい。遠方なのでWEBで今後も。
- ・Zoomについて2点気になった点がありましたので、報告させていただきます。1)『お手数をおかけしますが、ログインの際にお名前を【漢字フルネーム】で入力ください。』について当方、招待URLをクリックすると、ログイン画面は表示されず、いきなりミーティング画面となりました。いつ、どうやって名前変更をするのか迷いました。2) マニュアル類 Zoomの利用マニュアルが一切ない点が気になりました。以上、よろしくをお願いします。
- ・グループワークが駆け足でもう少し議論できればと思った。
- ・事前資料が欲しいです。そうした方が、講義の理解や、事前検討ができるため
- ・在宅勤務が多くなる中、まさに今、自分の周りでの環境を見つめながら考える場となりました。ありがとうございました。
- ・初めて参加しました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・運営がとてもスムーズで、1回目とは思えませんでした。良い会をありがとうございました。運営お疲れさまでした。
- ・初めての参加でしたが、皆様優しくて意見を出しやすかったです。ありがとうございました。
- ・飛び入り参加させていただきありがとうございます第二部も可能でしたら、参加調整よろしくをお願いします。私のモチベーションも上がりました”
- ・大変お世話になりました。オンライン進行は時間コントロールが難しい中、とてもきめ細かい進行、フォローありがとうございます。
- ・北海道本部の青年CPDと日程が重複していました。
- ・ファシリテーターを担当していただいた河野さん、意見をうまく引き出していただきありがとうございます。
- ・よくコミュニケーションを相互に取ってご準備下さったことや、士気（モチベーション）の高さが伺われました。有難うございました。
- ・今後とも可能な限り参加させていただきますので宜しくお願いします。
- ・これからも頑張ってください。
- ・お話をいただく場を設けていただきありがとうございました。社内で同テーマの活動をしておりますので、今後の活動に役立てます。
- ・若手中堅ベテランのお話も、全体構成よかったと思います。ありがとうございました！
- ・お忙しい中、講演の調整をしていただきありがとうございました。今回の議題はものづくりだけでなく、サービス業やその他の分野でも通じるものがあり、私自身も関心があり参加させていただきました。今後ともこうした活動に参加させていただければと思います。
- ・こちら側の設定かもしれませんが、若干通信障害がありました

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか (回答者 27人)

回答選択肢 複数選択可

- a) 日本技術士会の同報メール
- b1) 日本技術士会/青年委員会のHP b2) 青年委員会の Facebook
- b3) 青年委員会の Twitter b4) 青年委員会の出演ラジオ
- c) 青年委員会のブログ
- d) 月刊 PE の行事予定
- e) 過去に参加した青年委員会のイベント
- f1) 青年委員会のメンバーからの紹介 f2) その他の人からの紹介
- g) その他



その他と答えた方は具体例を教えてください。

- ・弊社技術士担当 三村さん
- ・CPDの申し込みボタン

Q6. 参加の目的と達成度について

1. 本イベントの参加の目的を教えてください。(回答者27人)

回答選択肢

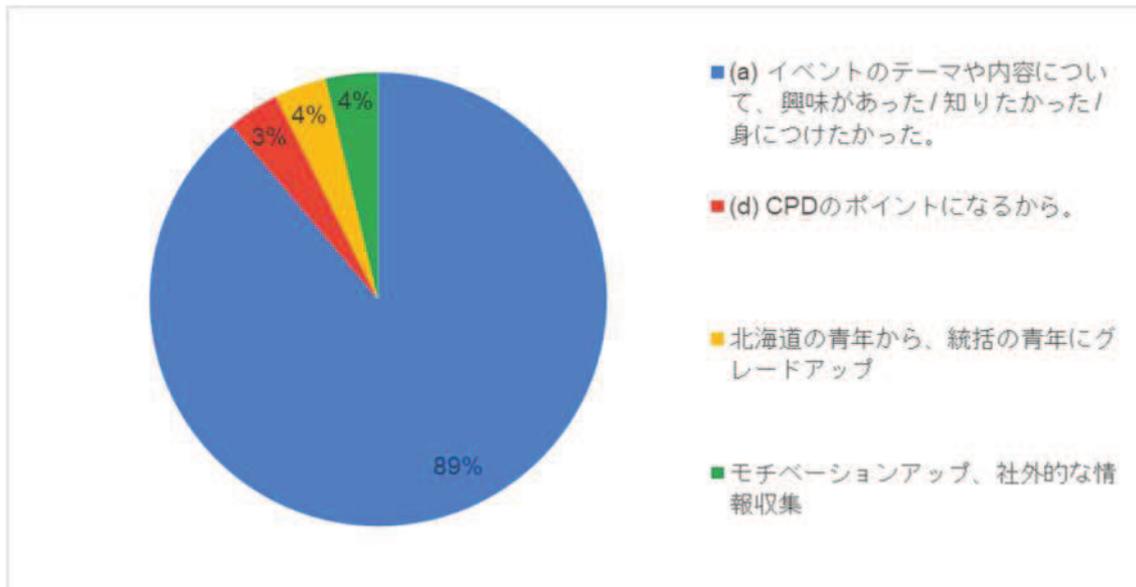
a) イベントのテーマや内容について、興味があった/知りたかった/身につけたかった。

b) イベントの参加者と知り合いになりたかった(人脈を広げたかった。)

c) 青年委員会という活動組織や借る号について知りたかった

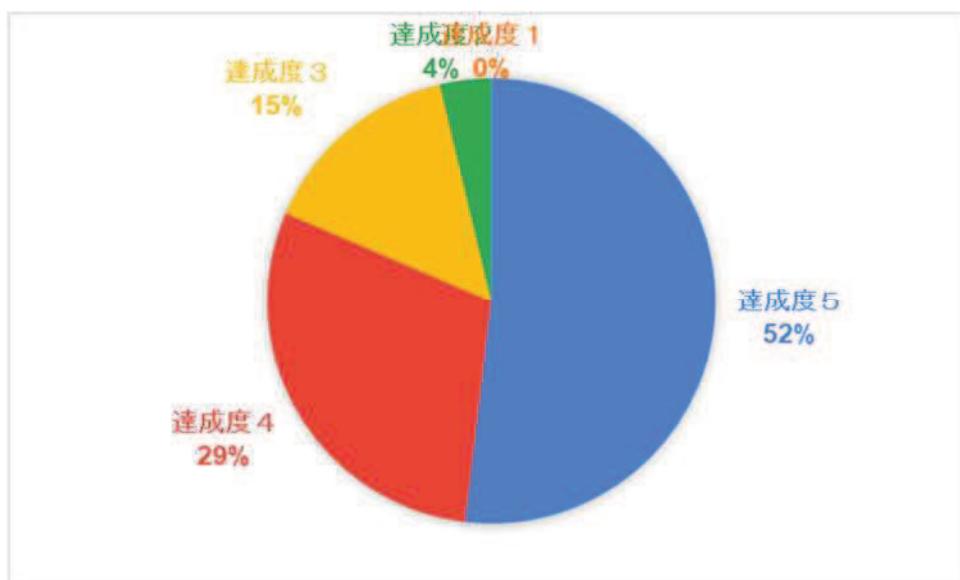
d) CPDのポイントになるから。

その他



2. 上記の目的の達成度(回答者27人)

達成度を5段階評価で選択回答



行事名	12月例会:技術士のための交渉力向上講座～ゲーム理論を添えて～
日時	2020年12月19日(土)
場所	ZoomによるWeb会議
講師、発表者	-
担当者: (○印:リーダー)	○原田、井口、後藤、守田
参加者数	19名

1 背景・目的

日頃の業務において様々な問題を解決していく過程で、交渉力は非常に重要であり、技術士に求められる資質能力である。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大による社会情勢の変化に伴い、今後は交渉機会の増加や交渉場面の多様化等、様々な変化が起こりうるものと推測される。

このような状況に柔軟に対応するため、交渉で陥りがちな矛盾について、ゲーム理論を通じて学ぶとともに、基本的な交渉術を体感し、業務における意思決定の円滑化を図る。

2 例会内容

2.1 例会担当挨拶(13:30～13:40):原田

例会の目的及びスケジュール、注意事項について説明した。

2.2 青年委員会の紹介(13:40～13:45):吉浦

本例会を主催する青年委員会の活動紹介を行った。

2.3 アイスブレイク(13:45～13:55):参加者

参加者を5～6名のグループに分け、自己紹介を行った。

2.4 ゲーム理論・交渉術説明(13:55～14:50):原田・井口

本例会のテーマである交渉について、基礎的な理論であるゲーム理論の説明を行った。また、交渉の目的や原則、テクニックについて説明した。

2.5 グループワーク(15:00～16:00):参加者

講義内容の理解を深めることを目的として、「沖縄旅行の契約内容・価格」を主題とした模擬交渉を行った。参加者を2～3名×8グループに分け、「旅行会社」「申込者」の役割を設定し、各役割の利得の最大化を模擬交渉の目的と位置付けた。参加者には事前に資料を送付し、この資料を基にグループワークを進行した。

まず、交渉の戦略を決定するため、グループごとに10分間の作戦会議を行った。

次に、旅行会社と申込者とで、10分間の模擬交渉を2グループずつ4回行った。グループの代表者1名が交渉を行い、残りのメンバーは見学という形をとった。

最後に、交渉の結果及び事前に伝達していたミッションを共有し、交渉内容の振り返りを行った。

2.6 2021年1月例会の紹介(16:00～16:05):村上

次月の例会の内容紹介及び宣伝を行った。

2.7 アンケート記入・写真撮影(16:05～16:10):後藤・守田

アンケートのQRコードを提示し、記入を依頼した。Zoom上で全体の写真撮影を行った。

2.8 情報交流会(16:10～16:30):参加者

例会終了後、時間のある参加者に残っていただき、井口委員・守田委員による講評及び参加者の意見交換を行った。

3 成果と所感

2回目のオンラインでの例会開催となったが、対面式での例会と比較して幅広い層の参加者を集めることができた。

グループワークでは、オンラインではあったが、参加者から様々なアイデアが発表され、活発な議論が行われた。

情報交流会にも多くの方に引き続きご参加いただけ、参加者同士で交流を深めることができた。

全体的に進行が遅延気味であった。特にグループワークで時間が超過してしまい、例会のまとめが手薄になってしまった。模擬交渉を10分と設定したが、議論が盛り上がった、対面とは異なり議論の途中で静止しづらかったことが原因と考えられる。例会企画段階での時間設定を、ゆとりをもって検討すべきであった。

模擬交渉の理解を深めるため、事前に資料を送付したが、当日までに内容を確認していない参加者も見受けられた。また、模擬交渉の流れ等、意図が伝わっていない部分もあった。一方、外部アンケートでは、事前に詳細な資料を送ってほしかったという意見も散見された。このような要望も鑑みて、そもそも例会の時間内で完結できる企画立案や、資料を事前配布する場合は図表主体のわかりやすいものとする、等の工夫が必要だと感じた。

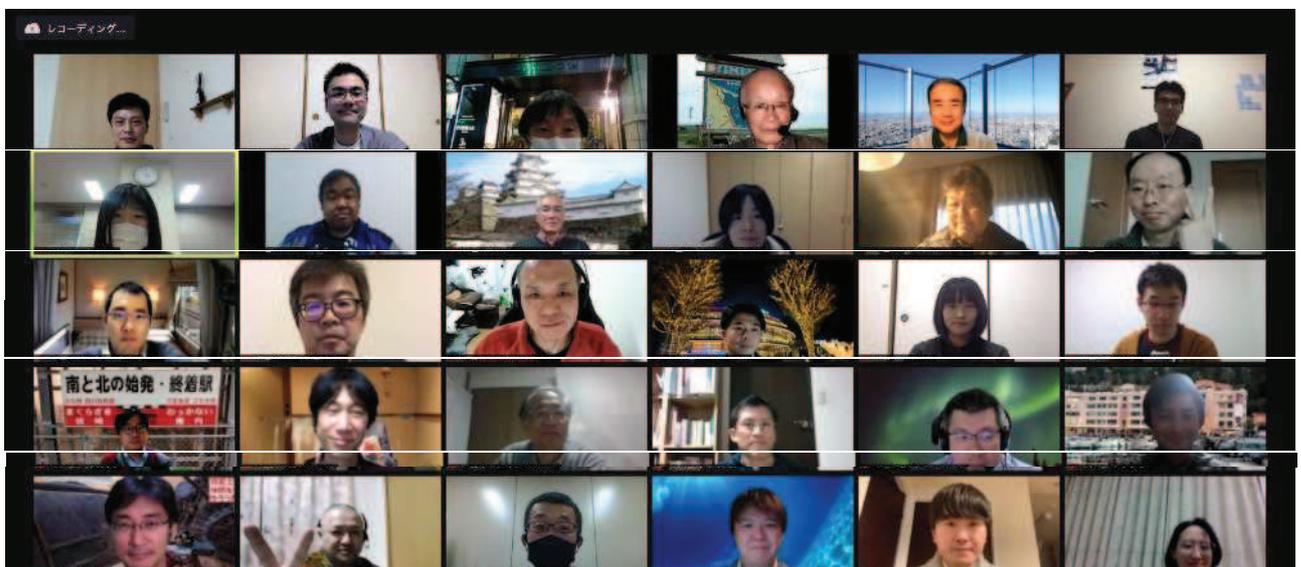
当日キャンセルの方が4名いらした。事前のグループ分けを細かく行っており、ドタキャンを受けたグループの再振り分けへの対応が難しかったので、一部の参加者にご迷惑をおかけした。ドタキャンが発生しても融通の利く内容・人員配置としておくべきであった。

当初、委員はグループワークに参加せず、見学のみという想定であったが、参加者の質問対応やファシリテーター的な役割を、臨機応変に行っていただいた。今回は委員各位の対応力に頼りすぎてしまったので、事前説明を行っておくべきであった。

4 今後の展開

これまでのオンライン例会により、時間管理及びドタキャン対応等の共通の課題が表面化していると考える。時間に余裕を持たせ、かつドタキャンをリカバーしやすい例会企画を行うとともに、ドタキャン者の名簿化等、オンライン例会に係るノウハウ蓄積を進めていきたい。

5 実施状況



2020年12月例会 例会アンケート

担当例会 G 後藤洋之

I. 外部例会アンケート

参加人数 19人

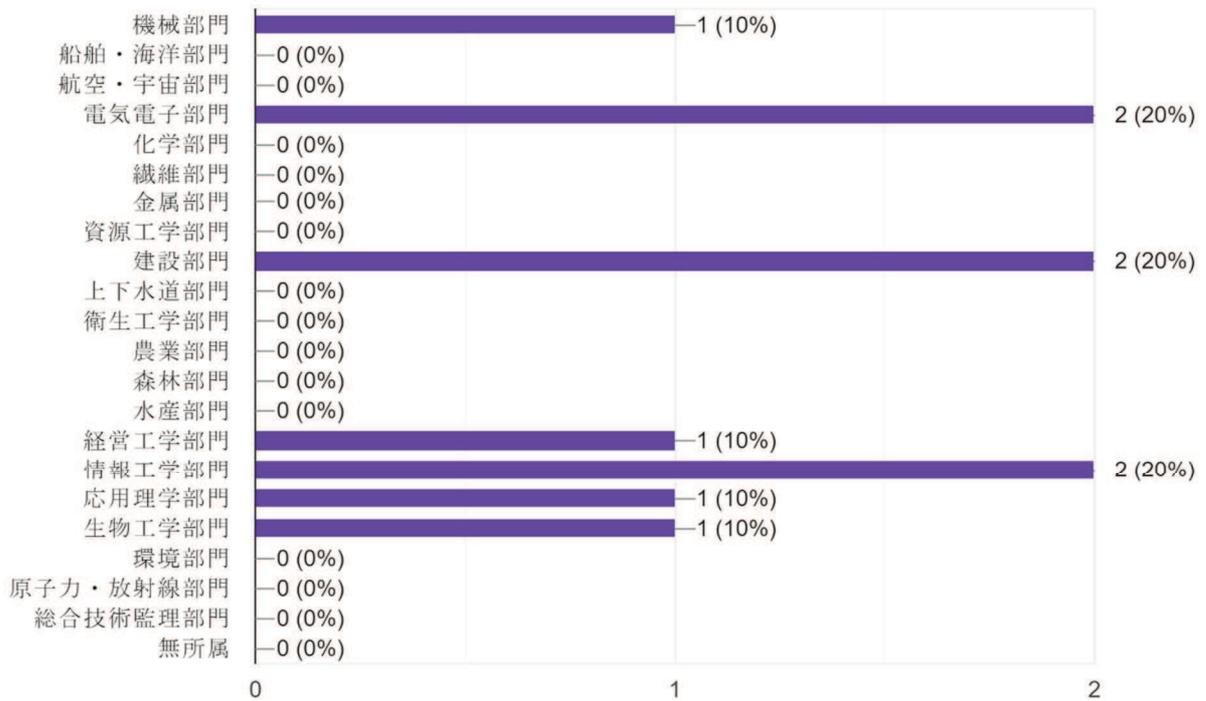
回答者 10人

回答率53%

Q1. あなたご自身について教えてください

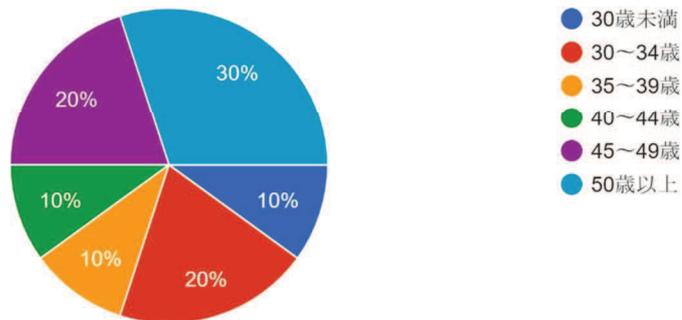
2.技術部門

10件の回答



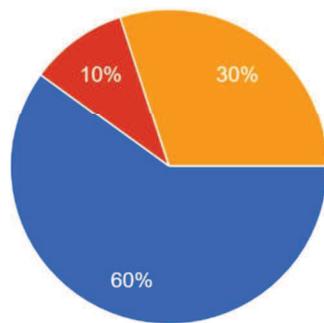
年齢層

10件の回答



会員層

10件の回答

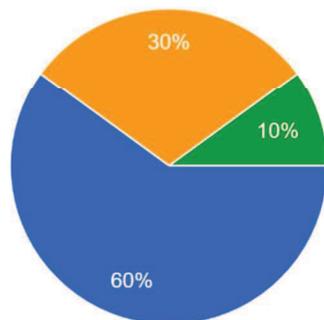


- 技術士
- 技術士補
- 修習技術者
- JABEE認定プログラムの学生

Q2 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

ご自身の具体的な活動について

10件の回答



- 自身の向上
- 周囲の支援
- 周囲との連携
- その他の活動
- 特になし

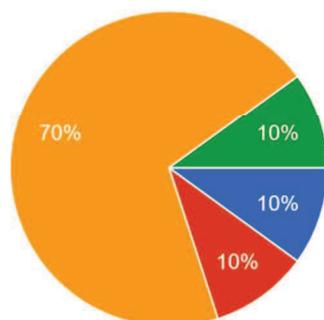
その他の活動を選んだ方は具体的に列挙してください。

- ・ IT コーディネーターとしての活動

Q3. 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベント参加回数

10件の回答



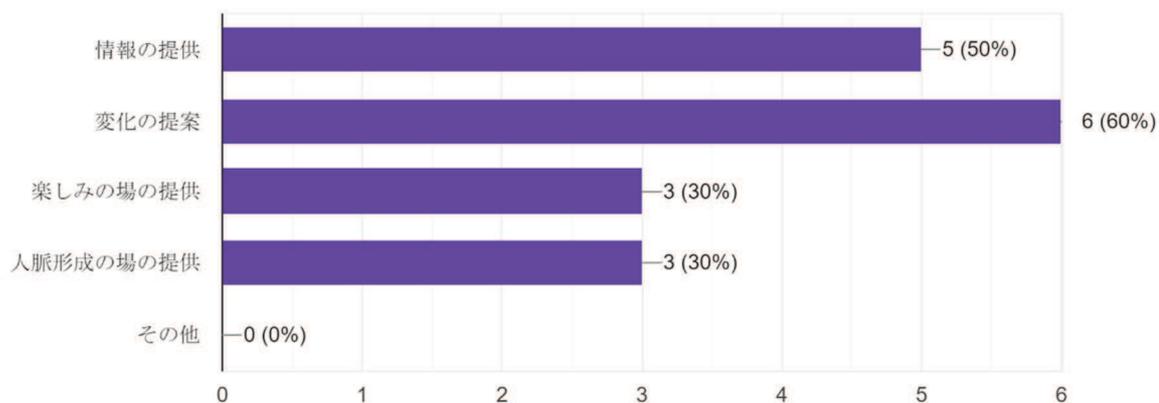
- 初めて
- 2回目
- 3回目以上
- はっきりしない

2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

- ・沖縄旅行の交渉
- ・技術の継承（伝承）
- ・技術継承
- ・プレゼン力向上
- ・ディベートで学ぶ、話し合いの技術
- ・ディベート
- ・毎年4月の例会

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

10件の回答



上記で選択したものの具体例を書いてください

- ・ジェネレーションギャップの解消法
- ・コロナ禍の中でいかに社会に貢献すべきか
- ・スキルの向上が可能なもの 参加型

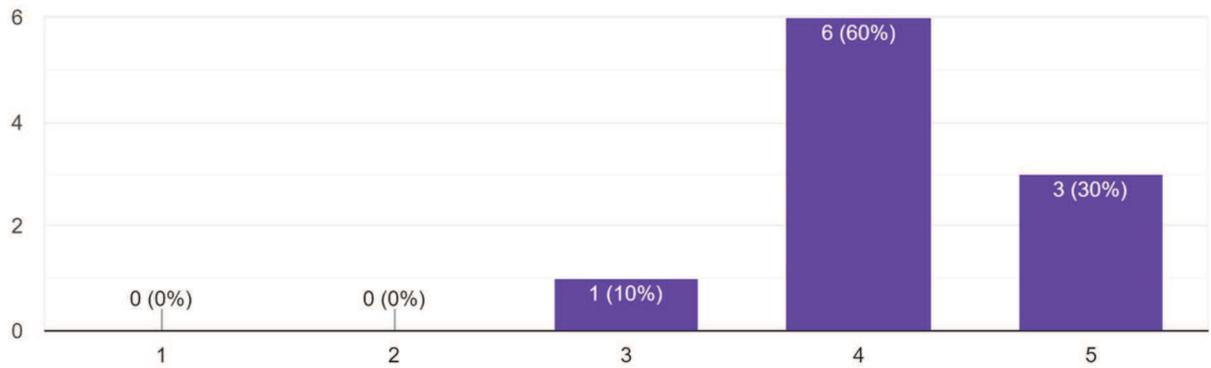
4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

- ・コロナが落ち着いたら、対面形式にして欲しいです
- ・会場が解禁になっても、Zoom と会場の併用を続けて欲しい

Q4. 今回のイベントについて

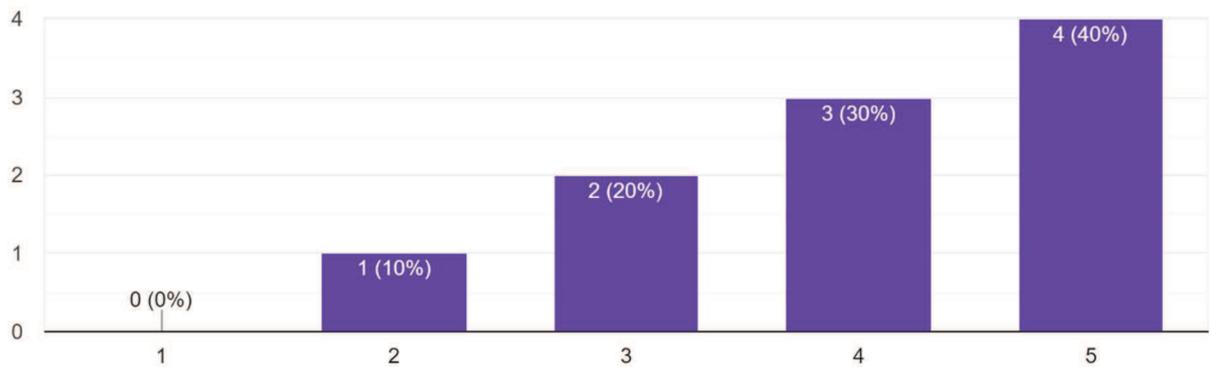
1. 今回のイベント全体

10件の回答



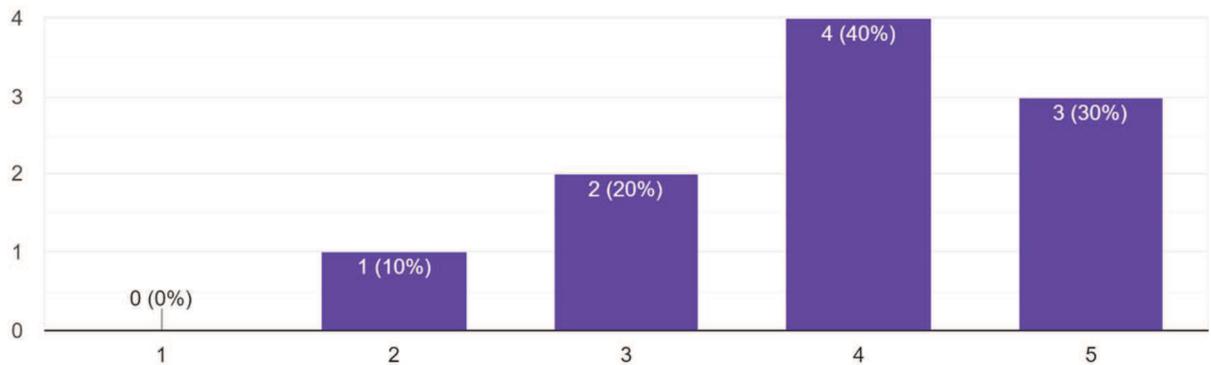
2. 講師の話し方や進め方

10件の回答



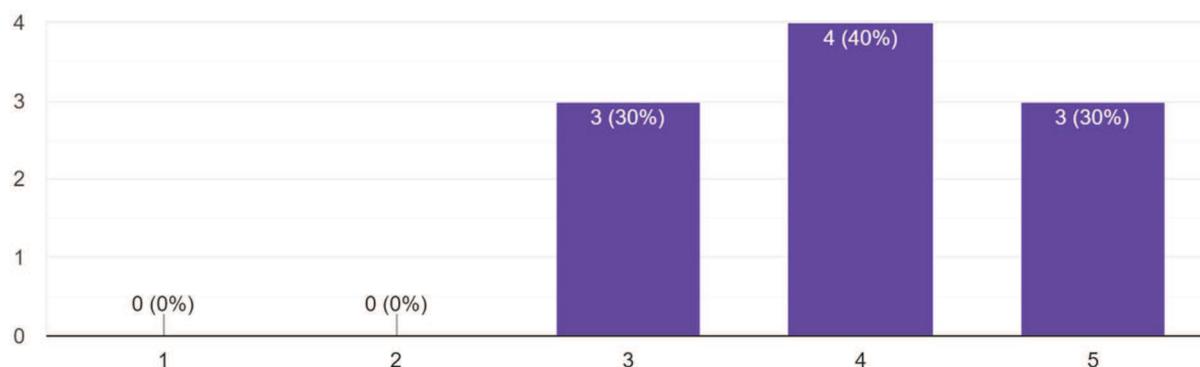
3. 配布・プレゼン資料の内容

10件の回答



4. スタッフの対応

10件の回答



5. 講師にお伝えしたいこと

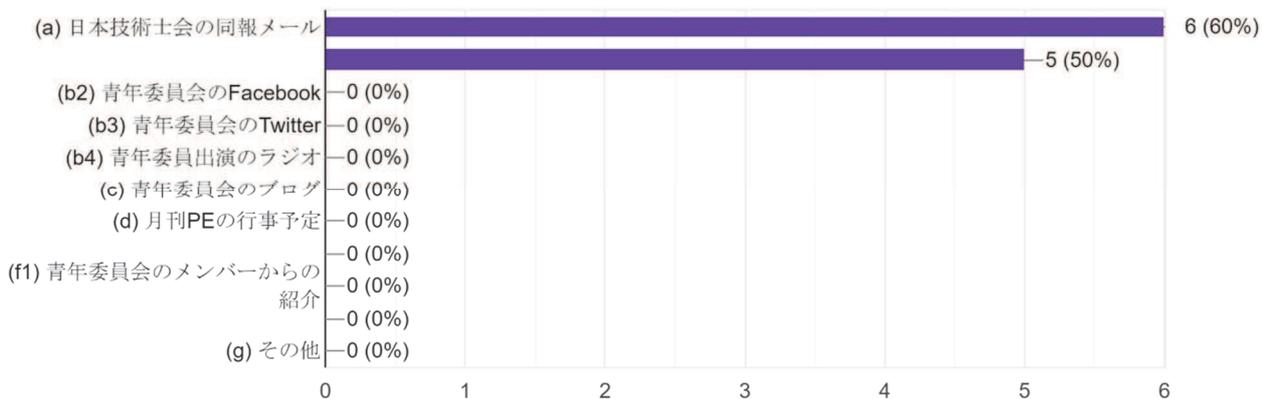
- ・ 値段を値切る、値切られるところが疲れた
- ・ なるほどと思う事が多くありました
- ・ じゃんけんゲームの説明の時は点数表を確認できたが、部屋に分かれてしまうと資料を確認できなかったなので、事前に資料をいただくか、参加者にメモをお願いするように一言いただけるとよかったです。
- ・ ひたすら講義するのではなく (^_^)、ワークを随所に取り入れてくださったのが、うれしかったです。
- ・ 事前の資料配布がありますと予習をして臨めるので助かります。
- ・ 前半の講義の中でのじゃんけんゲームはやらなくても良かったかもしれません。

6. スタッフに伝えたいこと

- ・ お疲れ様です。とても楽しく勉強出来ました。
- ・ 事務局の方、運営の準備と後片付け、データ整理、お疲れさまです。感謝申し上げます。
- ・ 模擬交渉について、班内の作成会議時間をもっと長く確保して欲しかった
- ・ 終了後にチーム内で反省時間及び情報共有する時間が欲しかった
- ・ 事前資料について、講義前に質問しておけば良かったと反省しました。班についてくださったスタッフの方も詳細を把握されておらず、資料の全体共有から話が始まってしまったのは残念でした。グループワークでは中堅、ベテランの方との距離を感じる事が多いので、今回は年齢があまり関係ないテーマなこともあり、楽しくかつ積極的に意見交換ができました。自分の発言への課題も見えて良かったです。ありがとうございました。

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか。

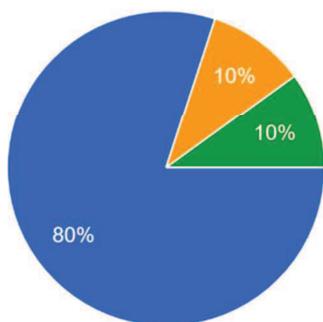
10件の回答



Q6. 参加の目的と達成度について

1. 目的は何ですか。

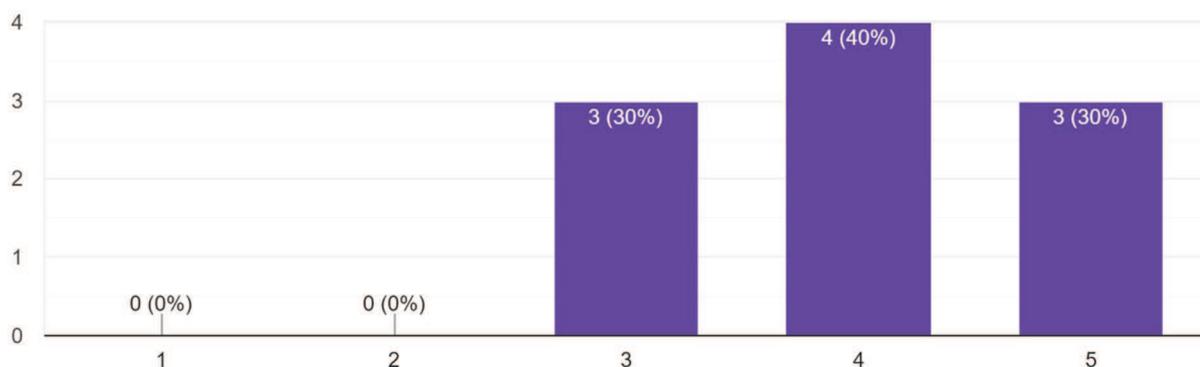
10件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった / 知りたかった / 身につけたかった。
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたいかった (人脈を広げたかった)。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。

2. 上記の目的の達成度

10件の回答



行事名	1月例会:『もう誰かのせいにはしない。仕組みを変えるための要因分析』
日時	2021年1月16日(土)
場所	ZoomによるWebinar形式
講師、発表者	村上 玲(技術士(機械工学))
担当者: (○印:リーダー)	○村上、鈴木、河野、明山、臼井
参加者数	参加者:13名 青年メンバー17名

1. 背景・目的

トラブル発生時、直感的に犯人を決めつけてしまい、肝心のトラブルの根本要因にたどり着けず、効果的かつ合理的な再発防止策を考えることができない状況に、誰も陥ることがある。

本ウェビナーは、このような直感的な犯人探しで思考停止しないために、発生した事象の問題点に対し「なぜ?」の問いを繰り返しながら段階ずつ論理的に要因を探り、真因を究明する要因分析手法である「なぜなぜ分析」を体験学習することを目的に開催した。

2. 例会内容

2. 1. テーマについての説明(13:30~13:45):村上

本イベントの目的およびスケジュール、注意事項の説明を行った。

2. 2. ウォームアップ(13:45~13:55):参加者

アイスブレイクを兼ねたウォームアップとして「1/8マンダラチャート」と称した練習問題をグループに分かれて実施した。

2. 3. なぜなぜ分析の説明(13:55~14:45):村上

「なぜなぜ分析」の概要と手法、7項目のコツを紹介した後、実例として仮想事例で作成したなぜなぜ分析を見せて解説した。その後、グループワークの課題テーマを説明した。

2. 4. グループワーク(14:45~15:45):参加者

参加者を複数のグループに分け、「職場にて新型コロナウイルス感染者発生により業務の遅延が発生し、それに伴う検収遅延により、取引先からのクレームに発展した」という仮想事例に対し、グループワークを通して、「なぜなぜ分析」を実践した。

2. 5. 発表・講評(15:45~16:15)参加者、村上

各グループ代表者に発表してもらい、それに対して講師が講評をそれぞれ行った。

2. 6. 青年交流委員会の紹介(16:15~16:20):明山

青年交流委員会の最近の活動内容紹介を行った。

2. 7. 2021年2月例会(修習ガイダンス)の紹介(16:20~16:25):高木

次回例会である修習ガイダンスについて、内容紹介および宣伝を行った。

2. 8. 終わりの挨拶・写真撮影(16:25~16:30):村上、鈴木

参加者への謝辞並びに、Zoom上で全体の写真撮影を行った。

2. 9. 雑談会(16:30~17:30):参加者

イベント終了後、任意で残った参加者と共に雑談会を実施、イベントの感想、G W テーマ作成の裏話、コロナ禍の元での働き方など意見交換を行った。

3. 成果と所感

3. 1. 良かった点

なぜなぜ分析に初めて触れたという参加者も半数程度居り、新たな体験を提供することができた。仮想事例にコロナ禍における危機管理というタイムリーな状況を取り入れた事でグループワークが非常に盛り上がった。内容が練られていて、盛り沢山だった等、内容面の評価は高かった。外部アンケートでの満足度も高く、準備段階で、技術士会として、そして青年委員として「なぜなぜ分析」を実施する意義について担当者間でかなり話し合ったがそれが報われた形となった。

講評に際しては、良かった点→改善のポイント→良かった点の順に講評しようと心掛けたが、その事について参加者から評判が良かった。

また、本例会の当日不参加(ドタキャン)が1人もいなかった。今回は年齢制限を設定し、それが影響した可能性があるが、今後の例会を通して、この原因について分析を行っていきたいと考えている。

3. 2. 改善すべき点

本例会で改善すべき点は、以下の通り、3点あった。

1つ目は、初期のコンセプト決めの段階で、なかなか打ち合わせの機会が設けることができず、本例会の方針が決まらなかった事であり、それが本例会の準備の遅れに繋がった。発案者の村上が、なかなかビジョンを明確に出来なかったのも一つの原因だが、打ち合わせピッチを事前に決めて担当者の時間確保を事前しておく、担当者間の知識水準を揃える参考資料や本を事前に提示しておく等、マネジメント面での要改善点も多かった。

2つ目は、イベント当日のタイムマネジメントが出来ていなかった事であった。当初の予定スケジュールに対し、時間が大幅に伸びたのは、特になぜなぜ分析の説明と、発表&講評であった。なぜなぜ分析の説明では、リハーサルでの課題出しで、急遽実例説明が必要となり、準備の遅れでリハーサルが直前になってしまい、軌道修正が出来ないまま本番を迎えることになった。このことから、リハーサルは本例会直前にもう一回できる程度(少なくとも2~3週前)に実施出来るよう準備すべきだった。発表&講評については、1)発表者のタイムキーピングが難しかった事、2)全体スケジュールの中で、当初の予定時間の設定が短か過ぎてしまった事が改善すべき点であった。

3つ目は、当日の例会の時間の進行や、説明画面の見え方など、イベント中のフィードバックがチャットでなされていたが、講師役にあまり伝わっていなかった。この点は担当者間の連絡をどうするか、事前に決めていなかった点が大きい。

グループワークで使用したスプレッドシートが扱い辛いという指摘があった。テーマや作業内容によって適したツールの選定は今後も課題になると思われる。

また、なぜなぜ分析の説明後に、即グループワークで活用するのは難しかったようで、各グループのファシリテーターの方々には負担を掛けることとなった。

最後に、例会が始まる前が沈黙が続いており、気まずい時間を感じた参加者も多かったのかもしれない。そこで、今後の例会では、その時間にBGMを流したり、今後のイベントの宣伝をスライドショーで流すなどの提案が例会後になされた。

4. 今後の展開

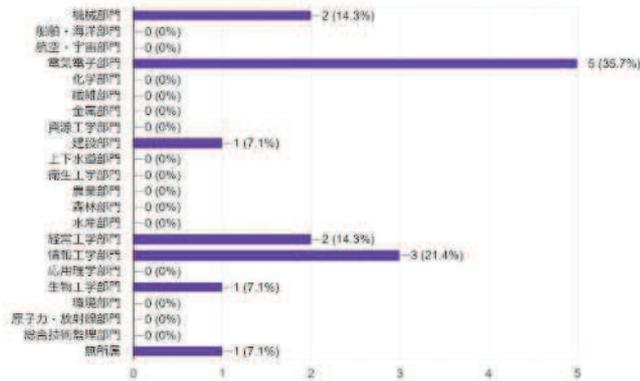
これまでのオンライン例会同様、タイムキーピングが課題になったと共に、グループワークでの共同作業でのツール選定、イベント中のコミュニケーションが課題となった。本例会で浮き彫りとなった課題や問題点を青年委員と共有し、今後それらの解決を図る必要性を感じた。

また、参加者には北海道や関西など遠隔地からの参加者がおり、雑談会においても、オンライン開催であるが故に容易に参加出来る状況にあり、コロナ禍収束後もオンラインイベントの継続を希望する声もあった。急ぐ話ではないが、ポストコロナの例会のあり方も見据える必要性を感じた。

2019年1月例会アンケート集計 (1/2)

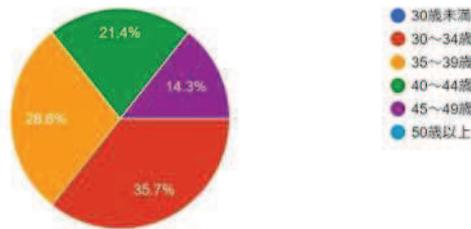
Q1.あなたご自身についてご記入ください。

技術部門



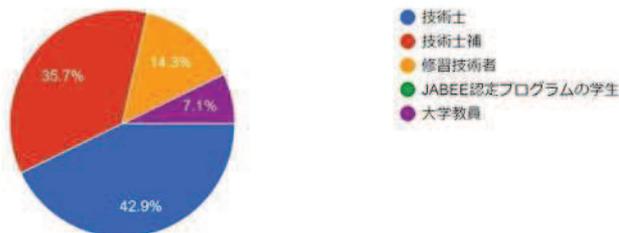
年齢層

14件の回答



会員層

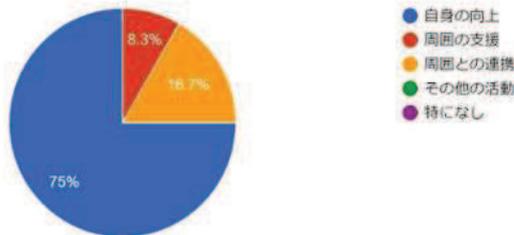
14件の回答



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

ご自身の具体的な活動について

12件の回答



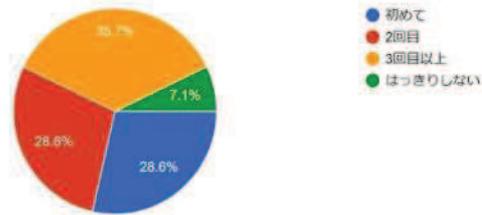
<その他の活動について>

神奈川県支部のCPD委員会をお手伝いさせて頂いております。オンライン講義でのハウリング対策についての情報共有など、もしかすると、なにか連携できることがあるかもしれません。

放射線防護業界で若手関係者間での勉強会などの活動を行

Q3.青年委員会の活動について

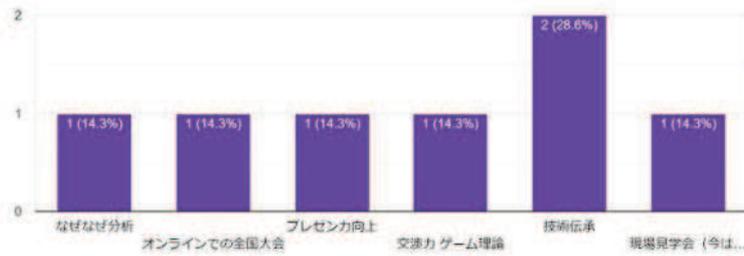
14件の回答



印象深かったテーマ

2.過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

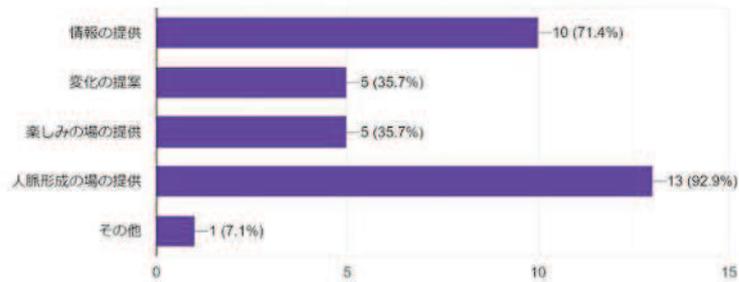
7件の回答



3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

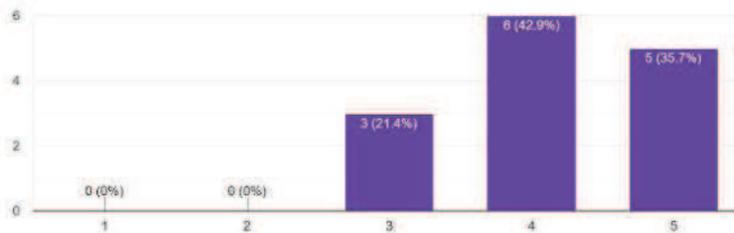
3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント

14件の回答



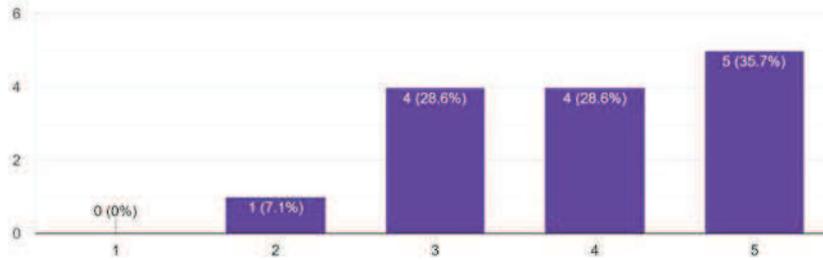
Q4.今回のイベントについて

イベント全体 1)不満 2)やや不満 3)普通 4)ほぼ満足 5)満足



講師の話し方や進め方 1)不満 2)やや不満 3)普通 4)ほぼ満足 5)満足

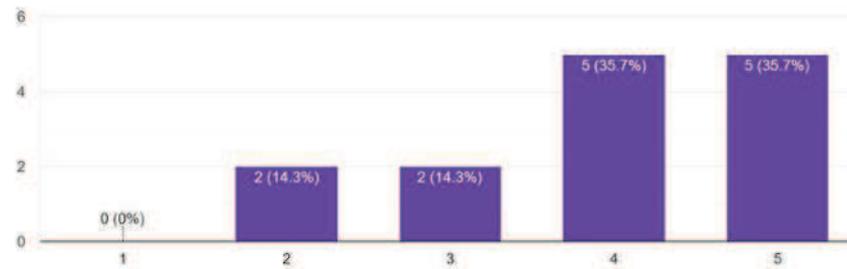
14件の回答



資料の内容 1)不満 2)やや不満 3)普通 4)ほぼ満足 5)満足

3. 配布・プレゼン資料の内容

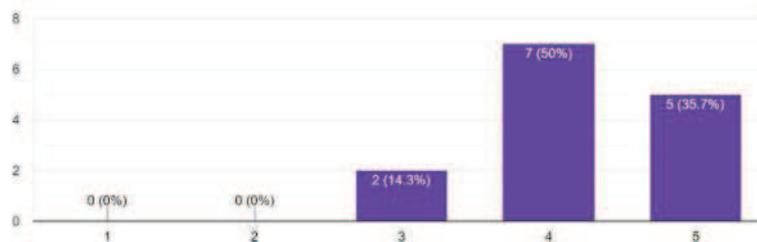
14件の回答



スタッフの対応 a)満足 b)ほぼ満足 c)普通 d)やや不満 e)不満

5. スタッフの対応

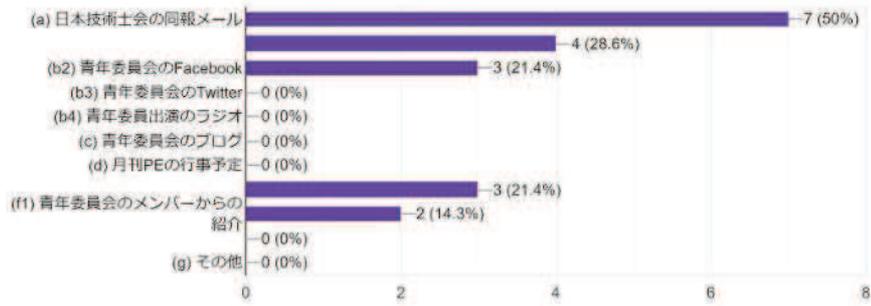
14件の回答



スタッフへ伝えたいこと

- ・お疲れ様でした。良い頭の体操になりました。
- ・時間がカツカツだったのが気になりました。もう少し長くても良いと思います(1時間程)。
- ・参加者が能動的に関われるグループワーク形式というのがとてもよかったです。
- ・グループワーク中に回ってきてくれるのでスムーズに進められました。
- ・青年技術士交流会の活動に興味があります。現在の主な活動内容や、月当たりの活動時間をご教示いただくと幸いです。
- ・なぜなぜ分析を初対面の人で構成されるグループで実施するので、イベントとしてどうなるのかと思っていましたが、勉強になりました。欲を言うながら、事前にテーマを参加者に伝えて、問題点を事前に考えておいてイベントに参加するという方法もありだったのではと感じました。

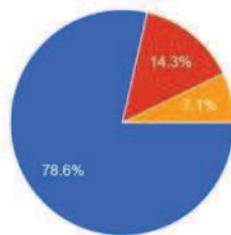
Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか



Q6.参加の目的と達成度について

1.目的は何ですか。

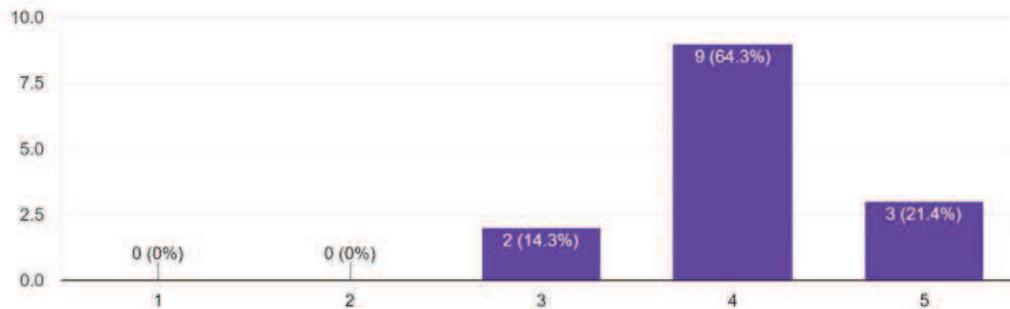
14件の回答



- (a) イベントのテーマや内容について、興味があった/知りたかった/身につけたかった。
- (b) イベントの参加者と知り合いになりたかった(人脈を広げたかった)。
- (c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。
- (d) CPDのポイントになるから。

達成度

14件の回答



行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス 2021
日時	2021年2月13日(土) 13:00~16:50
場所	Zoomによるオンライン、コーディネータのみ機械振興会館 6-66,6-67
講師、発表者	コーディネータ：高木真人* (電気電子) 修習技術者パネリスト：小川亮一 (電気電子), 高瀬由佳* (電気電子) 技術士パネリスト：廣瀬由紀 (情報工学), 加藤哲生 (電気電子), 村上怜* (機械) 伊藤穂高* (化学), 河野恭彦* (原子力・放射線) *は青年委員/補佐
担当者： (○印：リーダー)	河野, 伊藤, 村上, 高瀬, ○高木, 白井
参加者数	参加者数：約270名

1. 背景・目的

修習技術者に向けて、技術士第二次試験受験および日本技術士会入会の動機付けを図る。パネルディスカッションでは、パネリストの実体験を共有し、技術士試験突破への意欲の増進につなげる。

また、技術士としての将来像を認識し、責任を全うする意義、目的を考え始める機会を提供する。

2. 例会内容

2. 1. 当日の全体のスケジュール

12:00~12:20 パネリスト受付

12:30~13:00 一般参加者, 青年メンバーの受付

13:00~13:05 開会挨拶

13:05~13:10 日本技術士会からの挨拶

日本技術士会 研修委員会 委員長 境 大学

13:10~14:10 講演

「第二次試験制度の解説, 修習方法・修習支援体制の説明」

修習技術者支援委員会 委員長 阿部 修一

14:10~14:25 休憩

14:25~14:30 祝辞 青年技術士交流委員会 委員長 竹内 将人

14:30~16:45 パネル討論

「全ての技術者を技術士に, そして技術士であり続けるために」

(14:30~15:40) テーマ1 「全ての技術者を技術士に」

(15:40~15:50) 休憩

(15:50~16:45) テーマ2 「技術士であり続けるために」

質疑応答

16:45~16:50 閉会挨拶

※ 例年実施している懇親会・情報交流会の開催なし。

2. 2. パネルディスカッション

<開催までの打ち合わせ>

- ・ 第1回 (2020年9月13日) 関係者顔合わせ, 修習側からテーマの提示, 進め方
- ・ 第2回 (2020年10月4日) パネリスト顔合わせ, 自己紹介, 業務背景の聞き取り

- ・ 第3回（2020年11月7日） テーマの提示，パネル討論の方向性確認
- ・ 第4回（2020年12月13日） パネリスト講演スライド発表，シナリオ読み合わせ
- ・ 第5回（2021年1月24日） 最終リハーサル，背景スライド提示

<パネルディスカッションの方向性>

- ・ 主題「全ての技術者を技術士に，そして技術士であり続けるために」
- ・ 2021年全国大会，創立70周年記念大会のテーマが「2030年SDGs達成に向けて技術士ができることー技術士の知恵を生かすー」（仮）であることを受けて，SDGsの基本理念である誰一人取り残さないという理念を主題として実施する。
- ・ 誰一人取り残さないという理念から，未来の技術士の育成と，技術士の存続についてディスカッションし，受験の動機付けと技術士の持続可能性について考える機会を提供する。
- ・ 「全ての技術者（が）技術士に」なるために，主体的に行動するよう意識を変える，「技術士であり続けるために」技術士を知ってもらい，仲間を作る，という着地点を目指す。

3. 成果と所感

<開催まで>

- ・ 2020年9月頃から準備を進めていたため，パネリストの講演スライド，シナリオ作成など余裕をもった期間で作成することができた。
- ・ 2021年1月までオンライン開催か，現地開催との併催とするか確定できなかったことから，それ以降，少し慌ただしくなったが，緊急事態宣言の発令下，十分な対応ができた。

<パネル討論>

- ・ 予めシナリオを作成することで，スムーズに進行することができた。また，シナリオの中に，削る部分を用意することで，当日，時間調整がしやすくなった。
- ・ 事前の質問，チャットの質問はコーディネータがその場で選別することが難しい。今回は修習委員（2名）にまとめてもらうことで，スムーズに対処できた。
- ・ 前年のコーディネータに参加いただき，リハーサルを聴いてもらうことで，見落としの防止やアドバイスをもらうことができたため，大変有効な手段であった。

<その他>

- ・ 事務作業を全て修習委員会にお願いできたため，青年委員会の負担を減らすことができた。
- ・ ガイダンス開始までの諸注意の際にBGMを流すことで，聴講者の音声確認ができるのが良いと感じた。また，パネル背景を統一することで統一感をだすことができた。
- ・ 修習委員側はZoom以外にSlackで連絡を取り合っていた。参加人数の多いオンライン例会ではZoom以外の連絡手段を確保し，指示，連絡を行うのは有効だと感じた。

<例会写真>

修習ガイダンス 2021 アンケート結果

日時：令和3年2月13日（土） 13：00～16：50

場所：オンライン（Zoom）

日本技術士会では、修習技術者（技術士補登録者を含む）の皆様に対して、技術士としてふさわしい能力獲得のための支援を行っております。修習ガイダンス2021のアンケートは、これらの支援を実りあるものとするために、皆様のニーズを把握しようとするものです。ご記入いただいた内容は修習技術者を支援する目的で活用します。ご協力をお願いします。

1. オンライン参加者の事前アンケート結果（回答者 291 名）

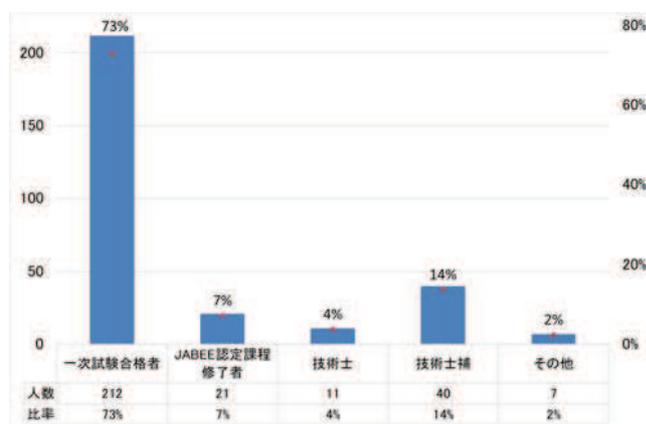


図1 技術士に関する資格は？

【補足】JABEE 認定課程修了(予定)者の推移

2021年度 291人中 21人(7%)
 2020年度 68人中 7人(10%)
 2019年度 115人中 6人(5%)
 2018年度 165人中 6人(4%)
 2017年度 179人中 7人(4%)
 2016年度 219人中 17人(8%)
 2015年度 184人中 11人(6%)
 2014年度 131人中 3人(2%)
 2013年度 225人中 2人(1%)

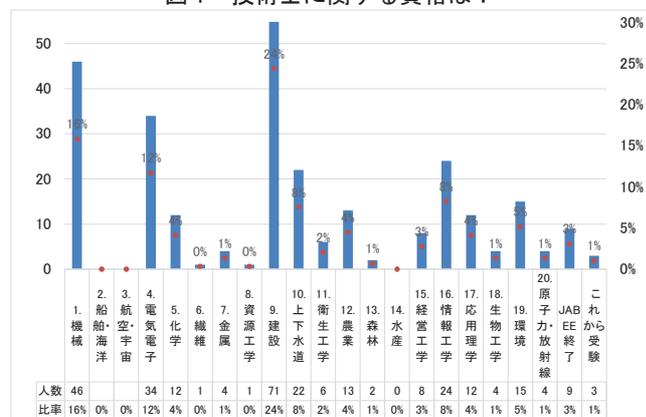


図2 第一次試験合格又は技術士補登録の技術部門は？

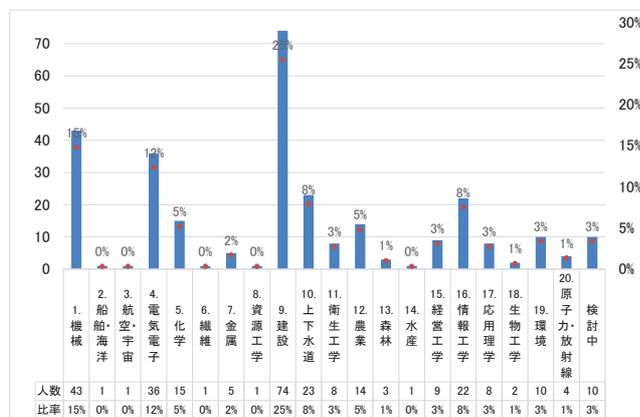


図3 第二次試験受験予定又は技術士登録の技術部門は？

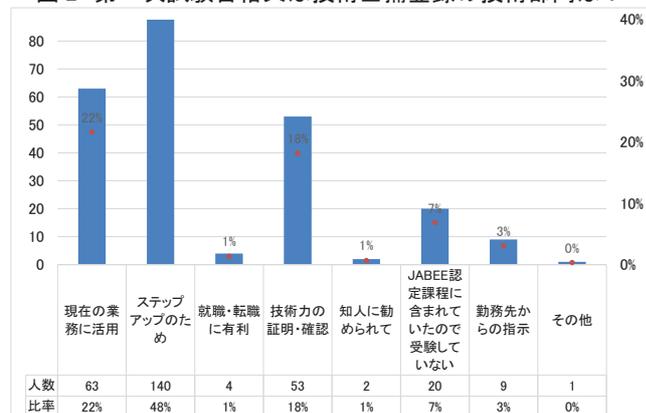


図4 第一次試験を受けられた受検動機は？

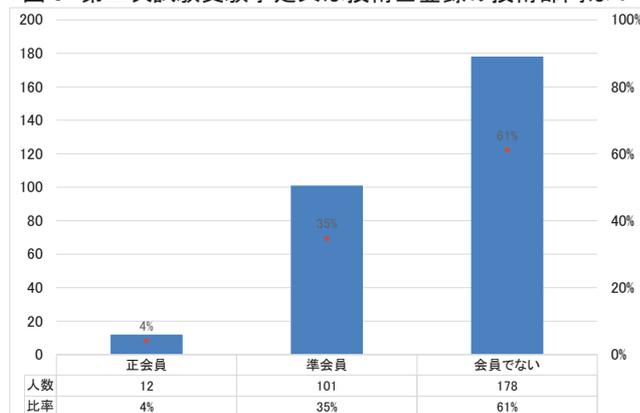


図5 日本技術士会の会員資格は？

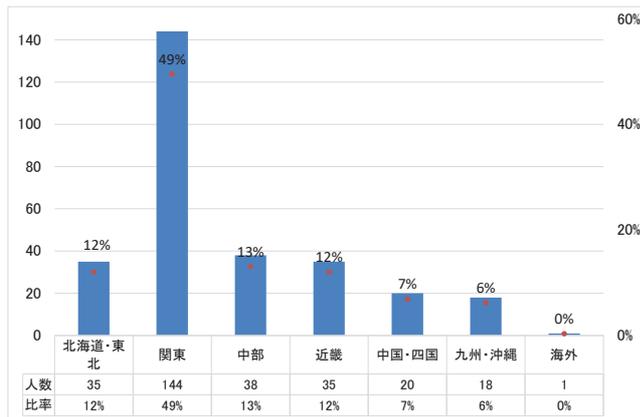


図6 居住地域

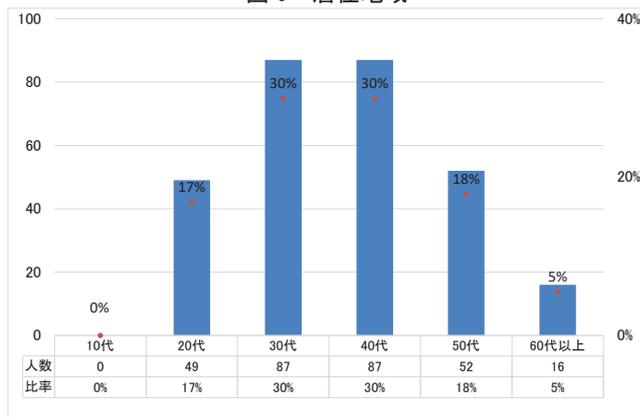


図7 参加者の世代構成

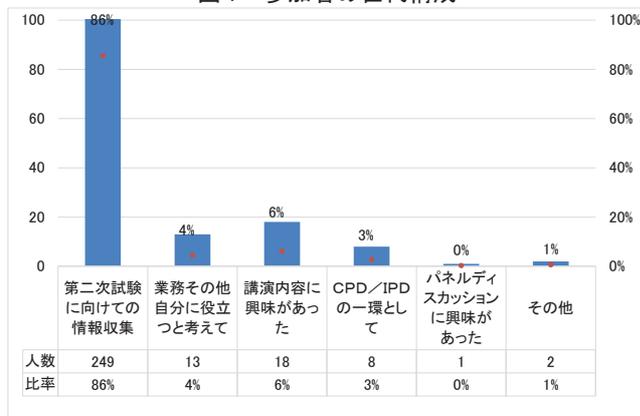


図9 今回の修習ガイドンスの参加動機は？

⇐ オンラインであったため、従来参加者の多かった関東甲信（茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県）の割合は減少し、全国からの参加者が増えている（図6）。また、今回は海外から1名の参加があった。

【補足】関東甲信からの参加割合の推移

2021年	291人中134人(46%)
2020年	68人中51人(75%)
2019年	115人中88人(77%)
2018年	165人中138人(84%)
2017年	179人中138人(78%)
2016年	219人中185人(84%)
2015年	184人中148人(80%)
2014年	131人中104人(79%)
2013年	225人中180人(80%)

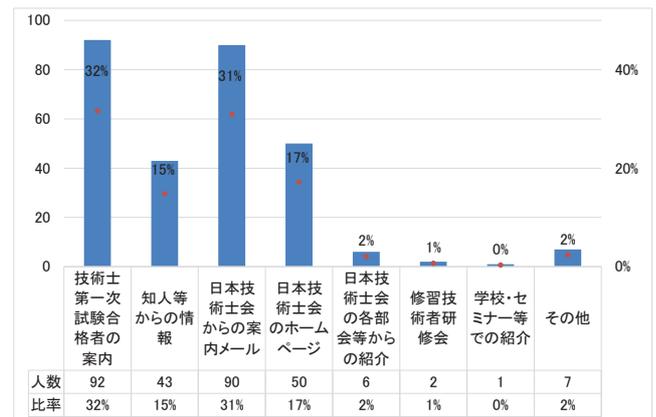


図8 今回の修習ガイドンスを知ったきっかけは？

- 今回の修習ガイドンス 2021 で何か事前に質問したいこと
 - ◆ 実務経験証明書の証明印について
 - ◆ 証明者は技術士と代表取締役どちらが良いか
 - ◆ 実務経験に関わる在席証明について
 - ◆ 2次試験の受験部門の考え方
 - ◆ 1次試験と異なる部門での2次試験の受験について
 - ◆ 森林と林産が合体したための試験の傾向と対策
 - ◆ 2次試験合格への効率的な勉強の進め方と教材
 - ◆ 2次試験受験資格のための指導技術士がいない場合の対処方法
 - ◆ 海外から2次試験の受験について
 - ◆ 技術関連業務に携わる事務系の者の受験資格の考え方
 - ◆ 技術士になってからのメリット・デメリット
 - ◆ 領収書の送付時期の確認

2. 事後アンケート結果（回答者 99 名）

1) 選択肢回答

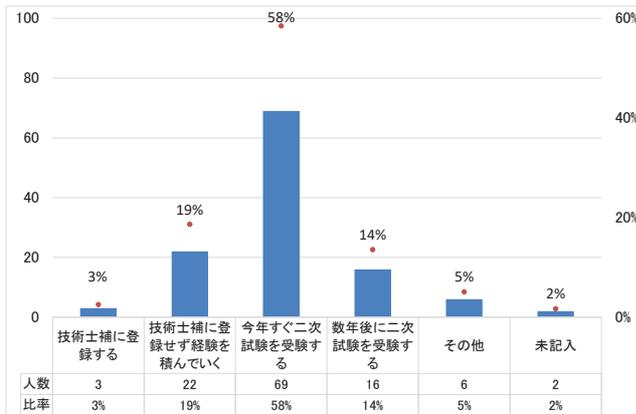


図1 修習の予定

← その他の回答は以下の通り。

- ・どの部門にするか検討中
- ・師事できる技術士の方を探して登録したい
- ・口頭試験受験予定、その後、総監受験予定
- ・技術士取得済、指導の参考のために聴講
- ・未定

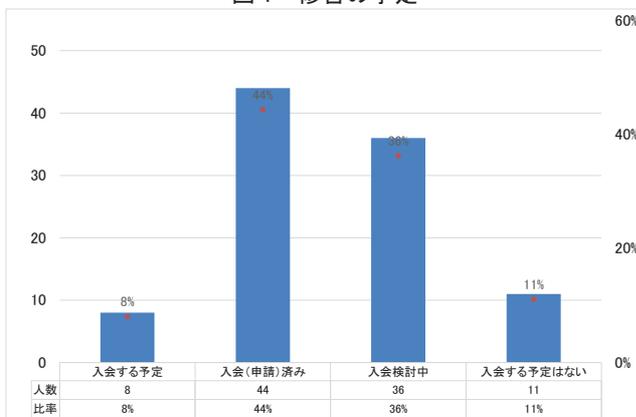


図2 日本技術士会への会員加入を検討されますか？

【補足】日本技術士会への会員加入の推移

2021年 予定 8%、済 44%、検討中 36%、なし 11%

2020年 予定 15%、済 31%、検討中 47%、なし 4%

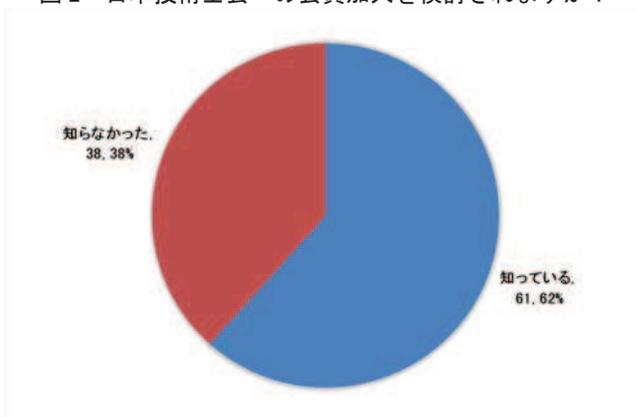
2019年 予定 9%、済 34%、検討中 50%、なし 5%

2018年 予定 8%、済 33%、検討中 48%、なし 8%

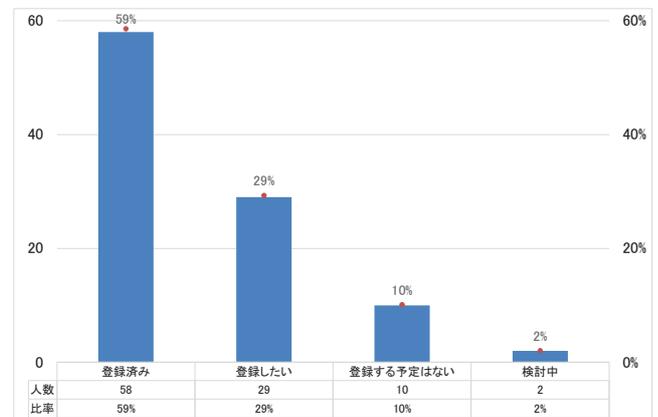
2017年 予定 15%、済 30%、検討中 53%、なし 3%

2016年 予定 14%、済 29%、検討中 49%、なし 7%

2015年 予定 15%、済 26%、検討中 52%、なし 7%



メーリングリストを知っていますか？



メーリングリストの登録状況

図3 技術士会の行事案内メーリングリストはご存知ですか？

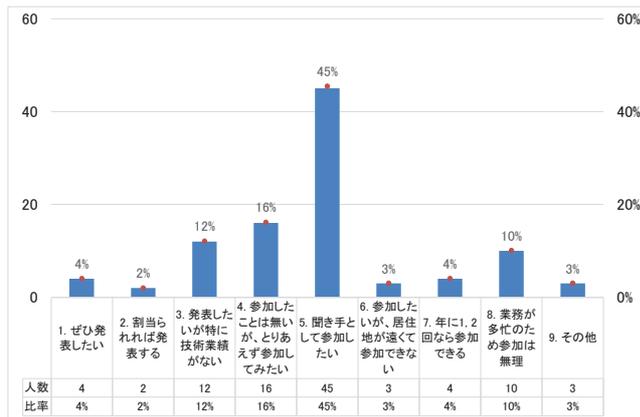


図4 修習技術者発表研究会での発表のご意向

← その他の回答は以下の通り。

- ・業務負荷状況を判断して発表したい
- ・会社の許可が得られればすぐにでも発表したい
- ・二次試験受験後参加したい

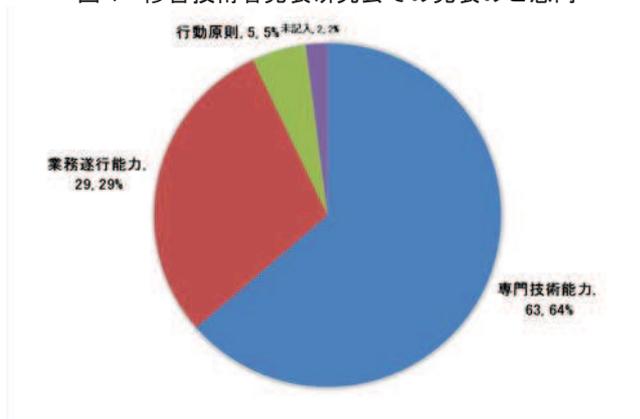


図5 修習研修会で参加したい課題

【補足】修習研修会で参加したい課題の推移

年	回答者数	専門技術能力	業務遂行能力	行動原則	記入なし
2021	99人	63人 (64%)	29人 (29%)	5人 (5%)	2人 (2%)
2020	68人	50人 (74%)	45人 (66%)	24人 (35%)	7人 (10%)
2019	115人	88人 (77%)	67人 (58%)	42人 (37%)	9人 (8%)
2018	165人	121人 (73%)	94人 (57%)	54人 (33%)	13人 (8%)
2017	179人	126人 (70%)	114人 (64%)	53人 (30%)	3人 (2%)

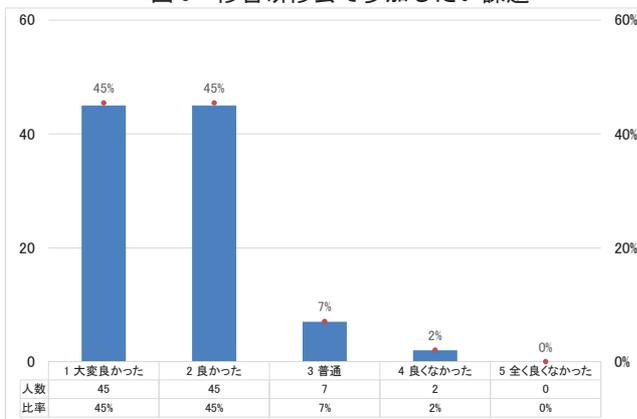
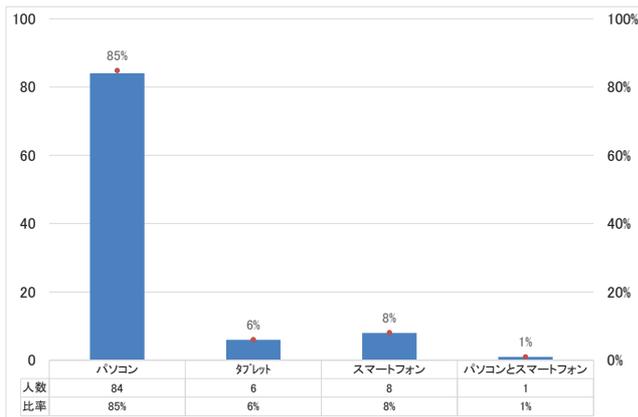
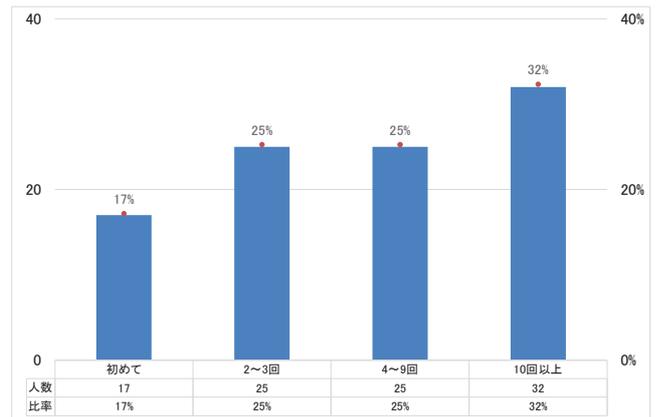


図6 ガイドンスの内容について

← 記述回答は次頁以降を参照。



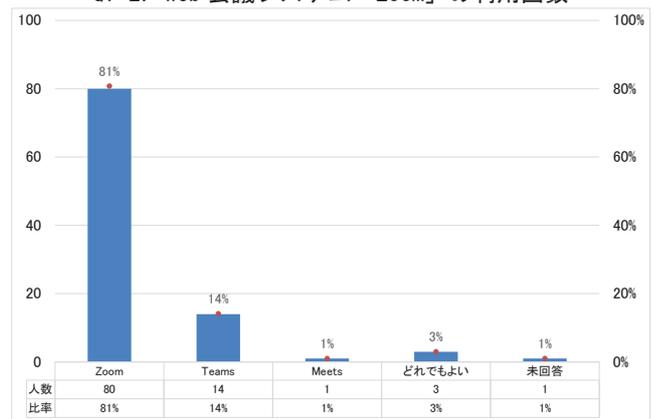
Q7-1. 修習ガイドスへの参加に使用した機器



Q7-2. Web 会議システム「Zoom」の利用回数



Q7-3. オンライン開催中を利用中のトラブル



Q7-4. 希望する Web 会議システム

図7 オンラインによる開催について

2) 記述回答

Q6-2. 講演「技術士第二次試験制度の解説、修習方法・修習支援体制の説明」をお聴きになって、良かった点、悪かった点、改良すべき点、お持ちになったご意見など、ご自由にお書きください。

※赤字はQ6-1で「良くなかった」の回答者からのご意見です。

【良かった点】

- ◆ 技術士第二次試験の概要、必要となる事項等の内容がわかりやすい構成で、説得力があり大変参考になった。特に御自身の経験や考え方が勉強になりました。
- ◆ 一般的な説明にとどまらず、委員長の実体験を交えて頂いたため、技術士に求められる能力のイメージが湧いたので良かった。
- ◆ 実施大綱で確認をしていたが、改めて説明を受けて、気づいた点があった。「信頼できる人は合格させる。信頼できない人は不合格という」言葉がとても印象的でした。
- ◆ 委員長の体験を基に技術士のコンピテンシーと本質について聞くことができ、基本修習課題を業務に生かす必要性を認識できた。特に、阿部委員長のご経験より、コンピテンシーを尊重してきたことが、顧客の信頼につながったというお話が、今後の自分の仕事の姿勢を考えるための良い機会となりました。
- ◆ コンピテンシーという言葉にあまり触れたことがなかったが、実践について事例を含めて丁寧な説明がされたため理解が深まり、印象に残った。

-
- ◆ 技術士倫理について文書でしか情報を得たことがなかったので、技術士倫理を現役の技術士がどう理解しているか、リアリティをもって理解できた。
 - ◆ 倫理の問題は非常に多角的な観点から行動を判断が求められる点が印象的でした。阿部委員長が選ばれた他に幾つか解決できる方策が想像できると思いましたが実行可能な策を導き出すことは非常にスキルフルな能力が求められる事がよく理解できました。
 - ◆ 筆記試験で箇条書きや図表を活用できる事や、面接で質問の意図を聞ける事など、具体的にイメージすることができました。
 - ◆ 修得支援体制や修習方法についてあまり理解していなかったが、より深く理解することができた。
 - ◆ 丁寧に解説されていて、また申請書類の書き方についての注意点が良かった。
 - ◆ 技術士の皆さんの考えを生々の声を聞いたのは一番良かったです。
 - ◆ 技術士会の行事に参加したいと思った。
 - ◆ 修習技術者の支援体制を知ったので、ぜひアドバイスをいただきたいと思った。
 - ◆ まわりに多くの仲間がいることがわかり、一緒にやっていくことへの励みとなりました。
 - ◆ 投票機能は参加をしている実感が得られて良かったです。

【悪かった点】

- ◆ 支援体制の内容があまり印象に残らなかった。
- ◆ コンピテンシー等について、もう少し時間をかけて具体的な説明があれば良いと感じました。
- ◆ 今後の試験制度のロードマップも聞きたかった。
- ◆ 修習技術者のPDCAの取り組みについて具体的な例を紹介して頂けたらと思いました。
- ◆ 準会員登録した際のメリットがあまり感じられなかった。準会員向けに2次試験対策等の積極的な実施等がないと登録する意味がないと感じます。
- ◆ 試験勉強での重きを置いた点などのお話をさらにいただければと思います。
- ◆ 実際に採点されるポイントについて具体的な説明が欲しかった。
- ◆ 口頭試験で実際に聞かれたことなど、公開できる範囲で具体的に教えて欲しかった。
- ◆ いろいろな専門分野の技術士の方のお話をもっと聞きたいと感じました。
- ◆ 第二次試験制度の解説は受験済の方が多と思われるので、長いと感じたかもしれない。

【改良すべき点】

- ◆ 改良をお願いしたい点として、Zoomの接続案内です。今回、はじめてZoomをやったのですが、「事前接続」テストと実際の公聴時接続方法と勝手が違い、冒頭40分を聞いていません。実際と同じような接続をテストできる環境か、もしくは、実際に接続する詳細な案内(媒体毎)を作成頂いた方が今後は良いと思います。
- ◆ 質問は事前に集めておくに対応しやすかったのではないかと思います。
- ◆ 受講者のこのタイミングの講習会で最も知りたい内容に重点を置いて説明して頂くと尚よいと思いました。特に申込書の作成方法は詳しく具体的に説明して欲しかった。

【その他ご意見】

- ◆ なんとなくですが、技術士という資格自体は、同業者組合の側面があると思っており、一つの企業

にいた方に加えて、転職等の回数がそれなりにある者の流れについて、より詳しく聞くことができると良いと感じた。

- ◆ 技術者としての立場で多面的な観点から課題を抽出するという点について、何と何と何を列挙（区別化）すれば多面的といえるのでしょうか？ご教授願います。
- ◆ 自分も技術士を目指したいと思いました。
- ◆ 修習支援体制は分かりましたがいきなりはハードルが高い気もしました。社内に技術士がいない為、活用したいとは思いますが。
- ◆ 2次試験の解答用紙のヘッダー部分は、忘れずに記入しようと思います。
- ◆ 信頼を築くことが重要であり、それには何が必要かを考えるようになった。
- ◆ 大体知っている内容でした。
- ◆ 日常業務のなかで、主体的に行動するように意識をもち、技術士になりたいと改めて思えました。
- ◆ 物事に真摯に取り組みながらも、目的を持ち楽しみながら業務にあたるのが肝要であると感じた。
- ◆ 独学で進めようとしておりましたが、今後は研修会に参加して多くの方々からコメントを頂きながら進めたいと思います。

Q6-3. パネル討論をご覧になって、良かった点、悪かった点、改良すべき点、お持ちになったご意見など、ご自由にお書きください。

【良かった点】

- ◆ 修習者が抱えている悩み（共通していると思われる悩み）が解消されたように思います。
- ◆ それぞれのパネラーの経緯が面白く、また各々の勉強の仕方等が多様であったことで、個人に合った方法で試験準備を行うことが重要と思った。
- ◆ 先輩技術士の生の声を聴くことができ、非常に良い体験ができたと感じる。ざっくばらんなお話の中でしたが、常に技術士としての上昇志向を見ることができ、刺激になりました。
- ◆ 経験値を経て資格を得る事を考慮すると、日頃から業務のなかで知識習得に励みながら二次試験に臨むと、技術者としての素養が備わると感じました。
- ◆ 目標となる技術士像なども描く必要性を感じさせていただきました。様々な技術のスタイルをさらにお伺いしたいと思います。
- ◆ 自分の周りに技術士がいないのでパネリストの方々の言動が参考となりました。
- ◆ 機械部門の村上氏と同じ分野の業務を担当しているので、御氏の説明は自分の修習に役に立つと思いました。
- ◆ 修得技術者と技術士の対話というシチュエーションでとても聞きやすく、様々な疑問点が解消され、受験をする上で参考になりました。
- ◆ 同じ修習技術者と技術士のパネル討論を聞くことで、同じ空の下には同志がいることが励みとなった。
- ◆ コーディネーターがとても丁寧、かつ切り回しが上手で、リズミカルに進行して頂いたので、聞きたかったこと、疑問点がすべて討論の中で解消されて良かったです。また、技術士としてのコミュニケーション能力の高さを実感した。

-
- ◆ チャットで質問しやすい環境になっていたのが良かった。

【悪かった点】

- ◆ オンラインなのでスムーズではない所がありましたが、もっと話を聴きたいと思いました。
- ◆ 各々意見や方向性がまとまっていなくて、どうでもいい内容だと感じました。
- ◆ もっと若手で苦勞した人のノウハウ的な意見を聞きたかった。
- ◆ パネラーの今後の研鑽内容をもう少し聞きたかった。
- ◆ 「パネル討論」というより、受験者を考える人への経験者の体験談、質疑応答という気はいたしました。
- ◆ 抽象的な討論の時間が多く、アクションプランに繋がるご回答が少なかったと感じました
- ◆ 技術士として今取り組んでいる活動内容について、具体的なお話が聴けると良かった。
- ◆ 自分の目標としている建設部門のパネルが見たかった。
- ◆ 各部門・分野において、技術士を取得することのニーズ・利点について取り上げて下さるとさらに良いと考える。
- ◆ 総監の方がいなかったのは意図的でしょうか。

【改良すべき点】

- ◆ パネリストだけでなく、視聴者参加型であればさらに良くなるかも知れません。
- ◆ 時間の制限等の問題はあるかと思うが、参加者からの質問に対してパネラーの方々が意見を交わす等の試みがあっても面白いと思う。
- ◆ 画面切り替えがあまりにもスムーズでなかったのは良くない。発言していないパネリストが延々表示されていたのは、そのパネリストの方も大変だったのではないか。発言者の表情から伝わる情報もあるはずなので、この点、ご配慮願いたい。
- ◆ 修習技術者は発表なしでもよかったと思った。”
- ◆ 質問のための時間を多く設けたほうが良いと思いました。
- ◆ 発言のタイミングなどどうしても合わないとか、意思疎通が難しいのはしょうがないのかなど。

【その他ご意見・感想】

- ◆ 試験は、顧客にアピールをするというコメントがありましたが、腑に落ちました。
- ◆ パネリストにおける、修習技術者と技術士の差異に気づくことができた。この差異を縮めていくことが、これからの勉強ではないかと感じました。
- ◆ パネリストの体験談や思いを聞けたことが良かった。参考にはなったがなかなか次の一步を踏み出せない状況は変わらない為、思案しています。
- ◆ 建設部門の講習に参加した時は、国土交通白書の重要性を言っていたが、結局、忙しさ理由に動いていなかった。パネル討論を見てあきらめずにまず、何か行動しないといけないと思った。
- ◆ 今後は、二次試験という大きな山に向かって努力する必要性に気が引き締まる思いがしました。尊敬する先輩技術士に一步でも近づきたいと思います。諦めず、楽しんで勉強していきたいと思ます。
- ◆ ほとんどの人が民間の講座を受講していなかったことに驚きました。

Q6-4. 修習ガイダンス 2021 全体を通したご感想やご意見、ご提案など、ご自由にお書きください。特に Q6-1 で「良くなかった」、「全く良くなかった」を選ばれた方は、その理由をお書きください。

参加者の区分は図 1 の通り。

※赤字は Q6-1 で「良くなかった」の回答者からのご意見です。

【良かった点・ご意見】

- ◆ 初めて参加しました。受験初心者には導入として良いと思います。
- ◆ オンラインでも進行がスムーズで、ストレスなく参加できた。
- ◆ コンピテンシーについてご説明いただき、わかりやすかった。
- ◆ 技術士の資格取得に向けて、自分に不足しているところ、心がまえが理解できた。
- ◆ 阿部委員長のお話が大変貴重でした。強い倫理観、SDGs を意識して、責任ある技術者（技術士）になろう、と気持ちが引き締まりました。
- ◆ 一にも早く技術士試験に合格し、技術士として活躍したいと思いました。
- ◆ 技術士は努力すれば誰でもなれることが確認でき、大変意欲が湧きました。
- ◆ コミュニケーションの大切さを理解できてよかった。
- ◆ 日本技術士会として発信している重みもありますし、かみ砕いて説明してくださるところに親近感を感じました。
- ◆ こうしたセミナーをとおして、技術士の方々（今回のパネリスト）の資質を感じ取り、それを自分の考えかたや行動に取り入れていくことで、スキルアップしていきたいと考えています。
- ◆ とても有意義なセミナーであったので、今後も継続して参加したいと思います。”
- ◆ 地方在住のため、今後もこうした機会があれば利用したい。
- ◆ 修習に向けて沢山の方が努力している状況を知れてモチベーション向上になりました、またひとりで取り組まず仲間がいる大切さに気づきました。
- ◆ 登壇者の皆さんが明るい雰囲気、楽しく聴講することができた。
- ◆ 東京まで気軽に行く事が出来ない環境でしたので、Web 開催により普段参加できない会へ参加できたのは非常に貴重でした。
- ◆ 企業が実施する Zoom のオンラインセミナーの場合、聞き手はミュート・ビデオなしを設定されることが多いため、ビデオ ON に少し戸惑いましたが、参加者の表情も見られて頑張ろうという気持ちが高まりました。

【悪かった点・ご意見】

- ◆ もう少し、技術士の方々の具体的な勉強スケジュールを知りたかった。今回は技術士としての在り方などの話が多かったため。
- ◆ 複数回受験した人（受験のテクニックを学びたい人）にとっては物足りないでしょうか。
- ◆ 試験対策や技術士としての業務など、それぞれもっと詳しく聞いてみたいと思いました。
- ◆ 修習技術者から技術者へのステップアップを、より具体的にお話いただくと参考になったように思います。

-
- ◆ 伊藤穂高さんの発表が素晴らしい、というか、そのレベルの発想での取り組みが当たり前だと思いました。一方、その他の発表者や司会進行の人もそうですが、技術士試験の失敗談を共有するようなことは今後禁止した方がよろしいかと思えます、せめて技術士になっての失敗談には興味がありますが、まるで大学受験に失敗した予備校生がどう頑張ったかの体験談を聞いているかのようで、非常にもったいない時間を過ごしたと思いました。
 - ◆ 重複なりますが、私は全てを拝聴できなかつたので、その点が残念です。スマートフォンのため、事前のメール受信も制約を受けました。
 - ◆ 一次試験合格時に配布された資料にも概要は書いてありましたが、改めて、活動スケジュールをご提示いただくと良いと思いました。
 - ◆ 技術士の方々の業務活動などをもっと詳しく話してもらえたら、技術士を取った後のイメージがより明確になるような気がします。そしてそれが取得のモチベーションに繋がるのではと思いました。
 - ◆ 時間制限もあり、なかなか難しいかもしれませんが、より具体的な修習方法の事例等、紹介していただければ、さらに良かったと思います。
 - ◆ 技術士の方が実際に二次試験を回答したり、その過程で考えていることを聞きたい。
 - ◆ オンライン会議でどのように視聴者と繋がり盛り上がるかが検討課題かと思われます。
 - ◆ 通信負荷が高くなるので、聴講者はビデオ OFF にしてもいいと思います。
 - ◆ マイクなどのミュートなったこと

以上

行事名	3月臨時例会:コロナ時代を生き抜く「すごいチームのつくり方」
日時	【講演会】 2021年3月6日(土) 13:00~14:30 【グループワーク】 同 14:30~17:00 【Web交流会】 同 18:00~20:00
場所	オンライン
講師、発表者	ビジネス・ブレイクスルー大学 齊藤徹 専任教授
担当者:	竹内委員長、河野副委員長、岩部委員、吉岡委員、杉山委員補佐
参加者数	【講演会】150名程度 【グループワーク】46名

1 背景・目的

本臨時例会は、今期の青年技術士交流委員会(以下「青年委員会」)に対する活動に向けた思いとして記載した「より成果を出せるようになる」研鑽事業の実案として企画したものである。テーマは、最新の経営学で明らかになった「すごいチームのつくりかた」とした。これは内容が青年委員会の組織運営と親和性が高く、かつ一部においては既に実践しているといえるためであった。

本企画を通して、リーダー、マネージャー、及びその補佐として活躍する青年層会員が実務において「より成果を出せるようになる」ことを目的とし、技術士コンピテンシーの「コミュニケーション」及び「リーダーシップ」の向上に関する継続研鑽として開催した。

また、今回は外部講師による講演会とその内容を踏まえてのグループワークの2部構成で開催し、参加者が100名を超える規模での例会運営及び10グループでのオンライングループワークのそれぞれの知見を得ることも目的とした。

2 例会内容

(1) 外部講師による講演(すごいチームのつくりかた「リーダー編」)(約60分間(質疑応答含む))

ビジネス・ブレイクスルー大学 齊藤 徹専任教授をお招きし、新しい時代に求められる「新しいリーダーシップ」についてご講演いただいた。新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しなければならない社会情勢下という組織経営のパラダイムシフトの中で、社員1人1人が自ら考え、臨機応変に対応して成果を出していく“チーム”が求められていること、そのチームをまとめる今後のリーダーのあり方をじっくりとご説明いただいた。

(2) グループワーク(10グループ)(約60分間)

6~7名の班編成(統括本部のファシリテーターと書記も含む)で、10グループに分かれた。各グループで、講演内容を踏まえて、明日から行動を変えていくために、①「わたしの所属するチームってどう?」、②「わたしには、なにができるだろう?」という2つの問いについて、それぞれ意見交換を行った。

組織の課題を明確にした後、より良い組織にしていくために、個人でできること、組織で取り組むことを話し合った。解決策を受けて、参加者が明日から取り組めるアクションプランを考えた。

(3) 発表

グループワークで話し合った課題や解決策、アクションプランについて、グループ毎に発表した。

(4) 交流会

組織の雰囲気やより良い組織にするために取り組むことについて、さらに深いディスカッションが行われた。ある参加者の組織ではすごいチームのつくり方を実践されており、その実体験(成功事例)をお話しいただいた。

3 成果と所感

今回の例会では、以下の点が成果として挙げられる。

- ・外部講師による講演の聴講とグループワークの参加の募集を分けたことにより、約150名と非常に多くの参加者に講演を聴講して頂けた。
- ・約150名が参加する講演会の企画・運営・実施を経験することができた。
- ・今回のテーマに関する勉強会を約2か月前から週1回の頻度で定期的に開催したことで、青年委員会統括本部メンバーが本臨時例会の内容の理解を事前に深めることができた。

- ・この勉強会で事前にグループワークのリハーサルを実施したことで、統括本部青年メンバーはファシリテーター・書記としてスムーズにグループワークを進行させることができた。
- ・これまでのオンラインによるグループワークの経験を活かし、ファシリテーター・書記の負荷を軽減するスタイルでグループワークを実施できた。
- ・すごいチームをつくるためのリーダーや組織について、多くの参加者の意見を聞くことができたことにより、参加者の満足度が高かった。

一方、反省点として、以下の点が挙げられる。

- ・講師の講演内容と、グループワークのテーマに齟齬があり、ファシリテーターにはその場で対応してもらうことになった。講師との打ち合わせは当日の講演開始前のみであったため、対応がほとんどできなかった。講師との打ち合わせは、事前に実施した方が良い。
- ・講演開始後に Zoom に入室する参加者が複数人いたため、その入室音が講演中に複数回鳴ってしまった。また、参加者が誤って画面共有ボタンを押してしまい、講師の画面共有が切れてしまった。講師に大変失礼であるし、聴講者の集中力も低下してしまうため、入室音のオフや参加者の誤操作防止の注意喚起を今後の例会等で行う必要がある。
- ・例会開始直前に、参加者数名から Zoom のリンク先が届いていないという連絡があった。改善策として、①参加者 ML のアドレス確認、②参加者が 100 名を超えるような大規模な例会の場合は Zoom リンク先のメールを前日にも再送する、③参加者からメール受領と内容確認済みの連絡をもらう、④参加申込みの停止を確実に実施してから Zoom リンク先を送信する、⑤参加申し込みフォームにメールアドレスの誤記入を防ぐ注意書きを記載する、などの検討が必要である。

4 今後の展開

前項で抽出した今回の成果・反省点及び改善策案を、例会担当者が次のオンライン例会を担当する時に活用する。

5 実施状況

【講演会開催の様子】



以上

3月臨時例会「すごいチームのつくり方」 外部アンケート結果(詳細)

例会 G 担当 吉岡麻里

有効回答者数は、136名であった（重複回答6件は集計から除いた。）

講演会・グループワークともに、おおむね満足していただけっていた。

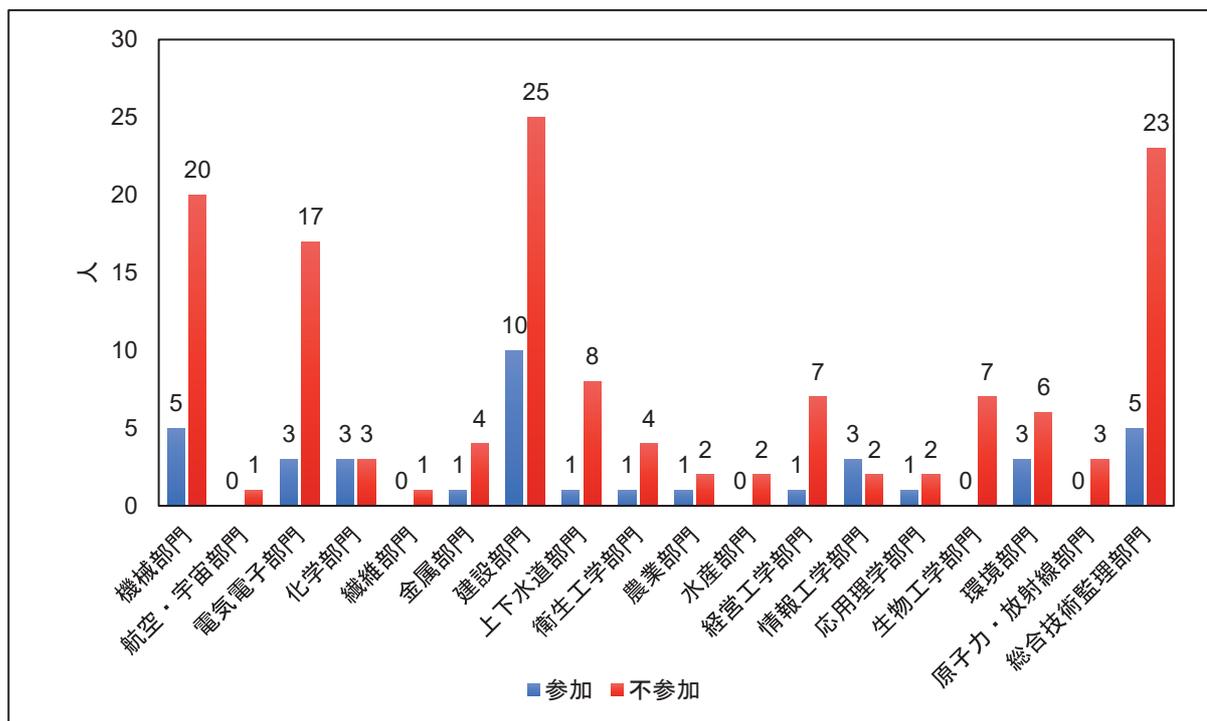
不満とした方の理由は、資料の事前配布がなかった、資料を配布するというアナウンスが遅かったというものであった。

青年委員会のイベントに初めて参加した方は90名(66%)であり、過半数以上を占めた。オンラインで参加費が無料になったため、費用的にも物理的にも参加しやすくなったこと、同報メールを全国の会員に発信したことが、参加者増加につながったと思われる。

参加者からは、好意的な意見・コメントが多かった。幸せ視点についてもっと詳しく知りたい、関連情報を知りたいというコメントもあった。一方で、Zoom設定(参加者のマイクや画面共有、入室音、チャット投稿のルールなど)の改善や講演資料の事前配布を求める意見もあった。

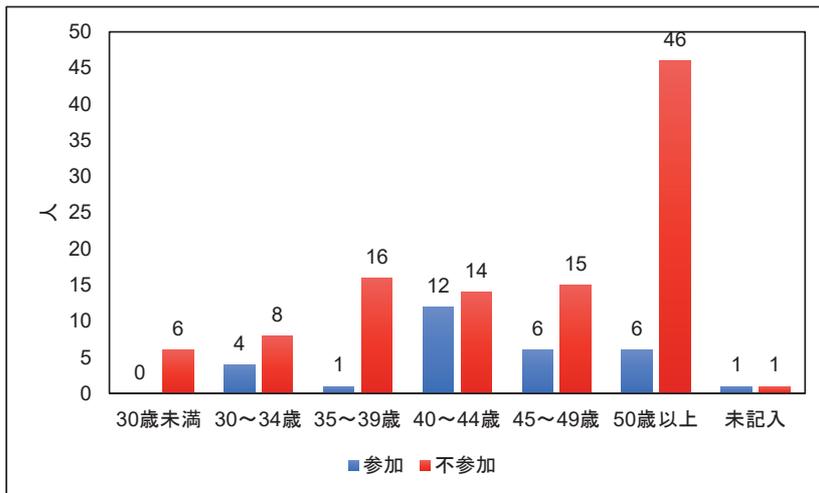
Q1. ご自身について

2.技術部門（グループワーク参加・不参加別）

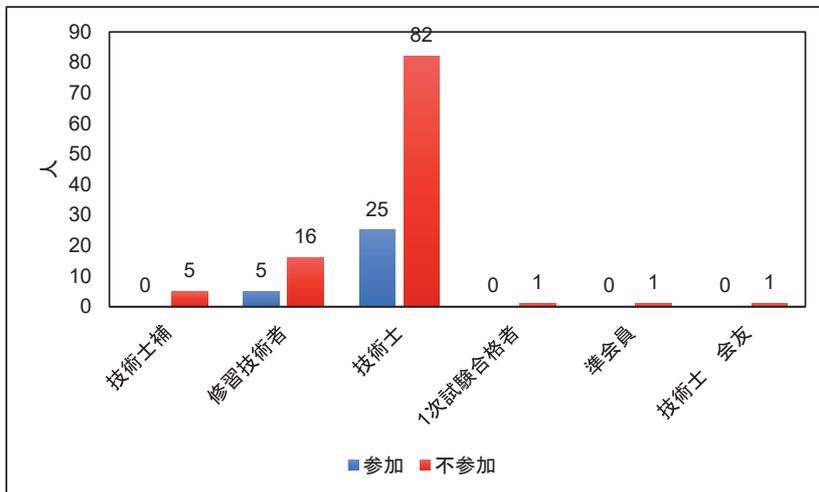


グループワーク参加者 38名・不参加 137名 延べ人数合計 175名

年齢層（グループワーク参加者 30 名・不参加 106 名 合計 136 名）

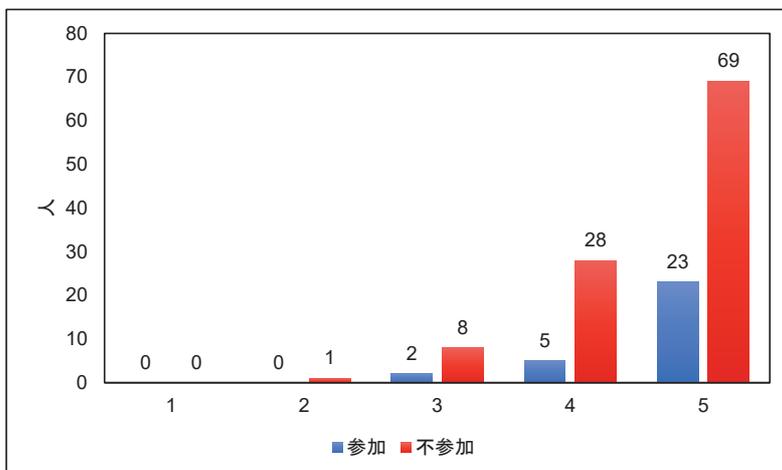


会員層

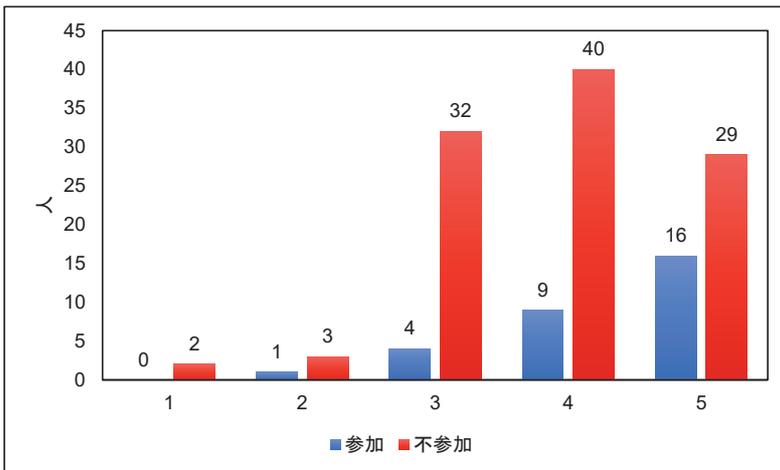


Q2-1. 今回のイベントについて

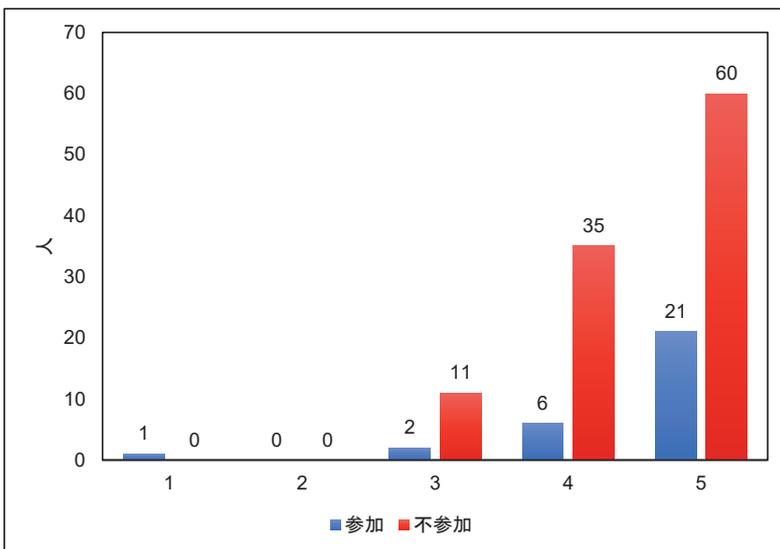
1. 講演会の内容（1が不満、5が満足、以下同じ）



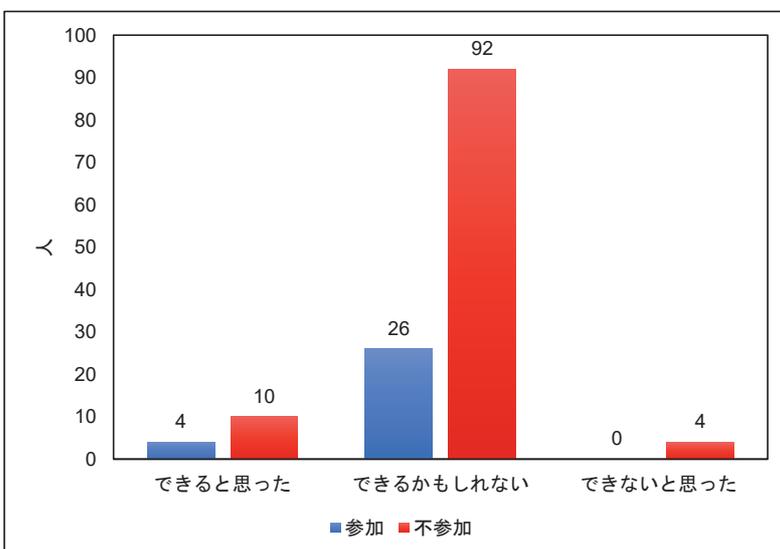
2. 講演会でのスタッフの対応



3. 講演資料の内容



4. 今回のイベントでの学びが所属するチームの役に立つと思いますか？



すごいチームにはできないと思った理由

- ・実現できれば作れそうだが、自分の能力的に出来るか不安がある。
- ・地方の平均賃金は安く、残業代が生活費用のコストを担うケースが多い。精神的ゆとりには時間が必要と考える。
- ・色んな人がいる職場で現実味を考えると、すごいチームを作るのは難しいと思った

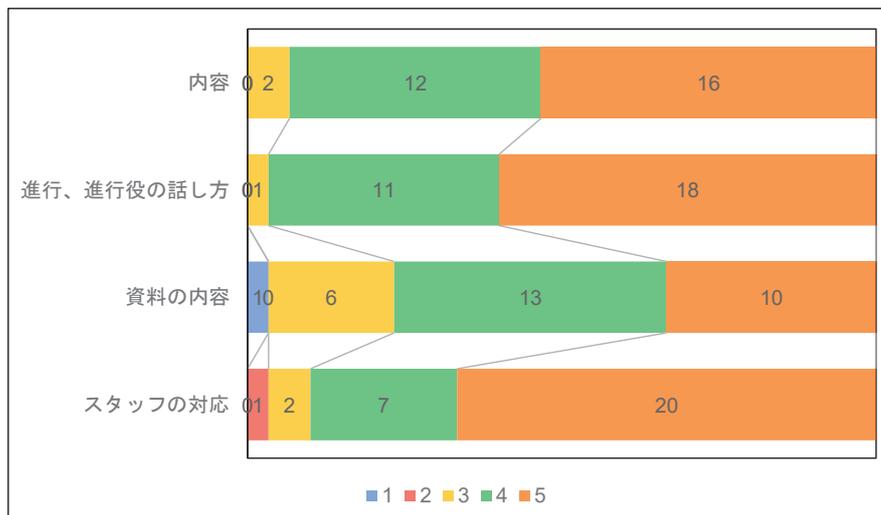
すごいチームにできると思った理由

- ・それぞれの組織の状況により、単純に改善できないとは思いますが、脱日本的な組織にするきっかけになると思う。

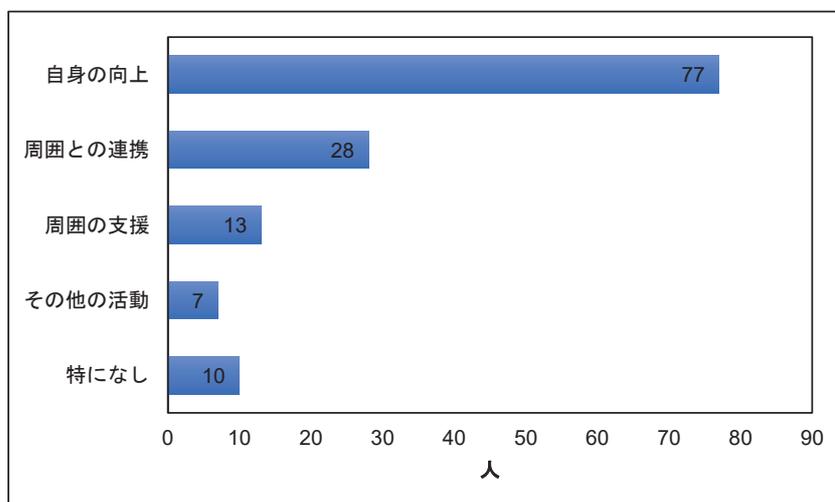
すごいチームにできるかもしれないと思った理由

- ・企業風土の問題

Q2-2. グループワークについて（1が不満、5が満足）



Q3. 本業以外の、ご自身の具体的な活動について（回答数 135 名、未回答 1 名）

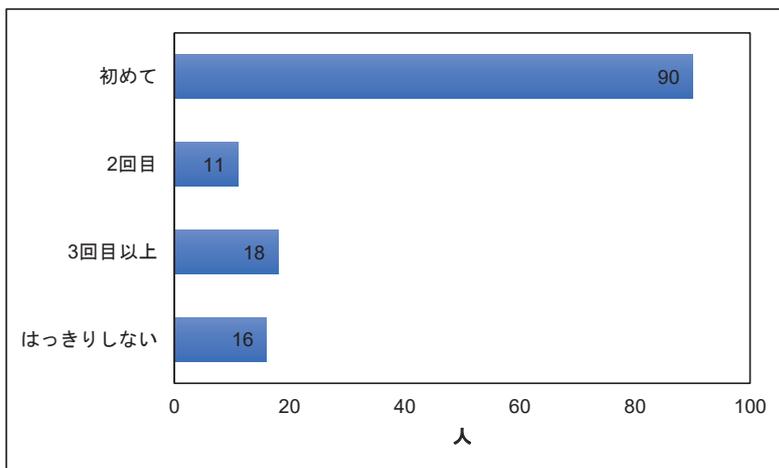


その他の活動の内容

- ・技術士会の部会・委員会活動、各種学会、NPO 法人の委員、これらの聴講
- ・地域本部青年技術士交流委員会（北海道、九州）
- ・産学官で耕作放棄地の有効利用、新規作物の試験栽培と加工品の商品化
- ・地方大学の非常勤講師
- ・自身の知識、スキル向上と将来の独立開業に向けた情報収集
- ・大学院での学生学習の支援
- ・地域住民への防災意識啓発、町内会活動（防犯部）

Q4. 青年委員会の活動について

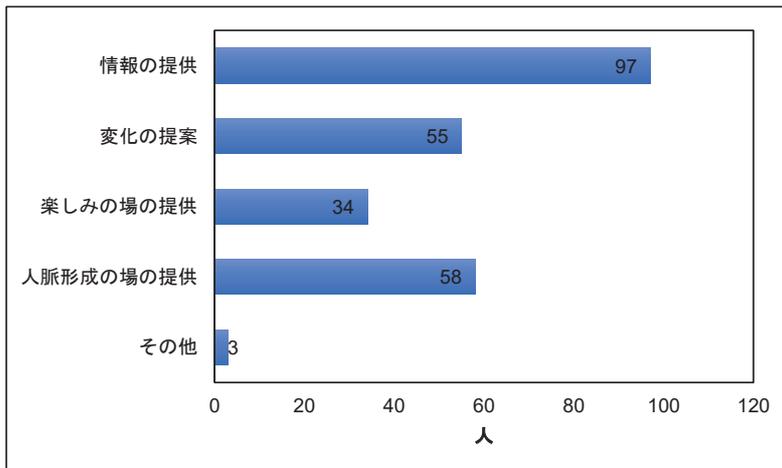
1. 青年委員会のイベント参加回数（回答数 135 名、未回答 1 名）



2. 過去のイベントで、印象的、面白かったテーマ（2回目以上の方のみ）

- ・拡大委員会(各地域の取り組みなど)
- ・全国大会(ワークショップなど)
- ・見学会(下関、橋梁、東日本大震災の復興状況の見学、防災施設見学)
- ・技術の継承（伝承）、2020年12月イベント(ゲーム理論)
- ・コミュニケーション関係（コミュニケーション講座、ラポールのつくり方、傾聴）
- ・修習ガイダンス 2021
- ・国際的なコミュニケーション、国際的な企画の創出
- ・これからの働き方(サイボウズ) ※北海道本部主催

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント



その他及び上記で選択したものの具体例

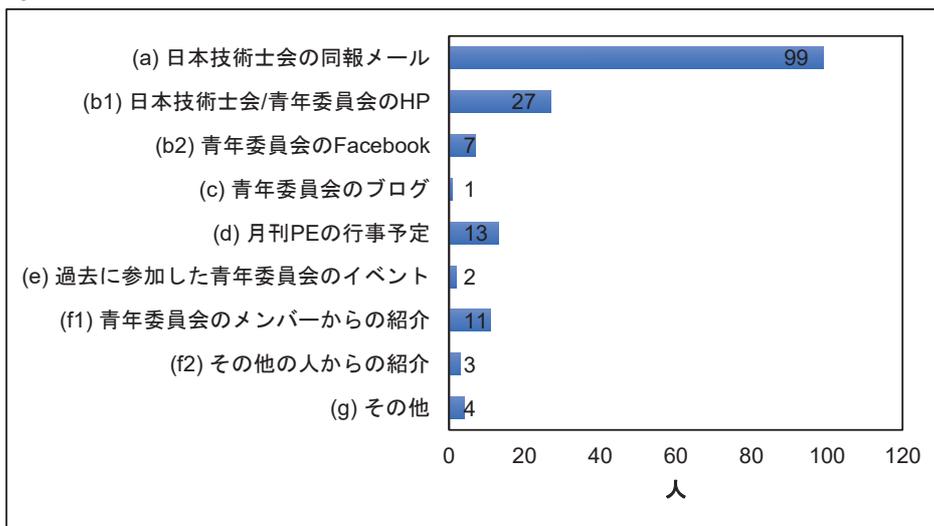
- ・今回のような各種講習会
- ・人材育成（教育・訓練）のコツ
- ・30歳～40歳前半の若手技術者向けのイベント（リーダーシップ、モチベーション維持、人脈づくり）
- ・IoTやAIの活用や新型コロナウイルスなどの急激な社会変化の中で、今後の技術士はどのように対応（変化）していくべきか
- ・現地見学会
- ・SNSなどを活用した新しい「技術士」の情報発信
- ・hintゼミの部活のようなもの
- ・テレワークの課題
- ・SDGsの中の技術士
- ・情報交換、交流、他業界との連携
- ・ビジネススキル系（システムシンキング等の思考法、マネジメント、人材育成など、コーチング、スキルアップ、心理的安全性
- ・楽しみながら新しいことにチャレンジ、切磋琢磨できる刺激
- ・技術士資格の活用例や具体的な取り組み
- ・Webとリアルの融合したイベント
- ・技術士会活動への提言
- ・幸福な「技術士」生活を世の中に発信するために、我々技術士の一人ひとりが幸せな生活を送ること。その事例紹介。
- ・再エネ関連
- ・最新の技術動向の供給
- ・新たな視点や話題性
- ・青年委員会メンバーの活躍の事例
- ・他の分野との技術の収斂をおこなうためのアイデア

- ・ 論語と算盤（渋沢栄一）

4. 内容以外について、ご希望など

- ・ Web(オンライン)での開催
- ・ コロナが終わったら是非実際の集まりの場に参加させていただきたい
- ・ Web 参加者が多い場合の対応・制限等
- ・ Zoom の設定で、少なくとも傍聴者のマイクはミュート・画面共有はできないにしたほうが良い。
- ・ 質問や協議は、チャット投稿にルールを設けてリアルタイムで質疑応答してもらっても良いと思った。
- ・ Zoom の入室音が気になった
- ・ 学術的なセミナーよりも今回のようにお互いの課題を協議する内容
- ・ 青年委員会の視点からの課題抽出
- ・ 講演資料の事前配布
- ・ ウィークエンド（土曜日・日曜日）開催が良い

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

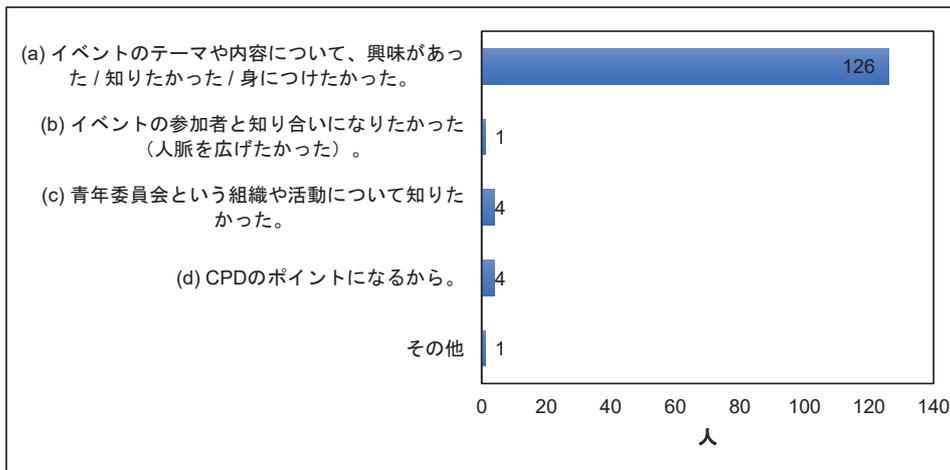


その他の具体例

- ・ 技術士会 HP の「一般CPD行事案内」
- ・ 元青年技術士交流会の上下水道部会の鳶田さんからの紹介
- ・ 北海道本部からのメール

Q6. 参加の目的と達成度について

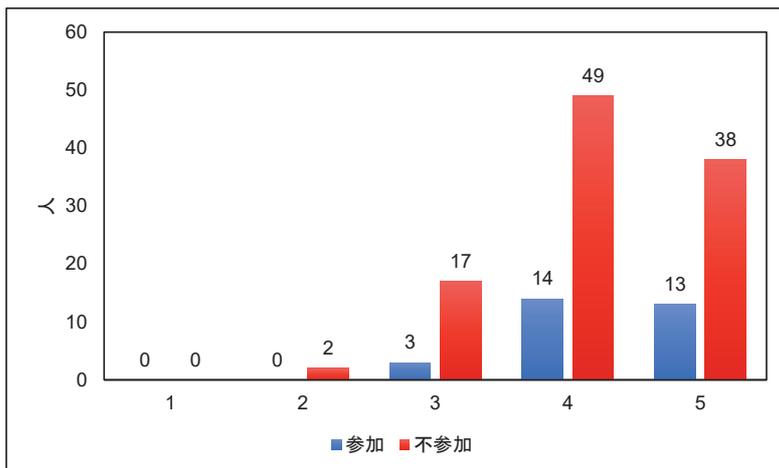
1. 目的は何ですか



その他の内容

- ・ウェブ企画の多様化について検討しているため

2. 上記の目的の達成度 (1 が未達、5 が達成)



4. スタッフに伝えたいこと

好意的な意見・コメントが多かった。幸せ視点についてもっと詳しく知りたい、関連情報を知りたいというコメントもあった。一方で、改善点を指摘するコメントもあった。

「今後のイベント内容について」

- ・技術士としての活動と社会への貢献について
- ・無料の Web 講演、セミナーを今後とも開催して頂きたい。
- ・もしリモート勤務における帰属シグナルの送り方のノウハウがあればご教授いただきたい。

「好意的な意見」

- ・若手も出席させたいので、活動の情報が欲しい
- ・あれだけの内容の講演を無料で聞けて非常にありがたかったです。Zoom でも学びがありましたので、今後の活動に活かしていきたいと思います。
- ・コロナ禍ですが、こうして他地域の学びを得られる機会を得やすくなったのはありがたいことかなと思います。中国本部でも東京の皆様には負けないような学びを発信していきたいと思います。本日は皆様お疲れ様でした。幸せ視点については、個人的には、学習する組織やU理論に影響を受けるところがあったかな、とふと思いました。(確かに参考文献に、学習する組織があつてなるほどなと思いました。)
- ・とても興味深い内容の講演でした。月曜日から、早速取り組んでみたいです。時間が超過しても質問に答えて下さろうとした、講師の先生の熱意に感動しました。
- ・幸せ視点の経営、イノベーションは非常に理想的な在り方と感じましたが、実践、現状からの変化へのエネルギーが必要だと思いました。
- ・リーダー（経営者）としての視点づくりに非常に役立った1時間でした。ワーキングできなかったのが残念です。
- ・年齢的に会社でリーダーをやるのは後1年強ですが、セカンドキャリアに役立つような情報をこれからもキャッチしていきたいと思います。
- ・オンライン運営は大変そうですが、地方在住者としては参加しやすく助かります。グループワークの時間がたっぷりあったのでよかったです。
- ・講演では、今知っておくべきこと、自身の幸せや目的意識に繋がること、ふんだんに盛り込まれたお話を聞くことができ、時間に気付かなかっただけで、より具体的に理解して自身の仕事や職場に反映したいと感じました。参加できて良かったです。GWでも、他者/他社の困り事や、悩みを共有しながら、経験の違う6名のメンバーで互いに良い議論を交わすことができ、自分の過去を振り返ったり、コミュニケーションの取り方を考えることができ、大変有益な時間でした。
- ・内容盛りだくさんなのに整理されていてとてもわかりやすい講演でした。グループワークも合わせて業務の改善ポイントも見えてきました（目的の共有、難しいです。。）。
- ・まずは少ない人数から実践して、チーム全体の幸せ向上を図りたいと思います。
- ・今の若い技術者の人たちでも、旧態依然の日本型企业で苦勞している方が多いのに驚きました。
- ・みんなが幸せになる方法に正解はないと思いました。みんなが自律していく動機付け、独りぼっちではないこと（心理的安全性）を感じさせるのが大事な事と感じました。

「改善点の指摘」

- ・ZOOMの入室音は切った方がよかった
- ・裏方の連絡が出てしまうのは…と思いました。尚、修習技術者支援委員会ではZoomチャットによる誤ったファイルの一般参加者への誤送信や裏方同士の連絡については、研修会当日に別途Skypeのチャットを立ち上げて対応しています。文字によるコミュニケーション

ンのみとなりますが、一般参加者と完全分離されているので、外部流出のリスクは避けられます。

- 出来れば、資料を事前配布いただけると講演も、もう少し聞きやすかったと思います。
- Zoom 切り替え後の URL を示したメールが届きませんでしたので、回答を伺うことができませんでした。そのほかの方への回答も含めてぜひ拝聴させていただきたかった。
- 資料が配られるかどうかは事前に知らせていただけると助かります。メモに終始してしまうので。

以上

行事名	3月臨時例会:帰ってきたコミュニケーション講座(オンライン Ver)
日時	2021年3月20日(土)
場所	Zoomによるオンライン開催
講師、発表者	講師:守田(技術士(情報工学))
担当者: (○印:リーダー)	○守田、河野
参加者数	参加者:10名

1. 背景・目的

2020年の緊急事態宣言後から、在宅・テレワークの機会が増え、職場や家庭におけるコミュニケーションの機会や取り方に変化が生じている。このことから、技術士に求められる資質能力(技術士 PC)の内、「5. コミュニケーション」の継続研鑽を目的とし、コミュニケーションに関するナレッジやフレームワークを理解し、実践に役立てるための情報提供と参加者間の気づきの共有を目的に実施した。

2. 例会内容

2. 1. 開催者挨拶(14:00~14:05):守田副委員長

本イベントの背景・目的およびスケジュールの説明を行った。

2. 2. アイスブレイク(14:05~14:20):参加者

自由に発想・想像できる絵から、会話やストーリーを作る投影法を用い、参加者自身のコミュニケーションの傾向を講義前に確認しながら、自己紹介とともに作ったストーリーを発表するアイスブレイクを実施した。

2. 3. 講義(14:20~15:35):守田副委員長

ポールウェア博士が提唱したコンタクトドア、コーチングの分類手法であるCSI(Communication Style Inventory for COACHING)、交流分析におけるストロークについての講義を行った。

2. 4. ディスカッション(15:35~16:00):参加者

講義内容を踏まえて、自身のコミュニケーションの仕方を、振り返り、評価し、今後のプランを考え、発表し、相互に気づきやコメント、ナレッジを話し合った。

3. 成果と所感

内部例会ではあったが、OB/OG、過去の例会参加者も含んだ例会となり、講義を通して得た気づきに加えて、各自のコミュニケーションに対する考え方や苦労点、アドバイスを共有することで、コミュニケーション力の研鑽だけでなく、参加者間の人脈構築や信頼関係の向上にも寄与した。

4. 今後の展開

中部本部から同様の例会開催の依頼が来ており、緊急事態宣言解除後の状況を加味しながら、より多くの技術者に向けた情報発信をしていき、コミュニケーション力の向上に貢献したい。



集合写真

地域本部 活動報告書

統括本部活動報告

2021年6月26日
委員長 竹内将人

今期の活動に向けた思い

@キックオフ2019年7月20日

成果 = 体力 × 実務能力 × 思い × (人を巻き込む力) ^ 影響力

- 無理をしないこと
- 強みを生かすこと
- 楽しくやること
- いろんな人を巻き込んでいくこと

若手技術者に向けた「より成果を出せるようになる」研鑽事業の
企画・実施を行っていきたい。

ビジネス、価値、金を生み出せる技術者へ

青年技術士交流委員会 活動方針について



Purpose : メンバーの共通目的
「共に成長できる人」とともに成長する

コロナ禍の中、
青年存亡の危機

Vision : 今期はこれで みんなそうでしょ？
青年委員会に入りたくて応募が殺到し選ばれた人しか入
れない委員会になっている。
(=「共に成長できる人」であふれている)
技術士がビジネスを生み出せるようになっている

Mission :
・ (成長が実感できる) 魅力的な組織となる。
・ 存在を幅広く技術者に認知させる。
・ 青年委員・参加者が持っている技術をビジネスにする
術を理解し実践できるようにする。

Primary Task :
・ メンバーがのびのび楽しく活動する
・ 仲間づくりにつながる例会を行う
・ 成長が実感できる仕組みを作る
・ 成果をアピールする (広報)
・ 内部例会でMOT系の企画を行う

Key enablers :
・ 心理的安全性の高い組織・例会づくり
・ 例会企画、実施方法に反映

一緒に具体化して
いきましょう！！



Purpose : 存在意義、青年はどんな価値を提供するか
Vision : 将来なりたい姿、目指す状態
Mission : Visionを達成するためにやるべきこと
Priority task : Missionの具体的な実施内容
Key enablers : Mission, Priority task を達成するための手段、
各自の持ちうる力等

統括本部：青年委員会の体制

<組織運営>

- 委員長
(竹内)
- 副委員長
(後藤、守田、田中ひ、河野)
- 会計
(鈴木)
- IT担当
(◎守田、鈴木、一川、佐藤)

<イベント実行> ◎：リーダー

- 例会グループ
(◎臼井、小塚、吉浦、後藤、吉岡、
岩部、清水、杉山)
- 国際グループ
(◎田中ま、田中ひ、河野、明山、
水柿、高木、大園、高瀬)
- サッカーグループ
(◎後藤、清水、鈴木、山本)
- 広報プロジェクト
(◎岩部、田中ひ、田中ま、清水、
高木、山本、守田)

例会G活動報告

- ・目的 円滑な例会運営と例会の負担軽減
 - ・具体的な活動
 - ①各例会の進捗確認とフォロー
 - ②マニュアルの整備・更新、備品の購入
 - ③アンケートのとりまとめ、次の機会での活用
- ＜開催した例会一覧＞すべてオンライン！

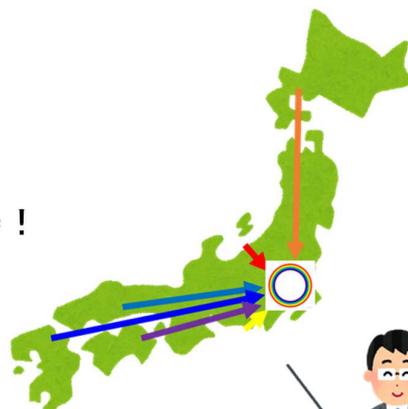
実施年月	分類	例会
7月	内部	Zoom Webinarによるパネルディスカッション
8月	内部	例会決め大会
9月	内部	さあ、才能(じぶん)に目覚めよう～ストレンクス・ファインダーと心理的安全性～
11月	部門横断	技術継承(伝承)について考えてみよう(ウェビナー)
12月	部門横断	技術士のための交渉力向上講座～ゲーム理論を添えて～
2021年1月	部門横断	『もう誰かのせいにはしない。仕組みを変えるための要因分析』
2月	部門横断	技術士を目指そう 2021年修習ガイダンス
3月	内部	帰ってきたコミュニケーション講座(オンラインVer)
3月	部門横断	コロナ時代を生き抜く「すごいチームのつくり方」
6月	部門横断	一次・二次試験合格者交流会

一般向け再開！！

例会G活動報告

＜活動＞

- ・オンラインの例会実施
→2020年度も高い満足度を獲得！
参加者は全国から集まって大盛況！



- ・外部講師の招致、人脈形成
→委員長や広報G、委員のツテを積極的に活用！



- ・Google formを利用したアンケート集計の導入
→効率化を図る。今後はマニュアル化！



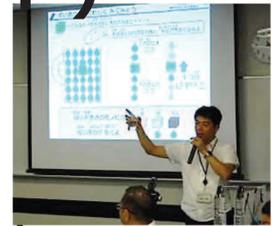
＜次年度に向けた課題＞

- ・オンライン環境のさらなる活用→オンラインテクノツアー等
- ・オンラインで増加した負担の軽減→ファシリテーターの支援ツールの開拓

理科教室 (Dreams プロジェクト)

【経緯】

- ・「子どもたちに理科の面白さを知ってほしい、理科を楽しみ、好きになって欲しい」
そんな若手技術者たちの思いからプロジェクトスタート
- ・小学生を対象とした「子ども理科・実験教室」を開催
- ・2014年から2019年までに、**6回開催**



【これまでの理科教室の内容】

- ・ガリレオ温度計を作ろう (2019年)
- ・顕微鏡を作ろう (2018年)
- ・道具と機械の仕組みを学ぼう (2017年)
- ・ミニ風力発電所を作ろう！ (2016年)
- ・2020年は新型コロナウイルス感染症のため、
開催を断念・・・

理科教室 (Dreams プロジェクト)



[Youtubeチャンネルはこちら！](#)

【2020年の試み】

- ・これまでの理科教室のネタを動画で紹介しよう
⇒ **Youtubeにチャンネル開設**
プレート加工の動画を公開！



【今後の活動方針】

- ・対面での理科教室の再開
- ・理科実験の動画撮影とYoutubeへのアップ
⇒ 子どもたちに理科を教えることを通じて、
青年技術者層の交流活動を続けていきたい



国際G活動報告

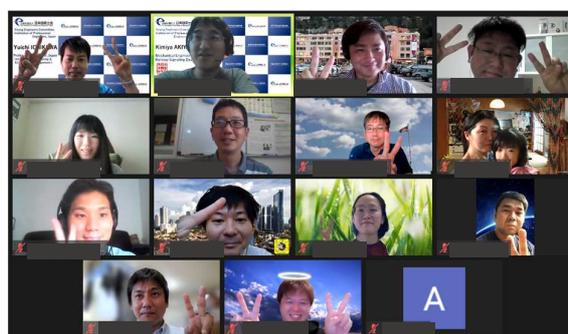
1 CAFEO/YEAFEO @ダナン (ベトナム) 2020年11月18-26日
 COVID-19の影響によりオンラインで開催 (青年交流企画なし)

2021年はブルネイ。



2 日豪交流ワークショップ (※青年有志活動)
 先方の都合により延期

⇒国内参加者との交流企画として開催



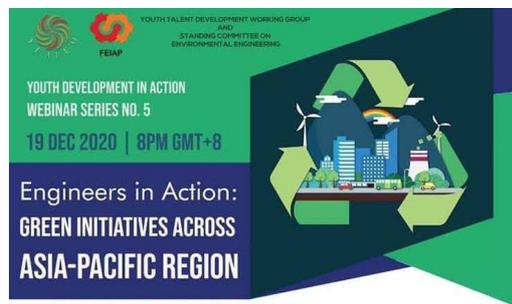
国際G活動報告

3 Youth Talents Development WG (※青年有志活動)
 オンラインセミナーシリーズ “Engineers in Action”

第2回



第5回



サッカーGr.活動報告



2019年日韓親善サッカー大会

【経緯】

2005年 日韓技術士国際会議のオープニングセレモニーとして
「日韓親善サッカー大会」を初開催、以降恒例行事に

2007年12月 「フットサル愛好会」が設立

※日韓親善サッカー大会での勝利を目指すため
そして「サッカー・フットサル等を通じて交流の輪を広げる」
ことが一番の目的

【これまでの活動概要】

- ・練習会（青年委員会統括本部・北陸本部等のメンバーや有志メンバーが参加）
⇒ 日韓親善サッカー大会での勝利を目指し、定期的な練習・交流活動を行っている



【現況の活動】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染及び拡大防止のため、2020年1月の練習会を境に、練習会等の活動を当面見送ることを決定

【今後の活動方針】

- ・有志メンバーによる定期的な練習会+テクノの開催
⇒ 青年技術者層の交流活動は今後も続けていきたい
- ・スポーツを通じて、共に成長しあえる仲間に出会いたい
- ・いろいろな人に会って刺激を受けたい



広報プロジェクト 活動報告

活動方針

- 青年技術士交流委員会の活動及び成果を積極的に日本技術士会内外にPRする。
- 技術士会員（特に若手層）や技術者に対して、魅力ある活動であることを積極的にPRする。

例会開催後、3日以内にプレスリリース！

News Release
2020年11月25日

【イベント開催報告】
「技術の継承(伝承)を考える」ウェビナー大盛況で終了！

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士交流委員会は、11月21日、「技術の継承(伝承)を考える」ウェビナーを開催しました。(集合写真：下写真)。

会場から幅広い世代の技術者が約30名集まり、「技術継承」をテーマに、3名の世代・部門を異なる視点で「技術継承」による意義とグループワークを実施し、これらから得られたフィードバックを「技術継承」の推進に活かすことについて話し合いました。

本ウェビナーでは、まず定例会から技術継承に関するイベントの実施に関する背景として、業界外の企業から技術者・技術士が多く存在する建設業・製造業・技術サービス業において「技術・技術継承の重要性」を認識し、いかにその普及を促進する必要があります。また、業種を問わず、世代・部門を超えた技術士(技術者)同士で議論を行うことを目的に本ウェビナーを開催したことを説明しました。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士交流委員会とは？
公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発を図ることを目的とし、唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会に加盟した各都道府県の支部、44都道府県の「若手技術士会」(若手技術者から構成され、業種別の若手技術者同士の交流促進の活動・実施を行っています。

青年技術士の育成は、最先端の技術者の知識を基に、ボストロコワのプラットフォームの中で、自ら進んで取り組む「一人ひとりが自ら考え活躍の場」をテーマに開催した。トランス・ブレイクスルー大学の経営学

「技術の継承(伝承)を考える」ウェビナーは、最先端の技術者から、メンター制度の重要性と即(経験)専門知識で、継続して体系的に人材育成をすることが重要であると、モチベーションを高く持ち続ける必要がある」と講演をまとめて頂きました。

最後に、3名の講演を受けて個人グループワークでは、参加者同士で技術継承の課題や解決策について議論し、それぞれが「アクションプラン」を策定し発表しました。(報告の一部：下図)。参加者からは「技術継承は仕事から、子ども時代ではなく、安心と、必死を継承すべきである」といった情熱的な意見も飛び交い、大盛況のうちに幕を閉じました。

また当日では、12月12日に賞状授与式も予定しております。本イベント参加者は皆賞状とアクションプラン(ワークシート)を準備してまいり、その結果を報告・共有し、表彰状をつくることで、結束を高める効果も期待します！

【ポイントに関するお問い合わせ】
公益社団法人 日本技術士会 青年技術士交流委員会 委員長 竹内 尚人
広報担当 若原 実美 E-mail: jpr@jppc.jp
若手技術士会等に関するお問い合わせはこちら

「相手を知り向き合おう」
技術士会青年技術士交流委員会がワークショップ

理想のチーム像議論

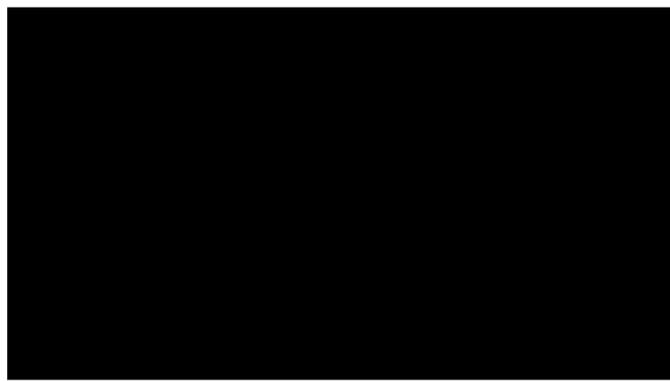
2021年3月11日
建設通信新聞2面：
3.11の日に記事掲載は非常に印象深く＆嬉しかった！
記事の見出しもデカい！（注目度高い）

「これを知れば、チームが求めている能力が、どこまであるのか、どうやってそれを育てるか、という課題が出てくる。それを育てるためには、まず自分自身を知ることが重要だ。自分自身を知ることが、相手を知ることにつながる。相手を知ることが、相手と向き合うことにつながる。相手と向き合うことが、チームの力を高めることにつながる。」

「相手を知り向き合おう」というテーマで、最先端の技術者から、メンター制度の重要性と即(経験)専門知識で、継続して体系的に人材育成をすることが重要であると、モチベーションを高く持ち続ける必要がある」と講演をまとめて頂きました。

最後に、3名の講演を受けて個人グループワークでは、参加者同士で技術継承の課題や解決策について議論し、それぞれが「アクションプラン」を策定し発表しました。(報告の一部：下図)。参加者からは「技術継承は仕事から、子ども時代ではなく、安心と、必死を継承すべきである」といった情熱的な意見も飛び交い、大盛況のうちに幕を閉じました。

青年委員会活動紹介動画（YouTubeで公開中！）



青年技術士交流委員会

青年技術士交流委員会

YouTube JP 青年技術士交流委員会

若手技術士プラットフォーム（オンラインサロン：Slack）を開設・運営 現在全国の青年メンバー35人で稼働中！

若手技術士プラットフォーム

若手技術士プラットフォーム

自己紹介

スレッド

すべてのDM

メンション&リアクション

ブックマーク

その他

チャンネル

2021全国大会-グループワーク

2021全国大会-テクノ

2021全国大会-運営全般

2021全国大会-交流会

2021全国大会-調査記念品

はじめに

挨拶

自己紹介

青年活動

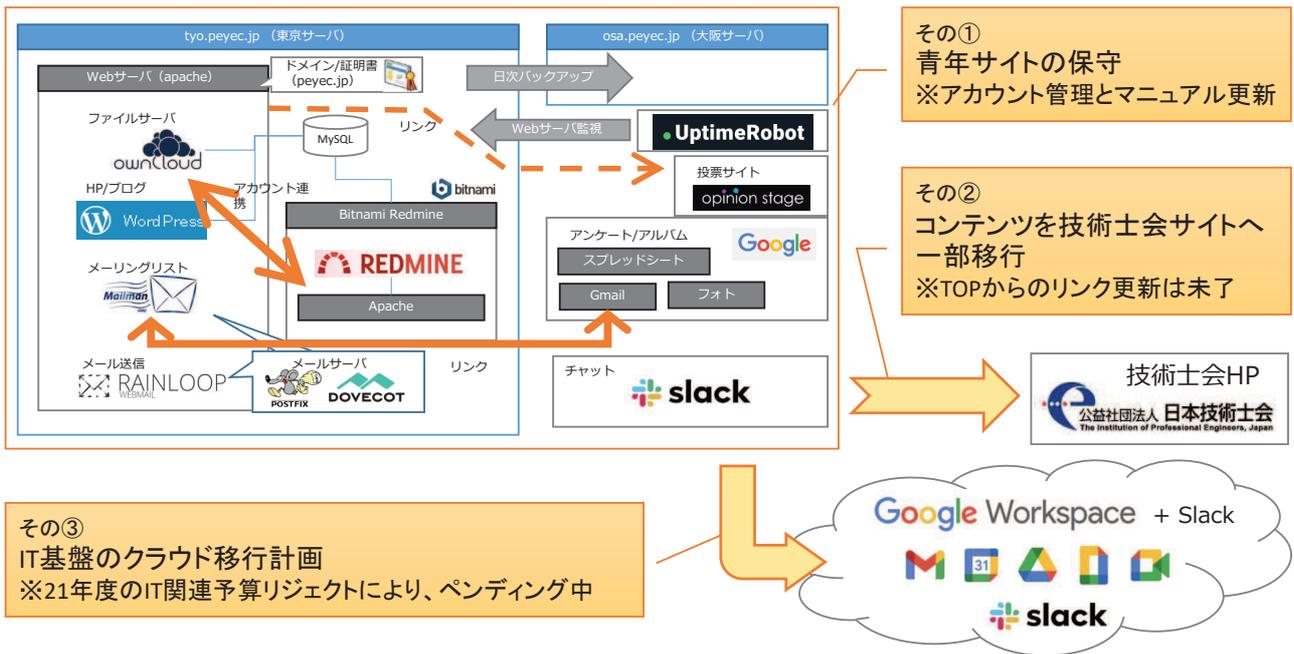
チャンネルを追加する

ダイレクトメッセージ

Slackbot

チームメンバーを追加する

IT担当の活動報告



その①
青年サイトの保守
※アカウント管理とマニュアル更新

その②
コンテンツを技術士会サイトへ
一部移行
※TOPからのリンク更新は未了



その③
IT基盤のクラウド移行計画
※21年度のIT関連予算リジェクトにより、ペンディング中





「第16期」2年目、始動 活動テーマ= 「楽しい青技交！」

大小含め、
年間10イベントを計画・実行！

交流・研鑽促進のため楽しいイベント企画・実施
約50名の幹事でWG体制の実行 / 若手幹事の活躍！

全イベントの報告

- ① 「技術士を知ろう！」@北海道科学大学 (7/14)
- ② 第1回small talk (7/18)
 - 拡大委員会@web開催 への参加 (6/27)
 - 北海道本部第53回年次大会参加 (7/4)
- ③ オンライン講演会+WS
「Withコロナ時代における技術者の働き方とは」 (9/18)
 - 全国大会(青年イベント) @中部 (web) への参加 (10/4)
- ④ 「技術士を知ろう！」@札幌工業高校2年生 (10/7)
- ⑤ 第2回small talk (11/7)
- ⑥ 「技術士を知ろう！」@北海学園大学3年生 (11/20)
- ⑦ 公開型講演会「技術士による知的書評合戦
オンラインビブリオバトル2020」 (11/21)
- ⑧ オンラインテクニカルツアー(農業編) (11/27)
- ⑨ 「技術士を知ろう！」@函館高専3年生 (12/16)
- ⑩ 「技術士を知ろう！」@北見工業大学 (1/14)

中止になってしまった主なイベント

- ・新合格者&U-35対象 ワークショップ
- ・幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」
- ・エンジョイサイエンス研究会とのコラボイベント
- ・幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」
- ・「技術士を知ろう！」小学校編
- ・本部主催の合格祝賀会 等



▲オンライン講演会+WS



▲オンラインテクニカルツアー



▲公開型講演会
オンラインビブリオバトル

その実現へ向けた
事前打合せ・調整
= 幹事会&WG
計10回実施
※技術士を知ろうWGを除く

すべてweb開催



▲small talk



「第17期」の1年目、さらに楽しく！



委員長 : 平岡 城栄 (継続)
副委員長 : 須田 徹央 (新任)、太田 真吾 (新任)、
密山 彰浩 (継続)、藤井 貴弥 (継続)、
長内 克真 (継続)
幹事長 : 高橋 歩夢 (新任) 幹事 = 47名体制で始動！

全イベントの計画: R3=世代交代! ?

- 拡大委員会@zoom への参加 (6/26)
- ①北海道×統括 ストレngthスファインダー企画 (6/6)
- ②本部主催の合格祝賀会(2次試験) (7/14) ⇒中止
- 日韓技術士国際会議(仙台) (10月)
- 全国大会(青年イベント) @東京への参加 (11月)
- ~以降、実施時期未定~
- ③新合格者&U-35対象 ワークショップ
- ④幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」
- ⑤テクニカルツアー(詳細未定)
- ⑥⑩small talk
- ⑦公開型講演会「(未定)」
- ⑧幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」
- ⑨技術士を知ろう! 小学生編
- ⑩本部主催の合格祝賀会(1次試験) ⇒青年2次会

<今年度も引き続き、web幹事会を開催しています！>



「技術士を知ろう！」⇒今年もミライ研との共催で実施予定！



公益社団法人日本技術士会
北海道本部 社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会

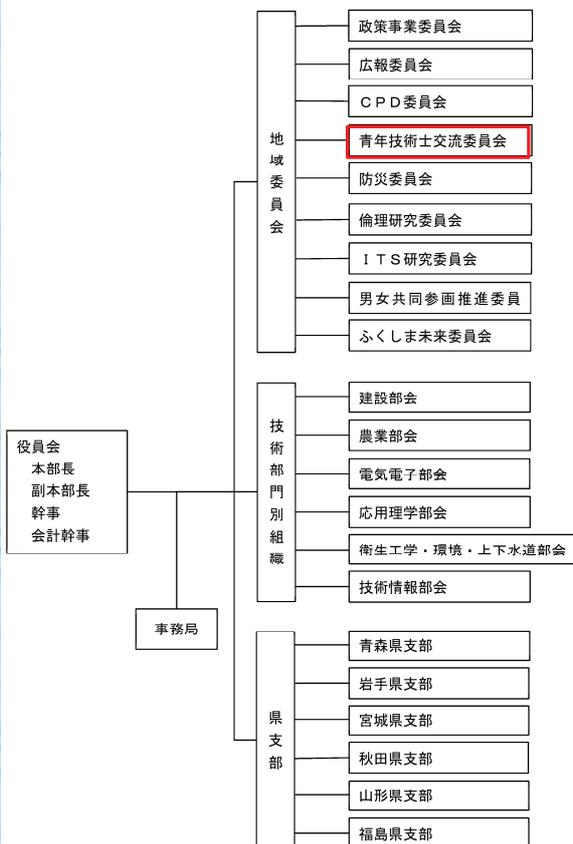
代表 : 小澤 正志
幹事長 : 千葉 裕
幹事 : 木本光則ほか、計19名



令和3年 青年技術士交流委員会 本支部交流会議

活動報告【東北本部】

組織



定例会議

(月1回、水曜日)

(話題提供、他分野の技術交流、自己研鑽)



「この写真は、緊急事態宣言前に撮影されたものです」

懇親会



「この写真は、緊急事態宣言前に撮影されたものです」

合格者 祝賀会

令和二年度 技術士一次試験合格者

・ J A B E E 課程修了者ガイダンス

2020年12月18日（土）

オンライン併用開催

合格者 祝賀会

令和二年度 技術士二次試験合格者

祝賀会研修会

2021年6月9日（水）

オンライン併用開催

全国大会 代替企画 2020.10.4(月)

講演会：仕掛学

質疑：チャット機能（独自のAIで集計）

記念品製造秘話



学校へ行こう 【中止】

・秋田工業高等専門学校「技術士を知ろう」

【内容】

- ・就職後の土木業界の面白さ、資格の重要性を知ってもらう
- ・学生のモチベーションアップやキャリアデザインetc



「この写真は、緊急事態宣言前に撮影されたものです」

学校へ行こう 【朗報】

2020. 12. 18受信（一次試験合格者発表日）

いつもお世話になっております。

秋田高専の山添です。

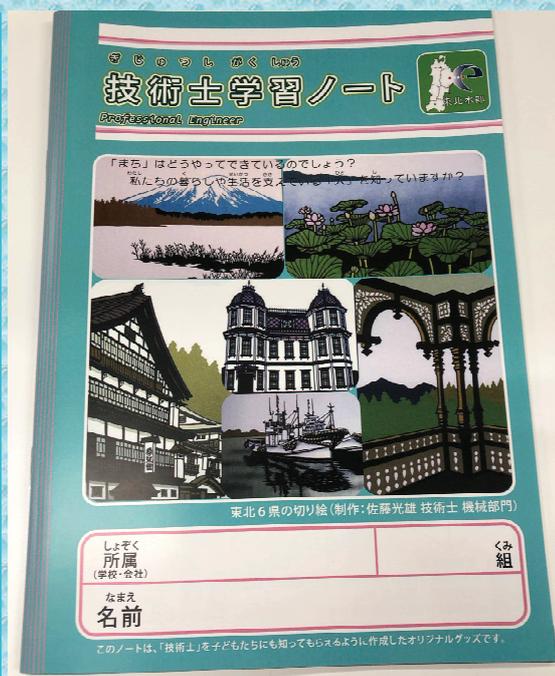
昨年度、出前講座「技術士を知ろう」を開催していただきましたが、その出前講座で技術士を知り、今年度数名の学生が技術士第一次試験を受けました。

本日その結果発表があり、おかげさまで**2名**の学生が**合格**となりました。齋藤様をはじめ、当日ご参加いただいた日本技術士会東北本部の皆様には改めてお礼申し上げます。

当日、講師をお引き受けいただいた技術士の方々にも、ぜひこの結果をお知らせいただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

技術士ノート



東北新幹線「はやぶさ (E5系)」



青年技術士交流委員会の活動報告

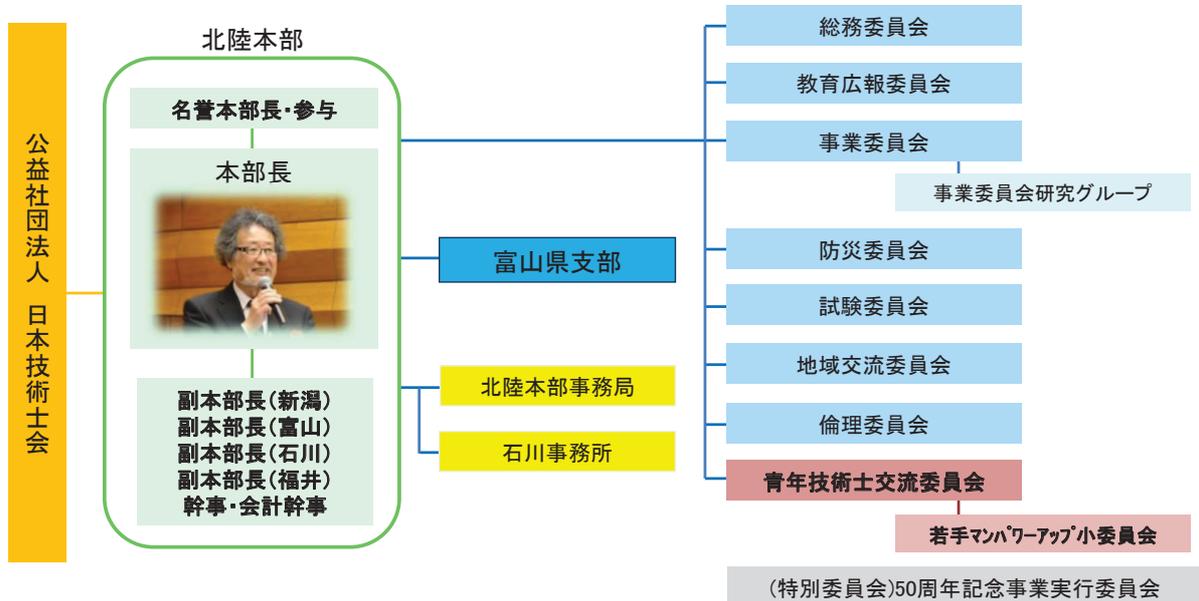
青年技術士交流委員会
高野康夫

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

組織紹介

福井・石川・富山・新潟の4県で構成されている

下部組織に「若手マンパワーアップ小委員会」がある



目標と方針

目標

地域の科学技術に関する実践的な知識集団の一員として、日々進展する科学技術を、青年技術士という立場から各分野での業務等を通じて社会に具現化することで、持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する

方針

勉強会、現地学習会、講演会などをおして、若手技術者の技術力の向上と、それに伴う意識向上をつねに心がけさせ、技術者全体の資質向上を図る

メンバー紹介(村山体制への移行決定！)

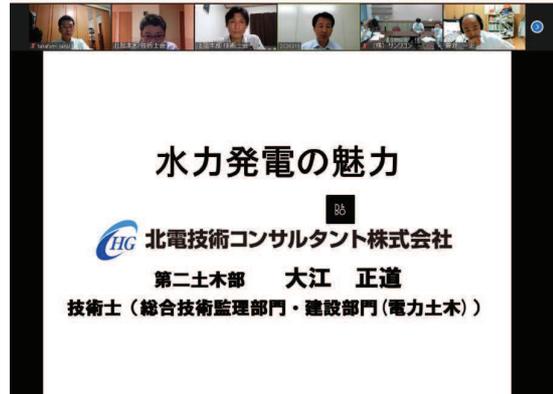
7月からの新体制

職名	氏名	技術部門		県	勤務先
委員長	村山 達也	建設	正	新潟	オムニ技研(株)
副委員長	石田 謙介	建設	正	新潟	(株)興和
	関谷 悟	建設	正	新潟	グリーン産業(株)
	多田 照代	建設、環境、農業	正	福井	(株)北陸環境科学研究所
	下鳥 稔	環境	正	新潟	(一財)上越環境科学センター
委員	中村 大輔	電気電子	正	新潟	(株)日立産機システム
	安野 伸春	建設	正	福井	(株)サンワコン
	神納 毅	建設	正	石川	(株)日本海コンサルタント
	柴田 悠平	建設	正	石川	(株)日本海コンサルタント
	荒井 秀和	建設	正	富山	(株)新日本コンサルタント
	伊藤 義将	建設	正	新潟	(株)本間組
	勝見 百合	金属	正	富山	YKK(株)
	根本 晋哉	建設、総監	正	新潟	(株)日建緑地
	三善 啓昭	上下水道	準	新潟	敦井産業(株)
	飯澤 周佑	森林	準	新潟	(株)キタック
	坂井 貴文	衛生工学	準	新潟	菱機工業(株)
	内田 真梨	建設	準	福井	(株)サンワコン
	山岸 由佳	応用理学	準	新潟	(株)キタック
	オブザーバー	森 将恒	建設、総監	正	新潟
大門 健一		建設	正	富山	(株)新日本コンサルタント
高野 康夫		衛生工学	正	新潟	菱機工業(株)

活動紹介 拡大委員会

委員会の運営方針に関する討議、技術発表、見学会など
 県境を跨いだ技術交流
 「お互いの技術を知る」
 2020年6月12日(金)、はじめてのWebイベント
 活動内容の共有、技術発表会を開催

令和元年度の活動報告(高野)
 技術発表会(各県の委員より)
 ▶ 県立都市公園の指定管理業務(根本)
 ▶ 水力発電の魅力(大江)
 ▶ ラウンドアバウト導入による効果検証手法の検討(大西)
 ▶ 既存吹付モルタルの調査・設計手法に関する検討(竹内)
 コロナ禍での活動方針などについて意見交換会



活動紹介 全国大会(青年代替イベント)

全国青年2020
 ～中部大会～With AICHI
 ・全国の青年委員と交流
 ・北陸からの参加者は2名
 2020年10月4日(金) Zoom
 「仕掛学」に関する講演、ワーク
 記念品Project

仕掛学 —Shikakeology—
 大阪大学松村教授が提唱する問題解決のためのフレームワーク
 行動経済学に基づく原理で、ストレス無く人の行動を制御できる
 公平性、誘因性、目的の二重性、という3つの要素から定義

記念品Project ～記念品製造秘話～
 今回の代替イベント参加者に、スマートフォン用スピーカ(エンクロージャ)を有償配布
 試行錯誤しながら設計をブラッシュアップする様子が報告された



第4章 試行錯誤
 試作型～量産型 比較

	零号機	零号機(改)	初号機	試作機
外観				
部品点数	12	8	8	7
コスト ※零号機を1とする	1 ※試作せず	見積せず	0.47	0.56 ※初号機は初回割引されていた

活動紹介 “新しい方式”による秋の見学会

佐渡地域のストックマネジメント ～世界遺産への挑戦と生態・文化財 の保全について～

参加者34名

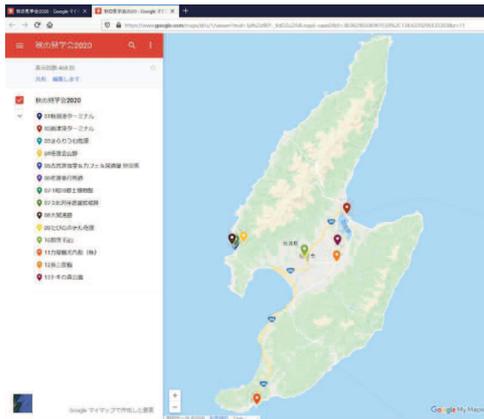
2020年10月23日(金) Zoom形式

佐渡金銀山の世界遺産登録に関する講演
Web現地見学

コロナ禍において、どうすれば見学会を開催できるか？

“新しい方式”による「秋の見学会」開催を決定

- ・ 企画運営担当として少人数で見学先訪問
- ・ 360°カメラを使用し、写真や動画を撮影
- ・ 撮影した記録画像・動画をWeb配信し、全国どこからでも見学できる
- ・ 見学会に講演会を取り込み、Web講演会をリアルタイム配信する
- ・ Web講演会后、Googleマップ上で記録画像・動画を閲覧できる



活動紹介 “県境を跨いだ交流” 冬の講演会(リモート)

「北陸の青年技術士」

参加者33名

2021年3月5日(金) Zoom形式

各県を代表する青年技術士がお互いの技術を紹介した。

富山県 グリーンスローモビリティ運行管理への挑戦から

大門健一氏

新潟県 地盤・地質調査における課題と未来

～地元中小企業の悩みと可能性～

村山達也氏

福井県 自然の中で仕事をすること

～自然環境調査の目的と事例紹介～

夢田照代氏

石川県 金沢城・兼六園周辺の歴史的回遊ルート形成

に向けた鼠多門橋の復元設計 濱田康行氏

青年技術士交流委員会 令和2年度 冬の講演会 北陸の青年技術士



- 15:00 開会の挨拶、講演者紹介
- 15:10 講演1 富山県の青年技術士
- 15:35 講演2 新潟県の青年技術士
- 16:00 講演3 福井県の青年技術士
- 16:25 講演4 石川県の青年技術士
- 16:50 総合ディスカッション
- 17:20 閉会の挨拶
- 18:00 Web番組交歓会

イベントの様子は、本会広報誌などで公開される場合があります
あらかじめ御了承ください



日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

活動紹介 若手マンパワーアップ小委員会

SNSフォトコンテスト

2020年12月1日～2021年1月31日

FACEBOOK、INSTAGRAM、twitter上で募集

審査委員長 山崎エリナ氏(写真家)

建設業というジャンルにフォーカスし、そこで働く人々の姿を撮影し続ける
インフラメンテナンス大賞優秀賞受賞。
写真集「インフラメンテナンス～日本列島365日、道路はこうして守られている」など多数

今年度は写真コンテストをSNS上で開催

土木に携わる人物の魅力にフォーカス

学生・若手に土木工事(建設業)の魅力を感じてもらいたい



SNS フォトコンテスト ハッシュタグ、タイトル、エピソードを添え投稿！

土木に携わる人物に魅力を感じた一枚！

#ニイガタドボク

新潟県の建設関連産業、土木に携わる人物から溢れ出る魅力や情熱を表現した写真を募集します。

応募期間 2020年12月1日～2021年1月31日

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

活動紹介 若手マンパワーアップ小委員会

受賞作品

特選「深緑の緑山」



金選「安全を担うヒト」



銀賞「3時の休憩」



銅選「頂より街を見下ろす」



【その他賞】

「熱心に勉強中」にいがた土木女子会議賞
「私が土木業界に就職した理由」夢が決まる瞬間賞
「遠足よりすごい」現在(いま)も未来もワクワク賞
「彼らの出勤は昼夜を問わない」努力と豪雪のコントラスト賞

2020年度 中部本部 活動報告



例会

コロナ禍により
Web開催を模索

4月年次総会



11月例会【オンライン例会】



全国青年2020～中部大会～

全国青年交流、たすきをつなぐ

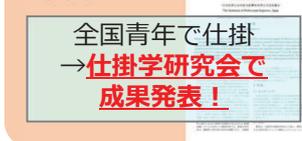


技術同好会

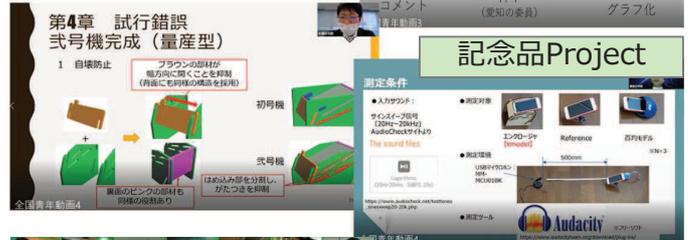
コロナ禍に
翻弄されるも
思いと技術で
活動継続

※継続4WGは休会
(建設, 城, 科学教育,
IT活用)

仕掛学WG



製造WG



2020年度 中部本部 活動報告



2021年度(令和3年度)の活動体制 (11名+補佐4名+顧問2名+運営3名)

役割	特命	氏名	任期
委員長	委員会運営	嘉田 善仁 機械	再任 12代
副委員(筆頭)	委員長代行	成田 尚宣 生物工学	再任
	全国大会、科学教育		
副委員長	全国連携	中村 将士 金属	再任
副委員長	例会改革L	小塚 俊吾 機械(修)	任期2年目
委員	例会企画	加藤 潤哉 電気電子	任期2年目
委員	例会企画、修習連携	平野 健二郎 環境	任期2年目
委員	例会企画	加藤 昭久 機械	再任
委員	例会企画	青山 浩之 建設、上下	任期2年目
		水、総監	
委員	例会企画、全国連携	熊澤 貴弘 経営工学	新任
委員	交流会企画	三島 孝朗 機械(修)	再任
委員	例会企画	青山 尚弘 機械(修)	任期2年目
委員補佐	CPD連携、広報連携	小島 茂樹 建設	再任
委員補佐	例会運営補助	奥村 康 機械	再任
委員補佐	例会運営補助	藤田 政利 機械	再任
委員補佐	例会運営補助	秋山 幸之朗 機械(補)	再任
顧問	運営相談	石川 智康 情報工学	再任 11代
顧問	運営相談	高瀬 春之 経営工学	再任 10代
運営委員	例会改革SubL	中川 勝統 衛生工学	任期2年目
運営委員	例会推進	木村 琢磨 電気電子	任期2年目
		(修)	
運営委員	例会推進	宇佐美 英明 農業(修)	再任

近畿本部 青年技術士交流委員会活動報告



コロナの中、手探りでイベント実施！

- 2020年度委員
 藤内 洋 (委員長)
 田中 慎 (副委員長)
 小宮 洋行
 生浦 浩子
 弦牧 篤
 藤本 喜敏
 原口 宣明
 高岡 直樹
 竹市 雄作
 坂東 大輔

① 「契約ブートキャンプ 2020」

↑
法律系スキル
レベルUP!

イベント延期 2/29→7/4
あきらめずに実施。

改正民法対応
特別公演付き

② 目指せ！ 診技一体

技術士×診断士 士業の未来を考えるカンファレンス
 産み出そう、社会的価値を 中小企業診断士と技術士のコラボから

Zoom&GoogleDrive活用で実施。

- 1.WEB講演会
 8月8日(土) 13:30~15:05
- 2.WEB討論会(オンラインワークショップ)
 10月31日(土) 13:00~16:30



近畿本部青年技術士交流委員会活動報告

近畿の技術士といえば



2020は青年委員会と青技懇で
 イベントオンライン化が促進。
 2021はさらなる協調を目指す！

- 【青年委員】
 藤内 洋 (委員長)
 藤本 喜敏
 原口 宣明
 高岡 直樹
 竹市 雄作
 坂東 大輔
 畠中 祐二

- 【青技懇幹事】
 藤本 喜敏 (代表)
 弦牧 篤
 高岡 直樹
 原口 宣明
 山田 雄一
 酒井 博史
 藤内 洋
 吉田 晋侑
 高岡 直樹
 長谷川 剛史
 和田 直之
 鵜飼(前川)裕美
 畠中 祐仁
 園田 洋平

青技懇は「30周年」
 30周年分科会を立ち上
 げ、2021/11/27を目標に
 大規模イベント計画中。

[1] 2020年度活動報告 [報告] 青技懇 2021年4月 総会資料から抜粋

開催月	開催日	講演・講師	会場、参加人数(例会/討論会等) ↓
4月 例会	4/18 (土)	・2020年度総会(活動報告・新任幹事紹介と承認等) ・自由討論会	オンライン 27/25
5月 例会	5/29 (金)	・講演1:「感染症とその対策について」 講師: 金田 豊 技術士(化学、総監) ・講演2:「US Coronavirus Outbreak 米国現地ルポ」 講師: 藤本 喜敏 技術士(機械、総監)	オンライン 35
6月 例会	6/26 (金)	・講演:「プログラマブルロジックデバイス」 講師: 上田 直也 技術士(電気電子)	オンライン 31
7月 例会	7/31 (金)	・講演:「環境プラスチック問題への技術的対応 ～予見的研究と技術士としての役割～」 講師: 中尾 賢志 技術士(土木水道)・博士(工学)	オンライン 42
8月 例会	8/30 (日)	・ワークショップ:「ミーティングマネジメント力を高めるファシリテーションの技法」 講師: 水江泰資 様、関戸紹恭 様	オンライン/ 講師幹事リアル 30
9月 例会	9/25 (金)	・講演:「技術士×セールスコピーライター」 講師: 清水 龍 技術士(建設)	オンライン 29
10月 例会	10/30 (金)	・講演:「豊かな大阪湾の海に向けて ～私たちがいまできること～」 講師: 岩井 克巳 様 技術士(建設) NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事	オンライン 26
11月 例会	11/28 (土)	・講演:「契約ブートキャンプ2020」 講師: 中島 幸生 様 三菱電機株式会社	オンライン/ 講師幹事リアル 18
12月 例会	12/26 (日)	・講演:「IDCAEの紹介と空飛ぶクルマ開発への適用検討」 講師: 畠中 裕仁 技術士(機械部門)	オンライン 25
1月 例会	1/29 (金)	・講演:「鉄道クイズ(電車への電源供給システム編) ～これであなは電車博士!??～」 講師: 園田 洋平 技術士(電気電子)	オンライン 27
2月 例会	2/28 (金)	・講演:「個人防護具その他コロナ対策品を支える素材技術・緊急供給体制についての四方山話」 講師: 宮西 健次 技術士(化学部門)	オンライン 31
3月 例会	3/27 (土)	・グループワーク:「技術者がイノベーションを起こすには」 講師: 宮島勇也 様 パナソニック株式会社 IS社ものづくり革新センター生産システム開発部 要素工法開発課 主任技師	オンライン 22



中国本部 活動方針 '16

例会勉強会を柱とする 技術者間交流 および 技術を通じた
社会貢献により 会員の成長の機会を提供します。

中国本部 活動テーマ'20

体制1年目'19 居心地の良い、成長の場所、全員参加型

体制2年目'20 「発見力」～今まで知らなかったことを知る～

中国本部 グループ活動'20

- ・ 例会・懇親会グループ
Web例会の企画運営⇒take off
- ・ 社会貢献活動グループ
遠隔通信技術を体験しよう！！
- ・ 新企画、若手CPDグループ
青年イベントの試作的な機能
- ・ 国際グループ
英語の勉強きっかけ作り、継続化
- ・ 広報グループ
「会員勧誘と交流促進する活動」をプロジェクト的に実施



Gr5: 広報



Gr1: 例会・懇親会



Gr2: 社会貢献活動



Gr3: 新企画若手CPD



Gr4: 国際



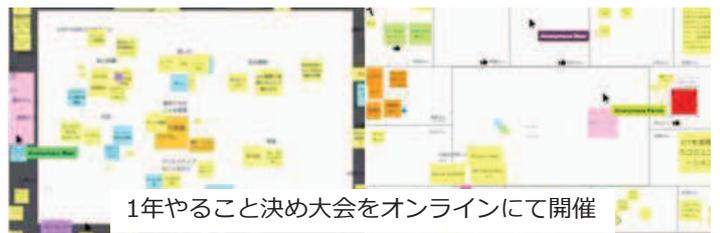
例会懇親会グループ Web例会の企画運営⇒take off

- ・ スムーズな進行
- ・ コンプライアンスの遵守
- ・ 開催ルールの確立

○場所：日本技術士会中国本部会議室、オンライン配信
○日時：毎月第二水曜日 19:00～20:30

開催月	2020年度 活動内容【例会・懇親会グループ】
4月	【運営会】'20年度活動内容決め 4/25、5/2
5月	【内部】身の回りのプラスチック 社会における役割と課題の考察
6月	【外部】広島都心再生に向けた官民連携によるパブリックスペースの創出
7月	【内部】港湾・空港事業の紹介
8月	【番外】中国5県Web交流会
9月	【外部】呉工業高等専門学校生の学生による研究紹介
10月	【外部】3DソフトSKETCHUPを活用して生産性を上げる方法とテクニック～生産性を上げた事例と具体的なテクニックの紹介～
11月	【外部】ものづくり人材育成日本プロジェクトの取り組み
12月	【内部】産業界におけるX線検査とトレンド
1月	【内部】考え方を考える～「ガリキンガ」がうまくいかない理由～
2月	【内部】あらためて“学びカタ”を学ぶ “Again Learn how to lean”
3月	【内部】労働現場における作業環境測定について

○運営会@オンライン



1年やること決め大会をオンラインにて開催

○内部講師による勉強会



試行錯誤しながらWeb例会を開催

○外部講師による勉強会



オンラインでのディスカッションに挑戦



社会貢献活動グループ

- ・新型コロナウイルス感染症対策として3密防止
検温、マスク着用、アルコール消毒、換気等

○実施内容

時勢に合わせたテーマ「**遠隔通信を体験しよう！！**」

○2回開催

- 7/18・・・リハーサル(青年家族)
- 7/25・・・五日市中央公民館

【社会貢献活動の歩み】

○小学生向け理科教室

- 11年：はしめぐり
- 12年：いざという時、役立つ
ものをつくろう
- 13年：電気をしろう
- 14年：たべものの
不思議なちから
- 15年：つよさのヒミツ
- 16年：段ボール椅子をつくろう
- 19年：よく飛ぶ紙飛行機を作ろう
- 20年：遠隔通信を体験しよう！！

○尾道特別支援学校「感じる科学」

- 16年：空気のふしぎ
- 17年：浮かぶふしぎ
- 18年：いろを感じる
- 19年：飛ぶふしぎ
- 20年：新型コロナ感染防止により中止

○7/18 リハーサル(青年家族)



総勢19名、スタッフ(13)、子供(6)

○7/25 五日市中央公民館



総勢17名、スタッフ(11)、子供(3)、保護者(2)、公民館職員(1)

☆男女共同参画推進委員会、社会貢献委員会とコラボ



新企画・若手CPDグループ

- ・若手CPD行事、耐える企画は未実施。
- ・朝活は青年イベントの試作的な位置づけ

【2020年度実績】

○若手CPD事業・講演会

- ・2019年は2回実施
- ・2020年は実施なし

○耐える企画

- ・2018年は『滝行⇒冷たい！』
- ・2019年は『熱い！』
- ・2020年は『コロナに耐える！』

○朝活【青年イベントの試作的な位置づけ】

- ・5/31(土)新聞読書会
- ・6/27(土)パワボカラオケ
- ・8/ 9(日)プレゼン大会
- ・9/13(日)1日を+aにする会
- ・10/17(土)英語スピーチ倶楽部
「自己紹介と地元の紹介」
- ・12/ 6(土)英語スピーチ倶楽部(2)
「プラスチックに関わる環境問題」
- ・2/ 6(土) 英語スピーチ倶楽部(3)
「コロナに関する」
- ・4/10(土) 英語スピーチ倶楽部(4)
「情報通信技術との関わり」
- ・6/5(土) 英語スピーチ倶楽部(5)
「SDGs」

○若手CPD企画は未実施(2019年は2回実施)



○耐える企画も未実施



○朝活&リレーマラソン





国際グループ

- ・広島ベトナム協会との交流
- ・YAFEO CAFE0 in Jakartaへ参加。
- ・国際交流フェスティバル『ペあせろべ』参加。

【2019年度実績】

○広島ベトナム協会との交流

- ・4/6：広島ベトナム協会と合同のお花見会
- ・7/21：社会貢献リハーサル 広島ベトナム協会
- ・10/20：クリーン登山in宮島弥山
ものをつくろう
- ・11/17：国際フェスタ
- ・2/9：テトを祝う会⇒中止

○YAFEO CAFE0 in Jakarta

- ・9/10-15：中国本部からは
立山副委員長、金高さんが参加

○国際交流フェスティバル

- ・10/27(日):お酒の販売
工作プログラム作成

○4/6(土) 広島ベトナム協会と合同のお花見会



総勢38名：技術士会(21)、ベトナム協会(17)+子供

○9/10-15 YAFEO CAFE0 in Jakartaへ参加



○10/27(日)国際交流フェスティバル『ペあせろべ』参加



広報グループ テーマ

「新規会員の獲得及び交流促進による会の活性化」

1. 日常業務
 - (1)月刊技術士原稿募集
 - (2)行事予定掲載(統括Web、月刊技術士)
 - (3)Web管理
 - (4)FB管理
 - (5)ML管理
 - (6)新規会員勧誘
2. プロジェクト
 - ・テーマを決めて取り組み+αの取り組み

【2020年度実績】

○第3水曜日22:00～オンラインMtg

- ・4/15(水)：非公式Mtgプレストツール(Mural)
- ・5/20(水)：第5回オンラインMtg(Google Meet)
- ・6/18(水)：第6回オンラインMtg(Teams)
- ・8/19(水)：第7回オンラインMtg(ZOOM)
- ・9/16(水)：第8回オンラインMtg(Teams)
- ・10/22(水)：第9回オンラインMtg(Teams)
- ・11/19(水)：第10回オンラインMtg(Teams)
- ・12/24(水)：第11回オンラインMtg(Teams)
- ・1/20(水)：第12回オンラインMtg(ZOOM)
- ・2/17(水)：第13回オンラインMtg(Google Meet)
- ・3/17(水)：第14回オンラインMtg(Google Meet)

取り組み1：オンライン主体での活動

○オンラインツール



Skype : 4回
GoogleMeet : 1回

○進捗管理



1月から

○プレストツール



4月から

○情報共有ツール





広報グループ テーマ

「新規会員の獲得及び交流促進による会の活性化」

取り組み2：初めて例会に来た人向けに「はじめてセット」作成

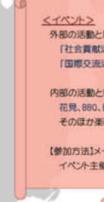
○会の概要説明

青年技術士交流会へようこそ

＜青年技術士交流会とは＞
青年技術士交流会(簡して青技交)は白粉 45 歳以下(気持ちがあれば OK!!)のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第 3 の交流の場です。



＜例会＞ 様々な分野の情報を収集、活用しよう!!
青技交の基本活動となる講演会が毎月第 2 水曜日に開催しています。



＜イベント＞ 楽しみながら、いろいろの体験をしよう!!
外部の活動として、社会とつながる大会に、「社会貢献活動」小中学生を対象にした理科教室の開催



＜交流＞ ともだち 100 人に、できるかな?
全国、海外のメンバーと交流を行っています。

＜メンバー＞
別冊の自己紹介名簿を見てね。名簿以外にも、たくさんのメンバーが活動しているので、同じ専門分野の人、同じ趣味の人など、一緒に交流しよう!!

Calendar table showing monthly activities and events.

【技術士のみならず、技術士を目指す方、
新しいことにチャレンジしたい方、ちょっと刺激が欲しい方に】
普段の生活では 得ることができない 経験や出会いの機会を!!
みなさんにとって役立つ情報や新しい考え方が得られるはず!!

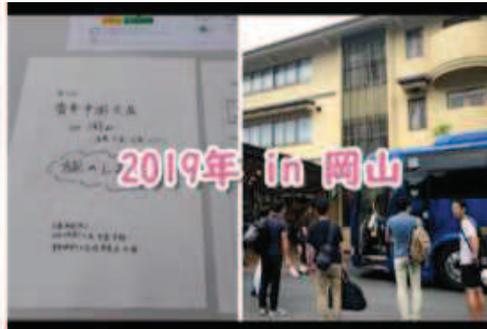
○メンバー紹介

Member introduction table with columns for name, address, and contact info.



中国5県の交流 青年中国大会

- ・年1回中国各県の持ち回りで開催
・2020年度は広島県呉市で開催予定でしたが、中止
・中国 5 県の各県本支部・県技術士会で活動中の青年技術士が web 交流会にて代替開催! 2021年もオンライン開催(T_T)



2020年8月22日
WEBを通じて再び集う
中国5県web交流会



**2021年度 中国本部 10期 新体制！！**今期活動方針 **「若い技術士および技術士を目指す人にとって、最高の自己実現の場を提供する」**

2021年度主な活動計画	時期
1. 例会・勉強会	毎月第2水曜日 7/14 講演会「チームビルディングの実態」
2. 社会貢献活動	7/24、7/31開催決定。
3. 新企画・若手CPD事業	オンライン朝活を中心に活動を継続 7月(予定)プログラミング教室
4. 国際交流活動	交流イベントは未定。 朝活英語スピーチ倶楽部は継続。
5. 広報	新規会員勧誘と交流を促進する活動を継続
6. 青年中国大会 in 広島	オンラインにて実施予定



【令和2年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすこと。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士としての幅広い能力向上
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流
- 【方針3】 地域との交流を通じた社会貢献

【活動方針1：青年技術士としての幅広い能力向上】

- 四国四県の特徴を活かしたセミナー・見学会を開催
- 科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施

1) 香川（2020. 9. 13実施：オンライン方式）

テーマ：『若手技術者の入門講座（地質編）～ジオ香川～』
講 師：香川大学教授 長谷川修一氏

2) 徳島（2020. 12. 12実施：オンライン方式）

テーマ：『グラフィックファシリテーション入門講座』
講 師：地方大学・地域産業創生交付金事業「次世代ひかりトクシマ」
ファシリテーター 玉有 朋子 氏

3) 高知（2021. 4. 17実施：オンライン方式）

テーマ：『カツオ、あなたが知っているのはその味だけですか？
—カツオ、カツオ言うたち、おまさんら知っちゅうかよ—』
講 師：高知新聞社 記者 八田大輔



【令和2年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

【オンライン方式での技術交流の模索】

①講演内容を踏まえた現地動画の配信

『若手技術者の入門講座（地質編）～ジオ香川～』では、講師からの講演に加えて、現場での説明動画を配信した。まず、講師には事前にご講演いただき、少人数で聴講するとともに、講演内容を録画した。後日、講演内容を踏まえて、香川県内の委員のみで現地を観察し、説明動画を作成した。交流会当日には、講師からの講演→実地動画の順に配信し、講演内容をより深く理解できるよう努めた。

課題：動画編集に掛かる委員の負担、動画の円滑な配信（当日は動画の動きが悪かった）

②オンラインでのよりよい交流の方法

『グラフィックファシリテーション入門講座』では、講師の指導の下、各自が演習に参加できる内容とした。参加にあたっては、紙とペンを用意してもらい、講演の中で実際にイラストを描いた。描いたイラストについては、各自端末のカメラを通じて紹介・共有することにより、参加者相互の交流を図った。また、質疑応答に「Jamboard」（オンライン上のホワイトボードで、コメントや画像等を共有できる）を使用し、多くの質問をいただいた。

課題：参加者の交流がより進む形態の検討（まだ、端末上での交流<リアル交流会での交流）



【令和2年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

【活動方針2：四国地域の青年技術士相互の交流】

➢ 委員同士の信頼形成、人脈拡大のための懇親会～現在リアル懇親会は休止中～



※写真は平成31年のものです。



※写真は令和元年12月のものです。

課題：お酒を伴う飲食会に匹敵するような交流方法の模索

【活動方針3：地域との交流を通じた社会貢献】

➢ 子供向け科学体験フェスティバルへの出展～現在休止中～



※写真は平成31年のものです。

課題：社会貢献活動の新たなネタ探し

【構成メンバー(2021.06.07時点)】

委員長：白鳥実

副委員長：佐藤悦史、中根久幸、松田秀和

委員：池田一郎、池谷聖、伊東輝博、
太田昌秀、大西真人、岡林弘憲、
片岡寛志、黒川修吾、曾我部潤、
谷野宮竜浩、土居範昭、長田朋大、
西沢尚之、西村紘寛、東豊一、
三谷康博

委員補佐：奥永哲也、面地琢也、
武市信



【令和3年度】活動予定

令和3年	4月	4月17日 第27回青年技術士交流会（オンライン方式） （実施済み）
	5月	
	6月	
	7月	7月末 第28回青年技術士交流会（オンライン方式） ⇒オンライン現場見学会を企画し、現在、映像編集集中
	8月	
	9月	
	10月	10月（予定） 第29回青年技術士交流会
	11月	
	12月	
令和4年	1月	1月（予定） 第30回青年技術士交流会
	2月	
	3月	



九州本部 2020年記録



現体制 2 年目 >>> 活動の充実と拡大の模索

研鑽



▲合格祝賀会(対面、ウェブ開催)。リアル参加は、やはり少ない。。

普及



▲技術士制度説明。未来の技術士育成は止めてはいけない。

交流



▲全国大会(代替)への参加。懇親会は小規模で。。

活動拡大



▲所属技術士の専門分野や趣味の紹介(他地域本部のパクリ)

月	計画	実績
隔月	定例会、研鑽会	5回実施
4	合格祝賀会(青年主催)	中止
6	拡大委員会	ウェブ参加
7	夏休み自由研究教室	中止
7	技術者サロン(統括)	ウェブ参加
9	ジオ香川	ウェブ参加
10	全国大会(代替イベント)	ウェブ参加
10	技術者サロン(九州)	中止
11	技術士制度説明(3大学、1高専)	対面、ウェブ開催
12	公開講演会	ウェブ参加
5	合格祝賀会	対面、ウェブ開催

九州本部 2021年計画



新体制へ >>> 山田新委員長に

区分		2020		2021	
グループ	役職	メンバ	備考	メンバ	備考
運営	委員長	松永 貴寛		山田 暁通	
	副委員長	永岩 研一		永岩 研一	
	副委員長			松永 貴寛	老兵は去ります。
研鑽	幹事	金丸 泰久		渡辺 剛	
	副幹事	山田 暁通		並松 功一	
	副幹事	渡辺 剛			(涙)
	副幹事	並松 功一			(涙)
交流	幹事	大川 至		大川 至	
	副幹事	首藤 久宣		首藤 久宣	
普及	幹事	大森 和範		大森 和範	
	副幹事	松原 恭博		松原 恭博	



祝賀会で決意表明する山田新委員長

> 合格祝賀会実施(5/29)で、新規合格者の加入がでており、発展の兆しが。
 > リアルでの活動のため、コロナ終息を祈っています。

活動年鑑 16
青年技術士交流委員会